Cayman S

取扱説明書

お客様各位

この度は、ポルシェのニュー・モデル、ケイマンSをご購入いただき誠にありがとうございます。

このモデルをお選びになるお客様は、非凡であることに興味をお持ちでしょう。

また、個性的であることの真価をご理解されている方です。

ポルシェが生み出したニュー・モデル、ケイマンSはそのようなお客様にぴったりのクルマです。

独創性を感じるクルマ…それがケイマンSです。

優れたコンセプトは、説得力を持っています。

6気筒ボクサー・エンジンをミッド位置に搭載する純粋なスポーツ・クーペ。

それはまさしく…ダイナミックな運動性能と切れ味の良いハンドリングがここに実現されました。

エクステリアのデザインもまた、ケイマンSの独創的なキャラクターを映し出しています。

その特徴的で滑らかな曲面のボディは、無機質な曲線とは全く異なり、溢れるパワーを力強く表現しています。

妥協を知らないケイマンS。もう一つの特徴は優れた実用性です。
日常での使いやすさを実感できるスペースの広さと収納コンセプトには、きっとご満足いただけます。

ポルシェ・ケイマンSについて、知っておくべきこと、また心に留めておくべきことは、全てこの取扱説明書に記載されております。

別冊の整備手帳には、お客様がお車をポルシェ正規販売店で整備を行っていただく上で、有益な情報が盛込まれています。

お客様のポルシェは、世界中でアフターサービスを受けることができます。

保証期間が終了した後も、推奨された間隔で整備を受けることをお薦め致します。ポルシェ正規販売店でサービスを受けると、品質が保たれるだけではなく、再販価格や下取り価格がいっそう有利なものになります。

さて、お客様へのメッセージはここまでです。
それではポルシェの世界を満喫するための旅にお出かけください。

どこに向かうのか…それはお客様の手に委ねられています。
その道のりは、どこまでも独創的です。
私たちはお約束します。

こころを込めて。

ポルシェ ジャパン株式会社
Dr.Ing.h.c.F.Porsche AG

WKD 987 670 **06** 6/05

Printed in Japan

車載マニュアル

取扱説明書など、車内に装備されている印刷物は常に備えておき、お車を売却される場合には、次の購入者にお渡しください。

装備について

当社の製品については絶えず開発作業をつづけているため、装備品および仕様が本マニュアル掲載または記載の内容と異なることがありますのでご了承ください。

オプション装備品や、国や法的基準によって本マニュアルの記載内容と異なっている場合があります。

本マニュアルに記載した一部の装備品はオプションです。オプション装備品の後付けについては、ポルシェ正規販売店にご相談ください。お車の装備品で本マニュアルに記載のないものについては、ポルシェ正規販売店にご相談いただければ、操作とメインテナンスに関するご説明を致します。

国によって法的基準が異なりますので、お車の装備品が本マニュアルの記載内容とわずかながら異なっている場合があります。

ご質問・ご提案

車両、マニュアルに関するご質問、ご提案等ございましたら、下記までご連絡ください。

〒153-0064
東京都目黒区下目黒1-8-1
アルコタワー16F
ポルシェ ジャパン株式会社
アフターセールス部サービスグループ

目次

各章の目次には、項目とページ番号が記載されています。

さく引

巻末にさく引（あいうえお順）を用意しましたので、お読みになりたい項目を直接探すときにご利用ください。

ガソリンの品質

エンジン性能と燃費を最大限に高めるため、ガソリンは**無鉛プレミアムでオクタン価が98RON／88MON**のものを使用してください。

オクタン価が95RON／85MONの無鉛プレミアム・ガソリンを使用した場合は、エンジン・ノック調整システムが自動的に作動し、イグニッション・タイミングを調整します。

タイヤ空気圧（冷間時）

サマーおよびウィンター・タイヤ

18インチ・タイヤ	前輪	2.0bar（29psi）
	後輪	2.5bar（36psi）
19インチ・タイヤ	前輪	2.2bar（32psi）
	後輪	2.5bar（36psi）

これらのタイヤ空気圧はポルシェ社が認可したタイヤのみに適用されます。

▷ 必ず「タイヤとホイール」（185ページ）に記述されている指示に従ってください。

▷ 「TPMタイヤ空気圧モニタリング・システム」（91ページ）を参照してください。

指定のタイヤとホイールのサイズは広範囲のテストを元に認可されているものです。最新の認定タイヤについてはお気軽に最寄りのポルシェ正規販売店までお問い合わせください。

指定外のタイヤおよびホイールを装着した場合、安定した走行に影響が出る恐れがあります。

環境保護について

環境保護の手引き

ポルシェ社は、環境に優しく安全性に優れた技術と、人を引きつける強い魅力を合わせ持つ、他に類のない車両を開発、製造しています。

ポルシェ社の環境保護の方針は、次の信念に基づいています。

— 環境保護と安全性の技術を可能な限り使用します。

— エネルギーと資源を節約します。

— 関連業者にもポルシェ社の環境保護の取組みに参加してもらいます。

— すべての社会団体と対談を行います。

製品

製造や修理において、ポルシェ社は常に環境に優しい技術を採用しています。水性ペイントなどがその例です。水性ペイントと新しい塗装方法によって、溶剤の放出が70%削減されます。また、塗装で使用される水は、循環されています。排水は、適切な処理が施された後で、工場から排出されます。

廃棄物管理計画を導入し、廃棄物の量を減少させるとともに、再生利用の割合を増加させています。

環境に優しい車

最新の環境保護技術により、世界中すべての排出ガス規制に適合しています。

触媒コンバータの特徴

— 触媒コンバータが素早く作動状態になるため、短距離の走行でも排気ガスが低減されます。

— 長期にわたり、信頼性のある作動と排気ガスの制御が保たれます。

環境に優しい運転

運転を楽しみながら、環境に配慮することも可能です。
以下の点に注意していただくと、騒音や燃料消費量を抑えることができます。

▷ 常に燃料消費量を確認してください。

▷ 必要な時以外はエンジン暖機のためのアイドリングは避けてください。

▷ アクセルを一杯に踏込まないでください。状況にあわせて高いギヤにシフトしてください。

▷ 信号待ちや渋滞などで比較的長い間停車する場合は、エンジンを停止してください。

▷ 必要でないアクセサリは電源を切ってください。

▷ 定期的にタイヤ空気圧を確認してください。

▷ エアコンは必要時のみお使いください。

▷「整備手帳」に定められた期間に従って点検を受けてください。

運転の際には、エンジン回転数が低いほど燃料消費量および騒音が減少することを念頭においてください。

リサイクル

現在までに製造された全ポルシェ車の3分の2以上がまだ現役です。

ただ、万一リサイクルが必要になった場合に備えて、次の対策がとられています。

— リサイクルを考慮して設計しています。

— すべての素材を識別できるようにしてあります。

— リサイクル可能な素材を使用しています。

— 再使用可能な部品は容易に取外せるように設計しています。

排ガス制御を採用しています

高いエンジン性能と環境保護を両立させたエンジン技術を導入しています。

エンジン診断システムは、排気ガスに関係する部品とシステムを電子的にモニタしています。

この継続的なモニタと不具合の記録によって、迅速で信頼性のある診断と不具合の検知を可能にしています。

不具合は、エミッション・コントロール警告灯とオンボードコンピュータによって示されます。

⚠ セーフティ・ノート

▷ 部品交換やアクセサリー取り付けには、ポルシェ純正部品、またはポルシェ社が承認した規格、性能を有した同等品をご使用ください。これらアイテムはポルシェ正規販売店にご注文ください。とくに安全に関わる部品はポルシェ・テクイップメント製品、またはポルシェ社によってテスト、認可された部品以外は使用しないでください。詳しくはポルシェ正規販売店にお問い合わせください。
ポルシェ純正部品、またはポルシェ社が承認した以外の部品やアクセサリーの使用は、お車に悪影響を及ぼす恐れがあります。この結果として生じた損害、損傷に対してポルシェ社は責任を負いかねます。
アフター・マーケット製品は膨大な数にのぼるため、ポルシェ社がそれらすべてをテスト、承認することはできません。したがって有名メーカー製の部品やアクセサリーであっても、お車になんらかの影響を与えないとは言い切れません。

▷ ポルシェ純正部品またはポルシェ社が承認した部品やアクセサリー以外の使用は、お車の保証に対しても好ましくない影響を招く恐れがありますのでご注意ください。

▷ スポイラーやボディ・アンダーパネルなどのエアロ・パーツの損傷や欠落は、走行安定性に悪影響をおよぼします。定期的に点検し、損傷、欠落を発見した場合は速やかに修理を受けてください。

フィルムおよびカバー

▷ ヘッドランプやエア・インテーク部分をフィルムまたはストーン・ガードなどで覆わないでください。温度が高くなり過ぎて損傷する恐れがあります。

ヘッドランプは温度や湿度によって曇る場合があります。

▷ 最適な換気を行うために、ヘッドランプと車体の隙間にカバーをしないでください。

改良技術

ポルシェ社によって承認された場合にのみ、改良が行われます。
これにより、お客様のポルシェ車は運転の信頼性と安全を確保し、損傷を防ぐことになります。
ポルシェ正規販売店がご相談をお受け致します。

運転時の装備の設定および操作

⚠ 警 告

事故を起こす恐れがあるので、運転中にオンボードコンピュータ、ラジオ、ナビゲーション・システム、電話等の操作や設定を行わないでください。
運転以外に気をとられ、車両のコントロールを失う恐れがあります。

▷ 運転中に装備を操作する場合は、安全に操作できる交通状況のときのみ行ってください。

▷ 複雑な操作や設定は車両が停止した状態で行ってください。

サーキット走行

レース用タイヤ

サーキット走行時などにレース用タイヤ（スリックタイヤなど）を装着しないでください。レース用タイヤを装着することにより、高いコーナリング・フォースが発生するため、オイルがエンジン内部に完全に行き渡らず、エンジンを損傷する恐れがあります。また、このような場合ポルシェ社はいかなる保証の付与また、責任を負うことを致しません。

ポルシェ・セラミック・コンポジット・ブレーキ（PCCB）

この高性能ブレーキ・システムは、すべての速度域および温度下で、最適の制動効果が得られるように設計されています。

特定のスピード、ブレーキ力や車輌を取り巻く環境（気温、湿度等）によりブレーキ鳴きが発生する恐れがあります。

ブレーキ・パッドやブレーキ・ディスクなどのブレーキ・システムおよび関連部品の摩耗は、個人の運転スタイルや使用状態に大きく左右されます。したがって、摩耗の程度を実際の走行距離数で表すことはできません。

ポルシェ社が使用している数値は、交通状況に合わせた通常の操作に基づいています。サーキット走行や過激な運転スタイルは、摩耗を相当程度に促進させます。

▷ 車両をサーキット走行などに使用される場合は、ポルシェ正規販売店に現在のガイドラインについてお問い合わせください。

地上高

⚠ 注 意

車高が低いため、車両が路面と接触して損傷する恐れがあります。

▷ 立体駐車場の入り口などの急坂、縁石、不整路、作業リフトへの乗り入れでは、低速で慎重に運転してください。

▷ 急傾斜の路面での走行は避けてください。

▷ 地上高が低くなっていますので、けん引時または他の車にけん引されているときは、十分に注意してください。

安全にお使いいただくために

お出かけの前に

安全のため、お出かけの前に次の点検を行ってください。

▷ タイヤの空気圧および状態は正常ですか？

▷ ヘッドランプ、テールランプ、方向指示灯のレンズ、およびウィンドウは汚れていませんか？

▷ ヘッドランプ、ブレーキ・ランプおよび方向指示器は、イグニッション・スイッチONの状態で正常に作動しますか？

▷ エンジンを停止した状態で、イグニッション・スイッチをONにした場合に、各種警告灯が正常に作動しますか？

▷ ガソリンは十分ありますか？

▷ ルーム・ミラーおよびドア・ミラーは、後方がきちんと確認できる位置にありますか？

▷ 運転者、同乗者共にシートベルトを締めていますか？

▷ 各種オイル・レベルは、指定された点検時期以外でも、定期的に点検するようにしてください。

慣らし運転

エンジンの性能を最高の状態に高めるために、慣らし運転をお薦め致します。
最新鋭の精密な製造技術をもってしても、作動部分が馴染むために摩滅するのを完全に防ぐことはできません。この摩滅は主に最初の3000kmまで起こります。

従って、走行距離が3000kmに達するまでは、次の事に注意してください。

▷ なるべく長距離運転を行ってください。

▷ 冷間始動および短距離運転の繰り返しは避けてください。

▷ 自動車レース等に参加しないでください。

▷ エンジン回転数を高回転域まで上げないでください。エンジン冷間時には特に気を付けてください。

オイルおよび燃料消費量

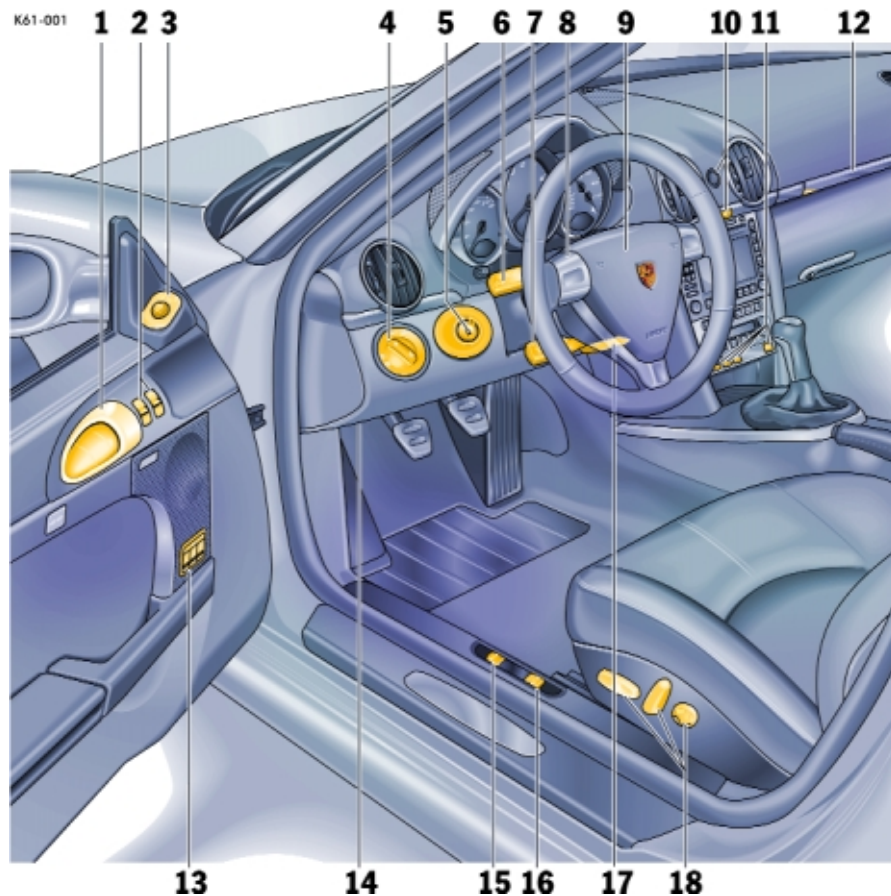
このため慣らし運転中は、オイルおよび燃料の消費量が通常の場合よりも若干多くなります。

「テクニカル・データ」（228ページ）を参照してください。

新しいブレーキ・パッドおよびブレーキ・ディスクの慣らし方

新しいブレーキ・パッドおよびブレーキ・ディスクもエンジンと同様に慣らしをお薦め致します。最初の数百kmはブレーキ性能がフルに発揮されません。このときは、わずかながらブレーキの効きが減少するので、通常よりも少し強めにペダルを踏む必要があります。ブレーキ・ディスクを新しいものと交換した場合も同様に慣らしが必要です。

新しいタイヤの慣らし方

▷ 新しいタイヤは、最初はそのグリップ性能を十分に発揮できませんので、ご注意ください。従って、始めの100kmから200kmの間は、ゆっくりしたスピードで慣らしてください。

1 インナー・ドア・ハンドル
2 パワー・ウィンドウ・スイッチ
3 ドア・ミラー調節
4 ランプ・スイッチ
5 イグニッション・スイッチ／ステアリング・ロック
6 方向指示器／ロービーム／パッシング・レバー
7 オンボードコンピュータ操作レバー
8 ティプトロニック車：ティプトロニック・ロッカー・スイッチ
9 ホーン
10 ハザード・ランプ・スイッチ／セントラル・ロッキング・ボタン
11 各スイッチ：格納式スポイラ／ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント（PASM）／スポーツ・モード／ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）
12 カップホルダ
13 シート・メモリー・ボタン
14 故障診断用ソケット
15 フロント・トランク・リッド・リリース
16 リア・リッド・リリース
17 ステアリング調節
18 シート前後調節

キー

お車には2本のメイン・キーと1本のスペア・キーが付属しています。これらのキーを使用して、全てのロックを操作することができます。

▷ キーの取扱いには十分注意してください。：キーは放置しないでください。

▷ キーの紛失や盗難にあった場合やスペア・キーを作ったりキーを交換した場合は、ご契約された保険会社にお知らせください。

▷ たとえ短い時間でも、お車を離れるときはキーを抜いてください。

緊急操作

▷ 「緊急操作―イグニッション・キーの抜取り」（15ページ）を参照してください。

新しいキーの入手

新しいキーはポルシェ正規販売店でお求めいただくことができます。
新しいキーを入手するには大変時間がかかるので、スペア・キーを常に携帯されることをお薦め致します。スペア・キーは安全な場所（財布の中など）に携帯し、決して車内に置かないでください。

新しいキーのコードはポルシェ正規販売店でかならず車両コントロール・ユニットに登録してください。

最大で6本のキーを登録することができます。

キー・コードの無効

キーを紛失した場合は、ポルシェ正規販売店に連絡してください。キー・コードを無効にすることができます。コードを無効にするには、残りの全てのキーが必要になります。
紛失したキーのコードを無効にすると、新しく設定したキーでのみエンジンを始動することができます。

知識：

▷ 無効にしたキーでも、キー・シリンダーでドアのロックを解除できるので、注意が必要です。

イモビライザー
（キー内蔵型盗難防止装置）

キーのグリップ部に、コードを記憶した発信器（トランスポンダー）が内蔵されています。イグニッションをONにすると、イグニッション・スイッチがコードを照合します。あらかじめ設定されているキーによってのみ、イモビライザーのセットを解除してエンジンを始動することができます。

イモビライザー解除

▷ 「イグニッション・スイッチ／ステアリング・ロック」（64ページ）を参照してください。

▷ イグニッション・スイッチにキーを差込むと自動的に解除されます。

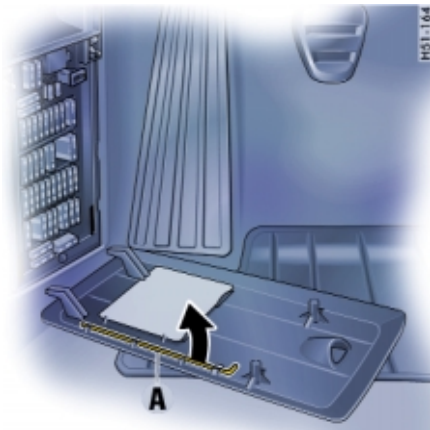
イグニッションをONにしたまま2分以上経過すると、イモビライザーが再びセットされます。

▷ 再びセットされた場合、エンジンを始動するときにはイグニッション・キーを一度**3**の位置（イグニッションOFF）に戻す必要があります。

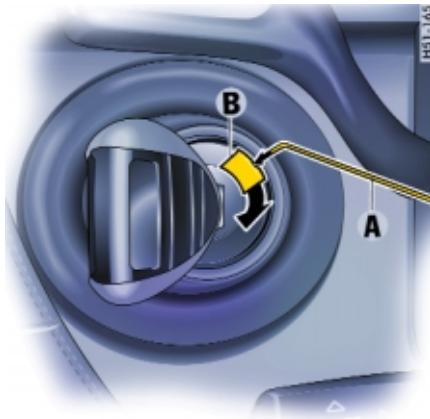
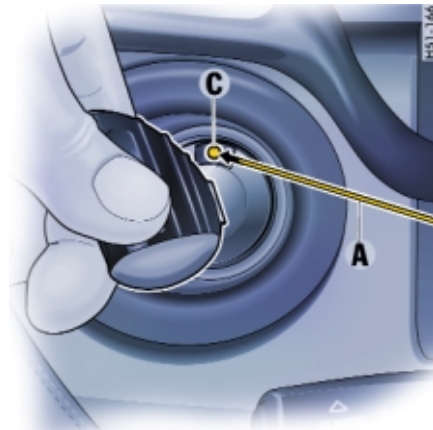
イモビライザー作動

▷ イグニッション・キーを抜くと、イモビライザーは自動的にセットされます。

セキュリティ・ホイール・ボルト

▷ 整備工場でホイールを取外さなければならないときは、車のキーとともにセキュリティ・ホイール・ボルトのソケットを渡すのを忘れないでください。

緊急操作ーイグニッション・キーの抜取り

車両のバッテリが上がった場合等、緊急操作を実行すると、イグニッション・スイッチからキーを抜取ることができます。

1. ヒューズ・ボックス・カバーを取外します。
2. ヒューズ・ボックス・カバーの内側にあるメタル・フック**A**を取外します。
3. メタル・フック**A**を使用して、イグニッション・スイッチからプラスチック・カバー**B**を取外します。

   取外したプラスチック・カバー**B**は紛失しないように十分注意してください。
4. イグニッション・キーを反時計方向に回します。
5. 開口部**C**にメタル・フック**A**を解除音が聞こえるまで押込みます。
6. イグニッション・キーをロック位置**0**に回し、キーを抜取ります。
7. プラスチック・カバー**B**を取付けます。

A - *メイン・キー*
1 - *セントラル・ロッキング・ボタン*
2 - *フロント・トランク・リッド・ボタン*
3 - *リア・リッド・ボタン*
4 - *発光ダイオード*
B - *スペア・キー*

リモート・コントロール付きキー

ドアのロック解除

▷ ボタン**1**を短く押します。

ドアをロックする

▷ ボタン**1**を短く押します。

不意に作動した場合の警報システムのセット解除

▷ ドア・ロックをリモート・コントロールで解除します。

フロント・トランク・リッドのロック解除

▷ ボタン**2**を約2秒間押します。

リア・リッドのロック解除

▷ ボタン**3**を約2秒間押します。

車両ドアがロックされている場合でも、ボタン**2**または**3**を押すとフロント・トランク・リッドまたはリア・リッドのロックが解除されます。同時にドアもロック解除されます。シート・メモリー装着車の場合は、記憶されたシート位置およびドアミラー位置が自動的に調節されます。
フロント・トランクおよびリア・リッドを閉じた後、いずれのドアも開かれなかった場合、約15秒後に車両ドアが再ロックされます。
再ロックの後には、インナー・ドア・ハンドルでドアを開くことができます（盗難防止装置は解除されます）。
リモート・コントロールのボタン**1**を使用して車両ドアのロック解除後ロックを行うと、インナー・ドア・ハンドルでドアを開くことができません。

知識：

ポルシェ正規販売店にてセントラル・ロッキング・システムのコントロール・ユニットをプログラムすることで、フロント・トランクおよびリア・リッドのロック解除のタイプをより細かく設定することができます。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

タイプ1
ドアの再ロックの時間を4秒から120秒の間で任意に設定することができます。

タイプ2
フロント・トランク・リッドまたは、リア・リッドのロックが解除されてもドア・ロックを継続します。

7日後のリモート・コントロール・スタンバイ機能OFF

7日間始動しないとリモート・コントロール・スタンバイ機能がOFFになります(バッテリ放電防止のため)。

1. この場合、運転席ドアのロック解除はドア・ロックにキーを差込んで行ってください。アラーム・システムを起動させないようにドアは閉めたままにします。
2. リモート・コントロールのボタン**1**を押すと、リモート・コントロール機能は再び作動します。

セントラル・ロッキング

▷「シート・メモリー」(34ページ)を参照してください。

▷「2時間後または7日後の作動停止」(198ページ)を参照してください。

リモート・コントロールのボタン**1**を使用することによって、セントラル・ロッキング・システムが、両方のドアとフィラー・カバーのロック/ロック解除を行います。

▷「パワー・ウィンドウ」(24ページ)を参照してください。

助手席ドア、フロント・トランク・リッド、リア・リッド、グローブ・ボックスが完全に閉じていない場合、ロックする際に短い**警告音**が鳴ります。

運転席ドアを完全に閉じていない場合、車両をロックすることはできません。

自動再ロック

リモート・コントロールでドアのロック解除を行った後、60秒以内にいずれのドアも開かれなかった場合、自動的に再ロックされます。ただしインナー・ドア・ハンドルで開くことによって解除することができます。

ポルシェ正規販売店にて自動再ロックの時間を4秒から120秒の間で任意に設定することができます。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

知識:

自動再ロックの後、インナー・ドア・ハンドルを2回引くとドアを開くことができます(警報システムのみ作動します)。

リモート・コントロールのボタン**1**でロックを解除した後、再度ロックすると、車内からドアを開くことができなくなります。

ロックの作動

⚠ 警 告

ロックを**1回**行うと、車外、車内のどちらからもドアを開くことができなくなります。緊急の場合でも、車内から開くことができませんので、十分注意してください。

▷ リモート・コントロールのボタン**1**をすばやく(約1秒以内に)**2回**押すと、車内からインナー・ドア・ハンドルを引いてドアを開くことができます。

▷ リモート・コントロールのボタン**1**を**1回**押してロックすると、車外、車内のどちらからもドアを開くことができなくなります。警報システムと室内モニタリング・システムがONになります。

▷ リモート・コントロールのボタン**1**をすばやく(約1秒以内に)**2回**押すと、ドアはロックされ警報システムのみONになり、室内モニタリング・システムは作動しません。車内からインナー・ドア・ハンドルを引いてドアを開くことができます。

1. インナー・ドア・ハンドルを1回引くとドア・ロックが解除されます。
2. インナー・ドア・ハンドルをもう1回引くとドアが開きます。

▷ このときドアを開くと、警報が鳴ります。車内に残す人にこのことを告げてください。

緊急時の操作ードアを開く

▷ ドア・ロックにキーを差込んで運転席ドアをロック解除します。
次に20秒以内にドアを開き、警報システムが作動しないように10秒以内にイグニッションにキーを差込んでください。

知識：
約20秒以内にドアを開かなかった場合、自動的にロックが作動します。次回ドアをロック解除したときに、警報システムが作動します。

▷ 警報システムを解除するには、イグニッション・スイッチにキーを差込みます。

緊急時の操作ードアを閉じる

▷ ドア・ロックにキーを差込んでロックします。
セントラル・ロッキング・システムに不具合がある場合、緊急作動によってセントラル・ロッキング・システムの全ての機能をロックします。警報システムがONになり、室内モニタリング・システムがOFFになります。

▷ 不具合はポルシェ正規販売店で直ちに修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店での実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

リモート・コントロールの作動不良

使用地域の電波の状況により、リモート・コントロールが正常に作動しないことがあります。この場合は、ドアがロックされません。
ドアが正常にロックされたかどうかは、ドア・ロックの作動音と、ハザード・ランプの点滅で確認できます。

▷ リモート・コントロールでロックできないときは、ドア・ロックにキーを差込んでロックしてください。

ハザード・ランプによる合図

リモート・コントロールによってドアのロックまたはロック解除を行うと、ハザード・ランプが点灯します。

- ロック解除ー1回点滅
- ロック1回ー2回点滅
- ロック2回ー約2秒間点灯

セントラル・ロッキング・ボタン

ダッシュ・ボードにあるセントラル・ロッキング・ボタンを押すと、自動的に両方のドアがロックされます。
ドアがキーやリモート・コントロールで外側よりロックされている場合には、セントラル・ロッキング・ボタンでロック解除することはできません。

ロック

▷ セントラル・ロッキング・ボタンを押してください。イグニッション・スイッチONの時にはインジケータ・ランプが点灯します。
ドアを開く場合は、インナー・ドア・ハンドルを2回引くことでロックが解除されます。

ロック解除

▷ セントラル・ロッキング・ボタンを押してください。インジケータ・ランプが消灯します。

オートマチック・ドア・ロック・システム

ポルシェ正規販売店にて下記のオートマチック・ドア・ロック・システムの設定を行うことができます。

スピードが5-10Km/hを超えると自動的にロック。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

スポーツ・クロノ・パッケージ・プラス装着車では、PCMを使用してオートマチック・ドア・ロック・システムを作動させることができます。＊

▷ PCM取扱説明書＊の「個別メモリー」を参照してください。

知識：

オートマチック・ドア・ロック・システムによってロックされたドアは、セントラル・ロック・ボタンによって解除するか、内側からハンドルを2回引くことによって解除されます。

不具合表示

ロックを行っているときにホーンが2回鳴った場合は、セントラル・ロッキング・システムか警報システムに不具合があることを示しています。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

オーバーロード・プロテクション

セントラル・ロッキング・システムを1分以内に10回以上作動させると、30秒間操作できなくなります。

＊日本仕様に設定はありません。

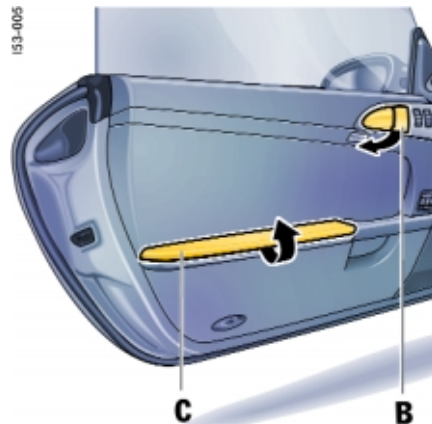
ドア

ドアを開くと、閉じていたドア・ウィンドウが自動的に数ミリ開き、ドアを閉じると、再び閉じます。この動きにより、ドアの開閉をしやすくし、またシールも保護しています。

したがって、ドア・ハンドルを引くときはゆっくりと引いてください。するとドアが開く前にドア・ウィンドウが開きます。

車外からドアを開く

▷ リモート・コントロール・ボタン**1**でドアをロック解除します。

▷ ドア・ハンドル**A**をゆっくり引きます。するとドアが開く前にドア・ウィンドウが開きます。

車内からロック解除したドアを開く

▷ ドア・ハンドル**B**をゆっくり引きます。するとドアが開く前にドア・ウィンドウが開きます。

車内からロックされたドアを開く

▷ ドア・ハンドル**B**をゆっくり2回引きます。

▷ 「ロックの作動」（17ページ）を参照してください。

ドア・ポケット

ドア・ポケットを開く

▷ ドア・ポケットのカバーを開きます。

安全上の理由から、走行中はドア・ポケットのカバー**C**をかならず閉じてください。

盗難を防止するために

お車を離れるときは、かならず次のことを守ってください。

▷ 窓を閉めてください。

▷ イグニッション・キーを抜いてください。

▷ センター・コンソールのグローブ・ボックスおよび小物入れをロックしてください。

▷ 貴重品、車両書類、電話、家のキーなどを車内に残さないでください。

▷ グローブ・ボックスをロックしてください。

▷ ドアをロックしてください。

A - *警報システムの発光ダイオード*

警報システム、室内モニタリング・システム

ドアがキーやリモート・コントロールでロックされると、警報システムと室内モニタリング・システムが自動的にONになります。

▷ 「セントラル・ロッキング」(17ページ)を参照してください。

室内モニタリング・システムの作動を妨げないために：

▷ シート・バックレストを前方に倒さないでください。

不意に作動した場合の警報システムのセット解除

▷ ドア・ロックをリモート・コントロールで解除します。

ドアロックを解除すると警報システムと室内モニタリング・システムが自動的にOFFになります。

機能表示

警報システムがONになると、ダッシュボードの発光ダイオード**A**が点滅します。

ロック後に、発光ダイオードが点滅しなかったり、10秒経過した後でもダブル・フラッシュのままの場合は、警報システムが完全にセットされていないことを示しています。また、短い警告音も発せられ、ルーム・ランプが2秒間点灯します。

ドアがロックされていないとき、発光ダイオードは消灯します。

以下のコンポーネントがモニタされます。

— ドア
— フロント・トランク・リッド
— リア・リッド
— グローブ・ボックス
— 室内

上記の警報接点のうち、1つでも中断された場合は、警告音が約30秒間鳴ります。同時に、室内灯とハザード・ランプが約5分間点滅します。警報システムが起動すると、発光ダイオードがダブル・フラッシュを開始します。

一時的な室内モニタリング・システムのセット解除

人やペットを車内に残してロックする場合は、室内モニタリング・システムをOFFにしてください。

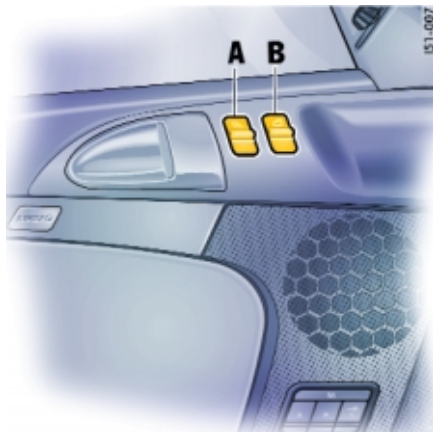
▷ リモート・コントロールのボタン**1**をすばやく（約1秒以内に）**2回**押します。
ドアはインナー・ドア・ハンドルを操作して**車内から開く**ことができます。

1. インナー・ドア・ハンドルを1回引くと、ドアがロック解除されます。
2. インナー・ドア・ハンドルをもう1回引くと、ドアが開きます。

▷ このときドアを開くと、警報が鳴りますので、車内に人を残す場合は、ドアを開けた時にアラームが作動する事を告げてください。

不具合表示

ロックを行っているときに**ホーンが2回鳴った**場合は、セントラル・ロッキング・システムまたは警報システムに不具合があることを示しています。

▷ 不具合はポルシェ正規販売店で直ちに修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

A パワー・ウィンドウ・スイッチ（運転席側）
B パワー・ウィンドウ・スイッチ（助手席側）

パワー・ウィンドウ

⚠ 警 告

パワー・ウィンドウを閉じる場合は、十分注意してください。特にワンタッチ作動で閉じる時は十分に注意してください。怪我をする恐れがあります。

▷ パワー・ウィンドウを操作する場合は、同乗者が怪我をしないように十分注意してください。

▷ お車を離れるときは、必ずキーを抜いてください。
お子様などがパワー・ウィンドウを操作して怪我をする恐れがあります。

▷ お子様を残して、お車から離れないでください。

パワー・ウィンドウの作動条件

— イグニッション・キーが“イグニッションON”のポジションのとき。（エンジンはONまたはOFF）**または**

— イグニッション・キーを抜取ってから10分以内の間。

ドア・ウィンドウのワンタッチ閉作動は、イグニッション・スイッチがONの時にのみ可能です。

ウィンドウの開閉

▷ 運転席側ドアのロッカー・スイッチ2個および助手席側ドアのスイッチは2段階の機能を備えています。

ロッカー・スイッチによるウィンドウ開作動

▷ ロッカー・スイッチを1段目まで押し下げて、ウィンドウを希望の位置まで開くことができます。

ロッカー・スイッチによるウィンドウ閉作動

▷ ロッカー・スイッチを1段目まで押し上げて、ウィンドウを希望の位置まで閉めることができます。

ワンタッチ作動

▷ ロッカー・スイッチを2段目まで押し下げるまたは押し上げると、ウィンドウは全開または全閉位置まで作動します。

希望の位置でウィンドウを止める場合には、もう一度ロッカー・スイッチを押します。

車両のロック解除時のウィンドウの自動オープン

▷ リモート・コントロールのボタン**1**を2秒以上押すとウィンドウを開くことができます。

車両のロック時のウィンドウの自動クローズ

▷ リモート・コントロールのボタン**1**を2秒以上押すとウィンドウを閉めることができます。

知識：
ウィンドウが閉じるときに強い抵抗を感じるとウィンドウが数cm下がり挟み込みを防止します。

ウィンドウが抵抗を感じて10秒以内にロッカー・スイッチを再度押した場合は、この機能は**作動せず**、ウィンドウは最大の力で閉じます。

⚠ 警 告

ロッカー・スイッチを、ウィンドウが抵抗を感じて10秒以内に再度押すと、ウィンドウは最大の力で閉じようとしますので注意してください。**怪我をする恐れがあります**。

▷ 安全のため、挟まれることのないように十分注意をしながら操作してください。

その作動の後、10秒間はワンタッチ作動によるウィンドウの操作は行えません。

ウィンドウの自動開閉機能

▷ 「ドア」（20ページ）を参照してください。

パワー・ウィンドウへの10分後の電源供給の遮断

車両がロック解除されてから10分間経過すると、パワー・ウィンドウへの電源供給は遮断されます（バッテリの放電防止のため）。パワー・ウィンドウを使用するときはイグニッションをONにするか、エンジンを作動させてから操作してください。

ドア・ウィンドウ停止位置の記憶

バッテリ切り離し後、ドア・ウィンドウの停止位置は消去されます。したがって、ウィンドウのワンタッチ作動は解除されます。すべてのドアに対して、以下の操作を行なってください。

1. ロッカー・スイッチを**1度**押して、ウィンドウを全閉位置にします。
2. 再度ロッカー・スイッチの前側を上方に押すと、ウィンドウの位置が記憶されます。

ルーム・ミラー

ルーム・ミラーは平面鏡です。

ミラーを調整するとき、防眩機能のレバー**A**を前方に向けてください。

基本位置ーレバーは前方

防眩位置ーレバーは後方

自動防眩ミラー（ルーム・ミラー、運転席側ドア・ミラー）

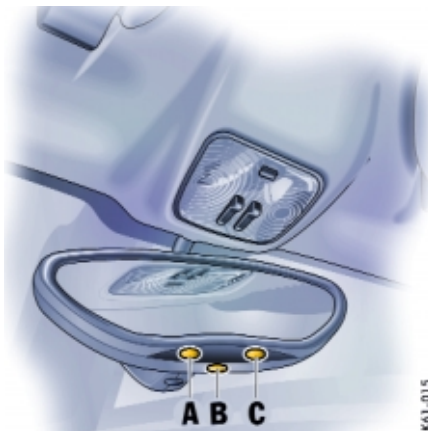
ルーム・ミラーの前後に取付けられたセンサが、ミラーに投射する光を測定します。光の度合に応じてミラーは自動的に暗くなったり、明るくなったりします。
リバース・ギヤが選択されているときは、自動防眩機能は作動しません。

知識：
センサの感知を妨げるステッカーなどをフロント・ウィンドウに貼らないでください。

自動防眩OFF：

▷ 自動防眩操作スイッチ**B**を押します。
　発光ダイオード**C**が消灯します。

自動防眩ON：

▷ 自動防眩操作スイッチ**B**を押します。
　発光ダイオード**C**が点灯します。

A - *センサ*
B - *自動防眩操作スイッチ*
C - *発光ダイオード*

⚠ 警 告

自動防眩ミラーのガラスが破損すると防眩機能の液体が流れ出すことがあります。この液体はものを腐食させる性質がありますので、皮膚や目に直接触れないように十分に注意してください。

▷ 液体が目や皮膚に触れた場合は、速やかにきれいな水で洗い流し医師の診断を受けてください。

車の塗装面、レザー部分やプラスチック部に液体が垂れると、損傷する恐れがあります。液体が乾かないうちに、速やかに洗浄してください。

▷ 水または湿らせたウエスで洗浄してください。

ドア・ミラー

ドア・ミラーは、視野が広くなるよう助手席側は凸面、運転席側は非球面になっています。

⚠ 警　告

ドア・ミラーは映る車や物が実際の大きさより小さく、距離が離れているように見えますので十分注意してください。思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ 後続車との距離を判断する場合や、駐車時に後退する場合は十分注意してください。

▷ 距離を判断する場合は、ルーム・ミラーも併用してください。

ドア・ミラーの調節

1. イグニッション・スイッチをONにします。
2. セレクタ・スイッチ**A**を助手席側に押すことによって、助手席側のドア・ミラーも同じスイッチで調節できます。
3. イグニッション・スイッチがONのときにコントロール・スイッチ**B**を使用してドア・ミラーを適切な角度に調節することができます。

故障した場合

▷ 鏡面を手で押して調節してください。

助手席側ドア・ミラーの自動調節

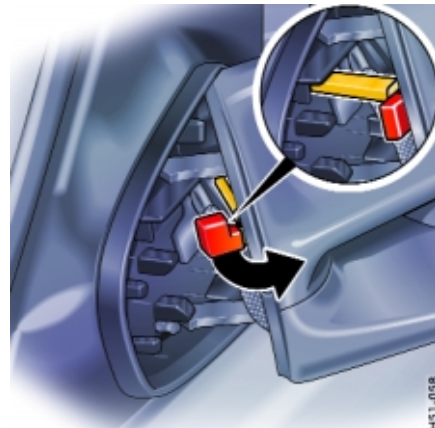
▷ 「パーキング・アシスタント」(56ページ）を参照してください。

▷ 「シート・メモリー」(34ページ）を参照してください。

ドア・ミラーの格納

⚠ 警 告

ドア・ミラー格納時に不意にミラーが跳ね返り、指を負傷する恐れがあります。

▷ 手でミラーを格納する場合は十分に注意してください。ロック・レバーでロックするか、またはミラーが完全に開いてからミラーを放してください。

1. ミラーをドア・ウィンドウ方向に押さえてください。
2. ロック・レバーをストッパーに当たるまで上に回し、ゆっくりミラーを放します。

ドア・ミラーの展開

1. ミラーをドア・ウィンドウ方向に押さえてください。ロック・レバーが自動的に外れます。
2. 手でミラーを展開位置に戻します。完全に戻るまで手を放さないでください。

リア・ウィンドウ・ヒータ／ドア・ミラー・ヒータ

リア・ウィンドウ・ヒータおよびドア・ミラー・ヒータは、イグニッション・スイッチがONになっているときに作動させることができます。

スイッチON

▷ スイッチを押します。

スイッチのインジケータ・ランプが点灯します。

ヒータのスイッチは約15分後に自動的にOFFになります。
スイッチを再び押すとヒータはONに戻ります。

スイッチOFF

▷ スイッチを押します。

スイッチのインジケータ・ランプが消えます。

サンバイザ

▷ 直射日光を防ぐには、サンバイザを下げてください。

▷ 横からの直射日光を防ぐには、サンバイザをフックから外し、ドア・ウィンドウ方向に回してから下げてください。

バニティー・ミラー

バニティー・ミラーはサンバイザの裏側にあり、カバーが付いています。

⚠ 警 告

怪我をしたり、ミラー・カバーが損傷する恐れがあります。

▷ 運転中はカバーを閉じてください。

▷ カバーを全開位置より開かないでください。

カバーを開く（**矢印**）と照明が点灯します。

シート調節

⚠ 警 告

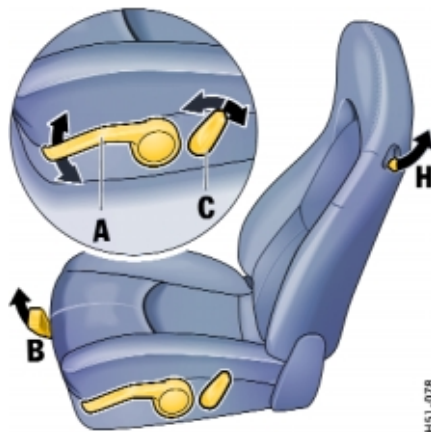
シートが予期せず大きく移動し、運転を誤り事故を起こす恐れがあります。

▷ 安全のため、走行中に運転席シートの調節は絶対に行わないでください。

シート位置

安全で疲れにくい運転をするには、シートを人間工学の観点から正しい位置に調節することが必要不可欠です。シートはお客様の体格に合わせて希望の位置に調節することができます。次の要領で調節してください。

1. マニュアル・トランスミッション装着車：
   足を自然に伸ばしながらクラッチ・ペダルが十分に踏込める位置に調整します。

   ティプトロニックS装着車：
   左足をフットレストに置いて、足を自然に伸ばせる位置に調整します。
2. ステアリングの上の部分を握りながら、ステアリング操作が楽にでき、肩が背もたれから離れないように背もたれの角度とステアリングの位置を調節してください。
3. 頭上のスペースと視野が十分に確保できる位置にシートの高さを調整します。
4. 電動調節シート：
   太ももがシート・クッションに軽くもたれるようにシート角度を調整します。

シートの手動調節
(コンフォート・シート／スポーツ・シート)

A-座面の高さ調節

▷ レバー**A**を上下させます。
レバーを上げる－座面が上昇します。
レバーを下げる－座面が下降します。

B-シートの前後調節

▷ ロック・レバー**B**を持ち上げます。
シートを希望の位置に移動させてから、レバーを放します。
シートがしっかり固定されていることを確認してください。

C-バックレスト調節

▷ スイッチ**C**を操作して、バックレストを希望の角度に調整します。

電動調節シート
（コンフォート・シート／スポーツ・シート）

▷ 希望の位置になるまで矢印の方向にスイッチを押してください。

A -座面の高さ調節
B -シートの前後調節
C -シートの角度調節
D -バックレスト調節

E-ランバー・サポート

バックレストの調節、硬さを希望に合わせ水平方向と垂直方向に無段階に調節することができます。

▷ 希望の位置になるまで矢印の方向にスイッチを押してください。

F-バックレスト・サイド・ボルスターの調整（電動スポーツ・シートのみ）

▷ スイッチ**F**を前方に押す、または後方に引いて、サイド・ボルスターを体型に合わせて調整します。

G-シート・クッション・サイド・ボルスターの調整（電動スポーツ・シートのみ）

▷ スイッチ**G**を前方に押す、または後方に引いて、サイド・ボルスターを体型に合わせて調整します。

シート・バックレスト

前方へ倒す

▷ ロックを解除するには、バックレストの側面にあるレバー**H**を引き上げてください。

後方へ倒す

▷ バックレストを後方へ押すと、ロックされます。

バックレストは、急ブレーキを踏んだ場合に前に倒れないよう、走行中はロックされていなければなりません。

M - *メモリー・ボタン*
1 - *キー・ボタン*
2、**3** - *パーソナル・ボタン*

シート・メモリー

運転席側のシート位置、ミラー位置を希望の位置に記憶することができます。

スポーツ・クロノ・パッケージ・プラス装着車では、個人設定オプションを追加することができます。＊

▷ PCM取扱説明書＊の「個別メモリー」を参照してください。

⚠ 警 告

メモリーを制御不能な呼出し方で操作した場合、メモリー機能が損傷する恐れがあります。

▷ 自動調節をキャンセルしたい場合は、その他のシート調節スイッチを押してください。

▷ 誤操作により、怪我をする恐れがありますのでお子様を車内に残さないでください。

パーソナル・ボタン2、3による操作

メモリーの設定

1. イグニッション・スイッチをONにします。リバース・ギヤには入れないでください。
2. 希望のシート位置、ドア・ミラー位置を設定してください。
3. メモリー・ボタン**M**を押しながらボタン**2**、**3**のいずれかのボタンを押してください。希望の設定が記憶されます。

メモリーの呼出し

シート位置のメモリーの呼出しは車両が停止しているときのみに可能です。

1. イグニッション・スイッチをONにします。**または**、運転席側ドアを開きます。
2. シートの位置が希望の位置にくるまでパーソナル・ボタンを押してください。
   ドア・ミラーおよびランバー・サポートは、ボタンを押しつづけなくても記憶させた位置まで移動します。

知識：

自動シート調節は、ボタンを離すと直ちに中断されます。

＊日本仕様に設定はありません。

リモート・コントロール・キーによる操作

希望のシート位置、ドア・ミラー位置をそれぞれのリモート・コントロールに（最大6個）設定することができます。
リモート・コントロールで車両ロックを解除すると、記憶させたシート位置、ドア・ミラー位置を自動的に記憶します。

シート位置の記憶

1. イグニッション・スイッチをONにします。リバース・ギヤには入れないでください。
2. 希望のシート位置、ドア・ミラー位置を設定してください。
3. メモリー・ボタン**M**を押しながらキー・ボタン**1**を押してください。
   希望の設定がリモート・コントロールおよびキー・ボタンに記憶されます。

助手席側ドア・ミラー下向き位置の設定（パーキング・エイド）

運転席側の設定が記憶されると、バック走行時の助手席側ドア・ミラー下向き位置が希望の位置に記憶できます。

1. パーキング・ブレーキをかけます。
2. イグニッション・スイッチをONにします。
3. リバース・ギヤに入れてください。
4. ミラー・スイッチで助手席側を選択すると、助手席側ミラーが下向きになります。
5. 助手席側ドア・ミラーを希望の角度に設定してください。
6. メモリー・ボタン**M**を押しながらキー・ボタン**1**を押してください。
   希望の設定がリモート・コントロールおよびキー・ボタンに記憶されます。

メモリーの呼出し

▷ リモート・コントロールで車両ロックまたはラゲッジ・ルームのロックを解除すると、記憶させたシート位置、ドア・ミラー位置に自動的に移動します。

リモート・コントロールに記憶されているシート位置は、対応するキーを使用してドアのロックを解除するか、イグニッション・スイッチをONにすることでキー・ボタン**1**でも呼び出すことができます。

リモート・コントロールにシート位置が記憶されていない場合、キー・ボタンは作動しません。

知識：
以下の場合、自動シート調節を直ちに停止させることができます。
— イグニッション・スイッチをONにする
— セントラル・ロッキング・ボタンを押す
— メモリー・ボタンまたはシート調節ボタンのいずれかを押す

メモリーの消去

1. 対応する車両キーでイグニッション・スイッチをONにします。
2. メモリー・ボタンを2回、キー・ボタン**1**を1回続けて押します。

A - 左側シート・ヒータ・スイッチ
B - 右側シート・ヒータ・スイッチ

シート・ヒータ

イグニッションONのときに、2段階にシート・ヒータを調整することができます。

スイッチON

ヒータ強

▷ シート・ヒータ・スイッチを押してください。インジケータ・ランプが両方とも点灯します。

ヒータ弱

▷ スイッチをもう1回押してください。インジケータ・ランプが片方だけ点灯します。

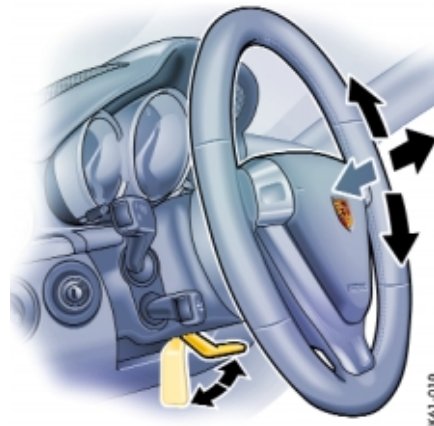
スイッチOFF

▷ スイッチを押すと、インジケータ・ランプが消えます。

ステアリング調整

⚠ 警 告

ステアリングが予期せず大きく移動し、運転を誤り事故を起こす恐れがあります。

▷ 安全のため、走行中にステアリングの調整は絶対に行わないでください。

ステアリングの上下および前後方向の調節

1. ロック・レバーを押し下げます。
2. バックレストの角度とシートの位置に合わせて、ステアリングを上下方向および前後方向に動かして調節します。
3. 固定されるまで、ロック・レバーを矢印の方向へ動かします。必要に応じて、ステアリングをわずかに上下方向へ動かします。

マルチ・ファンクション・ステアリング

⚠ 警告

事故を起こす恐れがあるので、運転中にオンボードコンピュータ、ラジオ、ナビゲーション・システム、電話などの操作や設定を行なわないでください。

運転以外に気をとられ、車両のコントロールを失う恐れがあります。

▷ 運転中に装備を操作する場合は、安全に操作できる交通状況のときのみ行ってください。

▷ 複雑な操作や設定は車両を静止した状態で行ってください。

マルチ・ファンクション・ステアリングにはファンクション・キーが備えられ、ドライバーが運転から気を逸らさずにさまざまな操作を簡単に行うことができます。ファンクション・キーにより車両の装備に応じて以下のポルシェ・コミュニケーション・システム＊が操作できます。

— PCM＊
— 電話＊
— CD付きラジオ
— CDチェンジャ

K61-011

マルチファンクション・ステアリングの作動準備

マルチファンクション・ステアリングはイグニッション・スイッチおよびPCM＊をONにすると、スタンバイ状態になります。

ファンクション・キーの操作

▷ ファンクション・キーを操作する前に、ポルシェ・コミュニケーション・マネージメントの取扱説明書＊をお読みください。

ステアリング上部の左右にあるロータリー・ノブを押して操作することもできます。

ボリューム・スイッチを回す
上方－音量が上がります。
下方－音量が下がります。
ボリューム・スイッチを押す
音量とミュートが切り替わります。

ロータリー・ノブを回す
ロータリー・ノブを上方または下方に回して、PCMの機能をメニューから選択またはマーキングします。
ロータリー・ノブを押す
選択した機能が作動します。

スクリーン・ボタンを押す
記憶させたPCM機能を呼び出します。ボタンを希望のPCM機能＊に記憶することができます。

バック・ボタンを押す
PCMメニュー＊に戻ります。

ハンドセット・ピックアップ・ボタンを押す
電話を受けます。

ハンドセット・ハングアップ・ボタンを押す
着信を保留するか、または切ります。

＊日本仕様に設定はありません。

シートベルト

身長が150cm以下の人が乗車される場合は、シートベルトを使用せずポルシェ社指定のチャイルド・シートを必ず使用してください。

⚠ セーフティ・ノート

▷ 車に乗車したら、安全のため乗員は必ずシートベルトを着用するように義務付けられています。同乗者の方にもこのページの内容をよく理解してもらってください。

▷ 同時に2人で**1本**のシートベルトを使うことは、絶対に避けてください。

▷ だぶついた衣服は、シートベルトが正しくフィットしない上に、動作の自由を奪うことになるので、乗車時には必ず脱ぐようにしてください。

▷ 硬い物や壊れやすい物（眼鏡、ボールペン、パイプなど）の上に、ベルトがかからないようにしてください。衝突の際に怪我をする可能性が高くなります。

▷ シートベルトはねじれや弛みがないように装着してください。

▷ シートベルトを定期的に点検し、ベルトの帯が損傷していないか、またバックルと取付け部が正常な状態にあるかどうか確認してください。

▷ 安全性を維持するため、事故などでベルトに強く負荷がかかった場合は、ポルシェ正規販売店でベルトを交換してください。同時に作動したシートベルト・テンショナ・システムも交換してください。またアンカー部分も点検してください。

整備についてはポルシェ正規販売店にご相談ください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

▷ ベルトを使用しないときは汚れや損傷を防ぐため完全にリトラクターに巻き取らせてください。

警告灯および警告メッセージ

シートベルトの装着を促すために、以下の警告がベルトのプレートがバックルに挿入されるまで持続します。

– イグニッション・スイッチをONにすると、インストルメント・クラスタのシートベルト警告灯が点灯します。

– オンボードコンピュータに警告が表示されます。

– シートベルト未装着のままで走行し、24km/hを超えたときに約90秒間警告音が鳴ります。

ベルトのプレートがバックルに挿入されると、警告は解除されます。

シートベルト・テンショナ

事故時に発生する衝撃力の大きさにより作動して、シートベルトのゆるみを巻き取り乗員を保護します。

シートベルト・テンショナは以下の場合に作動します。

– 前方向および横方向から強い衝撃を受けたとき。

知識：

シートベルト・テンショナは、一度しか作動しません。作動後は、システムを交換する必要があります。シートベルト・テンショナ・システムに不具合が生じた場合、エアバッグ警告灯が点灯します。シートベルト・テンショナ・システムの交換は、必ずポルシェ正規販売店で行ってください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

シートベルト・テンショナは作動したときに、若干の煙を発生することがありますが、火災などの心配はありません。

シートベルトの装着

▷ シートを最適の位置に調節してください。ショルダー・ベルトが常に身体の上および肩の中央にくるように、バックレストを調整してください。

▷ ベルトのプレートを持って、ゆっくりと一定の速度でリトラクターから引き出し、胸と腰にかかるようにします。

カーブを曲がったり急な坂道を登るときなど、急加速や急減速を行っている場合には、ベルトを引き出すことができません。

知識：

車両が坂道にある場合またはベルトが急に引かれた場合には、ベルトが引き出せなくなることがあります。

▷ プレートをシート側部にあるバックルの中に、カチッと音がするまで差込みます。

▷ ベルトがひっかかったり、ねじれたり、鋭い物にこすれたりしないように注意してください。

▷ ラップ・ベルトは必ず腰の低い位置（骨盤）にぴったりとかかるようにしてください。
プレートをバックルに差込んで、ショルダー・ベルトを上に引っ張ってください。
妊娠中の人は、ベルトを骨盤のできるだけ低い位置にかけ、腹部を圧迫しないように注意してください。

▷ 走行中にもショルダー・ベルトを上に引っ張る調整を繰り返し、ラップ・ベルトがゆるまないようにしてください。

ベルトの外し方

▷ ベルトのプレートを持ちます。

▷ バックルにある赤いボタン（**矢印**）を押します。

▷ リトラクターに近付け、ベルトを巻き取らせてください。

シートベルトのお手入れ

▷ 「シートベルトのお手入れ」（181ページ）を参照してください。

チャイルド・シート

⚠ 警 告

チャイルド・シートを使用する場合、助手席エアバッグを作動解除していないと、重傷または致命傷を負う恐れがあります。

▷ 体重が27kgまでのお子様を助手席に取付けたチャイルド・シートに乗せて走行する場合、助手席エアバッグは必ず作動解除してください。

体重が27kgを超えるお子様の場合は、助手席エアバッグを作動可能状態にしてください。

▷ ポルシェのチャイルド・シートの取付けに関する詳細はポルシェ正規販売店にご相談ください。

知識：

助手席エアバッグを作動解除するキー・スイッチおよびISOFIX取付け用ブラケットは納車時に装着されていません。ポルシェ正規販売店でオプションとして装着してください。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

⚠ セーフティ・ノート

▷ 付属のチャイルド・シート取付説明書に必ず従ってください。

▷ チャイルド・シートは、必ず法規に適合するものを使用してください。

▷ 必ずポルシェ社指定のチャイルド・シートのみを使用してください。ポルシェ社指定のチャイルド・シートは、ポルシェ車の内装状態およびあらゆる年齢のお子様にマッチするよう繰り返しテストを受け調整されています。

指定外の製品はテストにより安全性が実証されていないため、怪我をする可能性が高くなります。

▷ 「助手席エアバッグの作動／作動解除」（43ページ）を参照してください。

9ヶ月未満のお子様

9ヶ月未満のお子様の場合、チャイルド・シートを進行方向に対して**後ろ向き**に取付けます。

▷ このとき、助手席エアバッグとサイド・エアバッグの作動を必ず解除します。

9ヶ月〜3歳のお子様

9ヶ月〜3歳のお子様の場合、チャイルド・シートを**前向き**に取付けます。

▷ 助手席エアバッグの作動を解除しなければなりません。

3歳〜6歳のお子様

3歳〜6歳のお子様の場合、チャイルド・シートを**前向き**に取付けます。

▷ 助手席エアバッグの作動を解除しなければなりません。

6歳〜12歳のお子様

6歳〜12歳のお子様の場合、チャイルド・シートを**前向き**に取付けます。

▷ 助手席エアバッグの作動を解除しなければなりません。
体重が27kgを超えるお子様の場合は、助手席エアバッグを作動可能状態にしなければなりません。

推奨チャイルド・シート

年齢	体重	シート・タイプ	認可番号
9ヶ月未満	13 kg未満	ポルシェ・ベビー・シート 0+Isofixユニバーサル ポルシェ・ベビー・シート 0+Isofixスペシャル ポルシェ部品番号：955.044.800.42	E13 030011 E13 030012
9ヶ月～3歳	9～18 kg	ジュニア・シート ISOFIX グループI ユニバーサル ジュニア・シート ISOFIX グループI スペシャル ポルシェ部品番号：955.044.800.44	E13 030013 E13 030014
3歳～6歳	16～25 kg	ジュニア・シート ISOFIX グループII ユニバーサル ポルシェ部品番号：955.044.800.44	E13 030015
6歳～12歳	15～36 kg	ポルシェ・キッズ・プラス ポルシェ部品番号 955.044.801.02	E1 03301169

知識：

体重が27kgまでのお子様を助手席に取付けたチャイルド・シートに乗せて走行する場合、助手席エアバッグは必ず作動解除してください。
体重が27kgを超えるお子様の場合は、助手席エアバッグを作動可能状態にしてください。

助手席エアバッグの作動／作動解除

▷ 車両キーをキー・スイッチに差込んで助手席エアバッグを解除します。

A – スイッチON位置 – エアバッグ作動可能

B – スイッチOFF位置 – エアバッグ作動解除

⚠ 警 告

チャイルド・シート を取外した後に助手席エアバッグを作動解除したままにしておくと、乗員が重傷または致命傷を負う恐れがあります。

▷ チャイルド・シートを取外した後は、必ず助手席エアバッグを作動可能状態にしてください。

助手席エアバッグOFF警告灯

助手席エアバッグが作動解除されている場合は、イグニッション・スイッチをONにすると、助手席エアバッグOFF警告灯が常時点灯します。

▷ 「インストルメント・クラスタおよびオンボードコンピュータ上の警告」（104ページ）を参照してください。

⚠ 警 告

エアバッグOFFスイッチをOFFにし、イグニッション・スイッチをONにした時に、助手席エアバッグOFF警告灯が点灯しなかった場合、助手席エアバッグにより重傷または致命傷を負う恐れがあります。

▷ 助手席にチャイルド・シートを取付けないでください。

▷ 直ちに故障を修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

知識：

キー・スイッチおよび助手席エアバッグOFF警告灯は納車時には装着されていません。ポルシェ正規販売店でオプションとして装着してください。

ISOFIXシステム

（助手席装着用チャイルド・シート・ブラケット）

必ずポルシェ社指定のISOFIXシステム付きチャイルド・シートのみを使用してください。ポルシェ社指定のチャイルド・シートは、ポルシェ車の内装状態とあらゆる年齢のお子様にマッチするよう繰り返しテストを受け調整されています。
指定外の製品はテストにより安全性が実証されていないため、怪我をする可能性が高くなります。

ISOFIXに適合するチャイルド・シートはポルシェ正規販売店にてお求めいただけます。

▷ 必ずチャイルド・シートに付属の取付説明書に従ってください。

知識：
ISOFIX取付け用ブラケットは納車時には装着されていません。ポルシェ正規販売店でオプションとして装着してください。

⚠ 警 告

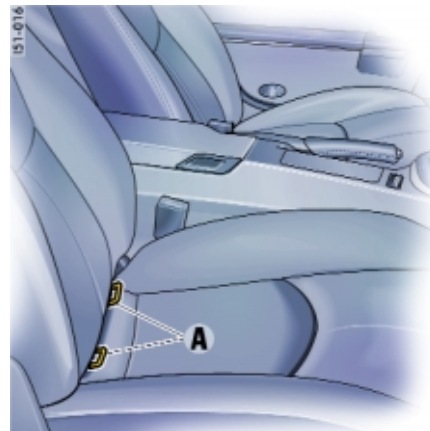
チャイルド・シートを使用する場合、助手席エアバッグを作動解除していないと、重傷または致命傷を負う恐れがあります。

▷ 体重が27kgまでのお子様を助手席に取付けたチャイルド・シートに乗せて走行する場合、助手席エアバッグは必ず作動解除してください。

体重が27kgを超えるお子様の場合は、助手席エアバッグを作動可能状態にしてください。

▷ 「チャイルド・シート」（40ページ）を参照してください。

ISOFIXチャイルド・シート・システムの取付け

1. 「助手席エアバッグの作動／作動解除」（43ページ）を参照してください。
   キー・スイッチで助手席エアバッグを作動停止します。助手席エアバッグOFF警告灯が点灯していることを確認してください。

2. チャイルド・シートの取付説明書に従って、リテーニング・ラグ**A**にチャイルド・シートを固定します。
3. チャイルド・シートを引いて左右の固定箇所が正しく装着されているか点検します。

知識：
チャイルド・シートを取外した後は、必ず助手席エアバッグを再び作動可能状態にしてください。

エアバッグ・システム

⚠ セーフティ・ノート

- ▷ エアバッグ装着車でも**シートベルトを必ず締めてください**。軽度な衝撃や角度によっては、エアバッグが作動しない場合もあるので非常に危険です。
- ▷ 運転席と助手席の間あるいは乗員とエアバッグの間に幼児を座らせたり、ペット、その他の品物を置かないようにしてください。事故の時、致命的な怪我をする恐れがあります。
- ▷ ステアリングは必ずリングの部分を持つようにしてください。
- ▷ 効果的にエアバッグが作動するには、一定の空間が必要です。運転席と助手席に座る人は、位置に気をつけてください。サイド・エアバッグやヘッド・エアバッグの装備されている車はドアに寄り掛からないでください。
- ▷ 運転中、足はつねに足下の空間に置いてください。足をダッシュボードやシートに置かないでください。
- ▷ ドアの小物入れの扉は常に閉じ、中身がはみ出ないようにしてください。
- ▷ 安全のため、重たい荷物を助手席や助手席の前側に置かないでください。
- ▷ 同乗者の方にもこのページの内容をよく理解してもらってください。
- ▷ エアバッグ・システムに故障が生じた場合、必ずポルシェ正規販売店に相談してください。
- ▷ エアバッグは再使用不可のためエアバッグが作動した後は、直ちにポルシェ正規販売店で点検または交換してください。
- ▷ エアバッグ配線や構成部品は変更を加えないでください。
- ▷ ステアリングや助手席側のエアバッグ、側部エアバッグ、ヘッド・エアバッグ付近には、ステッカーなどを貼付けたり、内装を変更しないでください。
- ▷ エアバッグ・ワイヤ・ハーネス付近に追加アクセサリのケーブルを通さないでください。
- ▷ エアバッグ構成部品（ダッシュ・ボード、ステアリング・ホイール、フロント・シート、ドアの内張りなど）は、取外さないでください。
- ▷ お車を売却される場合は、この車がエアバッグ装着車であることを次の購入者に知らせた上で、取扱説明書の「エアバッグ・システム」のページを読むことを薦めてください。
- ▷ 機能点検は、規定された間隔でポルシェ正規販売店で行ってください。
- ▷ チャイルド・シートを取り付ける場合は、「チャイルド・シート」（40ページ）を参照してください。

機能

エアバッグは、シートベルトと併用することで、衝突時の乗員の負傷を最小限に抑えるように設計されています。

前方または横方向に衝撃を受けた場合、衝撃角度によってエアバッグが作動し、乗員の受ける衝撃を吸収し、頭部や上半身を守ります。

運転席側の**フロント・エアバッグ**はステアリングのパッドの中にあり、助手席側はダッシュボードの中にあります。
側部エアバッグはシート・バック・レストの横にあります。
ヘッド・エアバッグは左右のドア・ライニング内にあります。

それぞれのエアバッグは衝突の角度および衝撃力に応じて作動します。

フロント・エアバッグは膨張後、わずかに視界が妨げられますが、すぐに収縮します。また、エアバッグ膨張時の作動音は事故の雑音によってかき消されます。

警告灯および警告メッセージ

少しでも異常がある場合は、タコメータの警告灯およびマルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

▷ 「インストルメント・クラスタおよびオンボードコンピュータ上の警告」（104ページ）を参照してください。

▷ 次のような場合は、ポルシェ正規販売店で直ちに不具合を修理してください。

– イグニッション・キーをイグニッション・スイッチに差込んでもエアバッグ警告灯が点灯しない場合**または、**

– エンジン始動後にエアバッグ警告灯が消灯しない場合**または、**

– エアバッグ警告灯が走行中に点灯した場合

助手席エアバッグOFF警告灯

▷ 「助手席エアバッグの作動／作動解除」（43ページ）を参照してください。

⚠ 警 告

エアバッグOFFスイッチをOFFにし、イグニッション・スイッチをONにした時に、助手席エアバッグOFF警告灯が点灯しなかった場合、助手席エアバッグにより重傷または致命傷を負う恐れがあります。

▷ 助手席エアバッグOFF警告灯が点灯しなかった場合は、助手席にチャイルド・シートを取付けないでください。

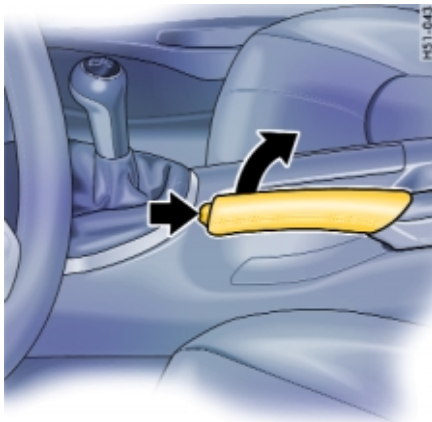
▷ 直ちに故障を修理してください。

チャイルド・シートを取外した後に助手席エアバッグを作動解除したままにしておくと、乗員が重傷または致命傷を負う恐れがあります。

▷ チャイルド・シートを取外した後は、必ず助手席エアバッグを再び作動可能状態にしてください。

処分について

未点火のガス発生器や車両、あるいはエアバッグ・ユニットなどは、通常のスクラップやごみと同じように処分することはできないため、エアバッグ関連部品の処分は全てポルシェ正規販売店にお任せください。

処分に関する詳しい情報については、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

パーキング・ブレーキ

パーキング・ブレーキは後輪を固定して、駐車時に車が不意に移動しないようにします。

パーキング・ブレーキをかける

▷ パーキング・ブレーキのレバーを引き上げてください。

パーキング・ブレーキを解除する

▷ レバーを少し引き上げ、ロック・ボタンを押しながら元の位置に下ろしてください。

警告灯

インストルメント・パネル上のパーキング・ブレーキ警告灯は、パーキング・ブレーキをかけると点灯し、パーキング・ブレーキが完全に解除されると消灯します。

▷ 「インストルメント・クラスタおよびオンボードコンピュータ上の警告」（104ページ）を参照してください。

フット・ブレーキ

⚠ セーフティ・ノート

▷ ブレーキ・ペダルをマットなどで妨げないようにしてください。

ブレーキ・ブースタは、エンジンがかかっているときにのみ作動します。エンジンがかかっていなかったり、ブレーキ・ブースタの圧力が下がっている場合は、ペダルを踏むときにかなり強い力が必要になります。

▷ 「けん引」（222ページ）を参照してください。

雨天時や水浸しになった道路を走行しているとき、または洗車後は、ブレーキの効きが通常よりも悪くなり、さらに強くペダルを踏まなければならない場合があります。

▷ 従って、車間距離をいつもより長めにとってください。ブレーキを乾燥させるために、定期的に軽くブレーキをかけてください。このとき、後続車の邪魔にならないように気を付けてください。

凍結防止の塩がまかれた道路や砂粒の多い道路を長距離走行すると、ブレーキ・ディスクやパッドが塩や砂で覆われて摩擦係数が減少し、ブレーキの効きが大変悪くなる場合があります。

▷ ブレーキ・ディスクとブレーキ・パッドを強力なジェット水流で2週間おきに洗浄してください。自動洗車機での洗車では十分に洗浄することができません。ブレーキ・ディスクが錆びないように、ブレーキを乾燥させてから駐車してください。（ポルシェ・セラミック・コンポジット・ブレーキ非装着車の場合）

▷ ブレーキ・ディスクはねずみ鋳鉄合金製ですが、長期間にわたり車両を駐車したまま放置した場合、腐食は避けられません。その結果、ブレーキが引きずった状態になります。
腐食の性質、範囲、影響は駐車していた時間、凍結防止の塩が撒かれていたか、洗車時に油脂剤が使用されたかなどにより変わります。（ポルシェ・セラミック・コンポジット・ブレーキ非装着車の場合）
ブレーキ時に気になるほどの不快感がある場合は、ポルシェ正規販売店にてブレーキ・システムの点検をしてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

▷ 下り坂を走行するときはタイミング良くギヤを落し、エンジン・ブレーキを利用することによって、ブレーキの摩耗が少なくなります。長い下り坂でエンジン・ブレーキの効果が十分に得られない場合は、間隔をおいてブレーキ・ペダルを踏んでください。ブレーキ・ペダルを連続して踏みつづけると、ブレーキが過熱して効きが悪くなります。

▷ 「ブレーキ液レベル」（165ページ）を参照してください。

ブレーキ・パッドおよびブレーキ・ディスク

ブレーキ・パッドおよびブレーキ・ディスクの摩耗は、主に走行状態と使用状態に応じて異なるため、実際の走行距離には依存しません。

ブレーキ・システムは、全ての速度に最適なブレーキ力を与えるように構成されています。したがって、速度やブレーキング力、周囲の条件（温度、湿度）によって、ブレーキから音が出ることがあります。

警告灯

ブレーキ・パッドが摩耗限度に達すると、インストルメント・クラスタ内のブレーキ・パッド摩耗警告灯が点灯し、オンボードコンピュータの警告が表示されます。

▷ 警告灯が点灯したら、直ちにポルシェ正規販売店でブレーキ・パッドを交換してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

▷ 「インストルメント・クラスタおよびオンボードコンピュータ上の警告」（104ページ）を参照してください。

ブレーキ・テスト

ローラー・ブレーキ・テスタで測定する場合は、測定速度は8km/h以下で行ってください。

ローラー・ブレーキ・テスタで、**パーキング・ブレーキの点検**、**測定**をするときは、イグニッション・スイッチをOFFにして行ってください。

ABS

(アンチロック・ブレーキ・システム)

⚠ セーフティ・ノート

ABSが装備されていても、路面状況、天候、周囲の交通の状況に応じた責任のある運転を心掛けてください。

ABSにより安全性は向上しますが、けっして無謀な運転から事故を防ぐためのものではありません。ABSが作動しても、物理的限界を超えて車両をコントロールすることはできません。
ABSは危険なスピードによる事故のリスクを減らすことはできません。

ABSの特徴として

安定したステアリング・コントロール

— あらゆる路面状況下で安定したステアリング・コントロールが得られます。

すぐれた走行安定性

— ホイール・ロックによる横滑りがなくなりすぐれた走行安定性が得られます。

最短の制動距離

— 多くの場合、制動開始から停止までの距離が短くなります。

ホイール・ロックしない

— そのため、フラット・スポットが生じません。

機能

ABSが最もその効果を発揮するのは、コーナリング時に危険回避のためどうしても急ブレーキが必要な状況のときです。このような状況下でもABSは、車両の方向性を保ち、安定した操舵性を確保します。

ABSが装着されていても、道路、天候条件、交通状況に応じた責任ある運転をこころがけてください。

ホイールのロック点付近でブレーキをかけたとき（急ブレーキ時）にABSは作動し始めます。
このときドライバーは、ABSのコントロール状況（大変小刻みなポンピング・ブレーキをかけるような状態）をブレーキ・ペダルの脈動とノイズから感じ取ることができます。この脈動やノイズは、ドライバーが道路状況に対してスピードを調整する警告の役目をします。

(ABS) 警告灯

エンジン作動中もABS警告灯が点灯し、オンボードコンピュータに警告が表示された場合、何らかの不具合によりABSの作動が停止していることを示します。
このような場合には、ABSが装備されていない車両と同じように運転してください。

▷ 予期せぬ悪影響をおよぼす不具合が発生するのを防止するため、直ちにポルシェ正規販売店でABSシステムの点検を受けてください。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

ABSコントロール・ユニットは、認可された正規のタイヤ径に合わせてプログラム調整されています。認可されていないタイヤを使用すると、プログラム値と異なったホイール回転スピードを検出させることになり、ABSの作動が停止します。

スポーツ・モード

スポーツ・モードをONにすると、よりスポーティーな走行が可能となります。ポルシェ・コントロール・システムと連動し、小回りの効く、運転性能の高い走りを可能とします。

— PASM（ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント）は自動的にスポーツ・モードに変わり、サスペンションはハードな設定となります。

— ティプトロニックSはスポーティーなシフト特性に切替わり、ギヤ・シフト時間が短くなります。ギヤ変更は素早く実施されます。

— PSM（ポルシェ・スタビリティ・マネージメント）コントロールは走行がスポーティーになります。PSMの作動はノーマル・モードより遅めになります。ドライバーは緊急時のPSMの介入を無効にすることなく、性能限界値ぎりぎりで車をより機敏に操ることができます。例えば、ドライ・コンディションのサーキットでは、最速のラップ・タイムを計時することができます。

— 電子アクセル・ペダルのレスポンスが向上し、エンジンはスロットル操作に対して細かく反応できます。この機能は、スポーツ・モードをONにして、アクセル・ペダルを踏み込んで放すだけで作動させることができます。

— 回転数リミッターの特性は「ハード」になります。すなわち、エンジンが性能限界値に到達するとすぐにスロットルが反応します。

▷ 本書の該当する章を参照してください。

スポーツ・モードのON／OFF

▷ センター・コンソールのSPORTボタンを押します。

スポーツ・モードをONにすると、SPORTボタンのインジケータ・ランプが点灯します。

スポーツ・モードをONにすると、デジタル・スピードメーターの横にSPORTのロゴが表示されます。

スポーツ・モードのON／OFF切替えに応じて、PASMのスポーツ・モードも作動／停止します。
PASMボタンでPASMのスポーツ・モードを作動させた場合、PASMのスポーツ・モードはそのまま作動を続けます。

イグニッション・スイッチをOFFにすると、スポーツ・モードとPASMスポーツ・モードは自動的にノーマル・モードにリセットされます。

ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）

PSMは車が限界を超えた条件下で運転されたときの補助装置です。

⚠ セーフティ・ノート

PSMが装備されていても、路面状況、天候、周囲の交通の状況に応じた責任のある運転を心掛けてください。

PSMにより安全性は向上しますが、けっして無謀な運転から事故を防ぐためのものではありません。PSMが作動しても、物理的限界を超えて車両をコントロールすることはできません。
PSMによって危険なスピードによる事故のリスクを減らすことはできません。

PSMの特徴として

- 変化に富んだ路面状況、運転状況においても最適な車両安定性を確保します。
- コーナリング中にドライバーがアクセル・ペダルやブレーキ・ペダルなどを放したときに起こるトラクションの損失を補います。
- PSMは車線変更や、急なステアリング操作、連続したカーブなどの運転状況におけるアンダーステアまたはオーバーステアから車両安定性を確保します。
- コーナリング時や、変化に富んだ路面状況下でのブレーキ時の車両安定性を確保します。

作動準備

PSMはエンジンを始動するたびに作動可能な状態になります。

機能

タイヤ、ブレーキ、ステアリング・システムおよびエンジンに取付けられたセンサが下記の点をモニタしています。

- 走行速度
- 車両進行方向（ステアリング角度）
- 横方向の加速度
- ヨー・モーメント

PSMは各センサの値から運転者の望む車両進行方向を割り出します。その後PSMは運転者の望む方向と実際の車両進行方向をステアリング・ギヤから割り出し、必要に応じて、個々のタイヤを制動します。必要と判断された場合、PSMはエンジンの出力も変化させます。

以下の状態のときにPSMが作動すると点灯し、運転者に路面状況に応じた運転をこころがけるよう警告しています。

— インストルメント・クラスタの警告灯が点灯します。
— 油圧作動音が聞こえます。
— PSMのブレーキ制御にともない、ハンドルの抵抗が変化し、車が減速します。
— エンジン出力が低下します。
— PSMが作動しているときに、ブレーキをかけるとブレーキ・ペダルから脈動を感じることができ、ブレーキ・ペダルの位置が変化します。このとき、ブレーキ・ペダルをさらに踏み込むことでより強い制動力を確保することができます。

PSM作動の例

— コーナリング時、フロントのタイヤが滑りはじめるのをセンサが感知すると、カーブ内側のリア・タイヤにブレーキをかけ、さらに必要に応じてエンジン出力を抑制して、軌道を修正します。
— コーナリング時、リアのタイヤが滑りはじめるのをセンサが感知すると、カーブ外側のフロント・タイヤにブレーキをかけ、軌道を修正します。

通常走行する場合はPSMを作動させてください。

次の場合にはPSMをOFFにすることをお薦め致します。

— 軟らかい路面や深い雪道を走行するとき
— ぬかるみなどからの脱出時
— スノー・チェーンを使用するとき

PSMの解除

▷ PSM OFFボタンを押します。

しばらくするとPSMが解除され、PSM OFFボタンのインジケータ・ランプが点灯します。

PSMを解除すると、インストルメント・パネルのマルチファンクションPSMライトが点灯し、オンボードコンピュータにメッセージが表示され、警告音も鳴ります。

以下の機能により、緊急時にPSMを解除していても車両が安定します。

– PSMを解除すると、前輪のどちらかがABSのコントロール範囲に入ると同時に車両は安定します。
– PSMを解除し、スポーツ・モードをONにすると、両方の前輪がABSのコントロール範囲に入ると同時に車両は安定します。

PSMが解除されているときでも、**片方の駆動輪がスピンする**のを防止し、駆動輪のトラクションを確保します。

PSMを再びONにするには

▷ PSM OFFボタンを押します。

しばらくするとPSMが作動し、PSM OFFボタンのインジケータ・ランプおよびマルチファンクションPSMライトが消灯します。

オンボードコンピュータにメッセージが表示されます。

スポーツ・モード

スポーツ・モードをONにすると、よりスポーティーな走行を可能とします。
PSMの介入はノーマル・モードより遅めになります。ドライバーは性能限界値で車をより機敏に操ることができ、緊急時にPSMの補助を無効にする必要がありません。これにより、特にレース場や乾いた路面での最適なラップ・タイムが実現します。

マルチファンクションPSMランプ

– イグニッション・スイッチをONにすると、ランプの断線チェックのためにランプが点灯します。
– PSMが作動していることを示します。PSMが解除されているときでも、片方の駆動輪がスピンした場合にブレーキ制御した場合は点灯します。
– スイッチのインジケータ・ランプと同時に、PSMがOFFになっていることを示し、警告音が鳴ります。
– PSMに不具合が発生した場合は、警告灯が点灯し、オンボードコンピュータの警告が表示されます。

  PSMが故障したときは直ちにポルシェ正規販売店にて点検を受けてください。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

▷ 「車の保管」（181ページ）を参照してください。

PSM車をけん引する場合

▷ 「けん引」（222ページ）を参照してください。

ブレーキ・テスタで計測するとき

ローラー・ブレーキ・テスタで**ブレーキの検査**をする場合は、測定速度は8km/h以下で行ってください。

ローラー・ブレーキ・テスタで、**パーキング・ブレーキの点検、測定**をするときは、イグニッション・スイッチをOFFにして行ってください。

ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント（PASM）

PASMにより、「ノーマル」と「スポーツ」の2種類のランニング・ギヤ設定ができます。

ランニング・ギヤ設定の選択はセンター・コンソールのボタンで行います。

イグニッション・スイッチをOFFにすると、PASMが自動的にノーマル・モードに戻ります。

ノーマル・モードでは、ランニング・ギヤはスポーティーで快適な設定となります。スポーツ・モードでは、ショック・アブソーバーの調整が非常にスポーティーなものになります。（例：レース場での走行などに最適な設定）

可変サスペンション・システムにより、状況および走行状態に応じて、各タイヤの適切なダンピング・レベルが選択されます。

例：
ノーマル・モードで非常にスポーティーな走行をすると、この場合も同様に、PASMは自動的にショック・アブソーバーの設定を走行状況に合わせて調整します。

PASMスポーツ・モードの作動

▷ センター・コンソールのPASMボタンを押します。
PASMスポーツ・モードをONにすると、PASMボタンのインジケータ・ランプが点灯し、オンボードコンピュータにメッセージが表示されます。

PASMスポーツ・モードの解除

▷ センター・コンソールのPASMボタンを押します。
PASMボタンのインジケータ・ランプが消灯し、オンボードコンピュータにメッセージが一定の時間表示されます。

パーキング・エイド

パーキング・アシスタント

お車にはギヤをリバースに入れると超音波により障害物との距離を警告音でお知らせするパーキング・アシスタントが装備されています。

⚠ 注 意

パーキング・アシスタントはあくまでも補助的な物のため後退時には細心の注意を払ってください。

▷ 駐車範囲に人、動物、障害物がないか十分に確認してください。

パーキング・アシスタントはイグニッション・スイッチがONのときトランス・ミッションのギヤをリバースに入れると自動的に作動します。

知識：

坂道などでギヤをリバースに入れずに後退したときは作動しません。

超音波センサ

センサ

リア・バンパーには超音波センサが4つ付いており、バンパーに一番近い障害物に対し反応します。

センサ反応距離

ー 内側のセンサ	150cm以内
ー 外側のセンサ	60cm以内

センサは地表近くの障害物などには死角となるため、反応することが出来ません。

▷ センサに汚れがあると感度が鈍くなるため雪、氷または泥などの汚れは取除いてください。

▷ 擦ったり、引っかいてセンサを傷つけないように注意してください。

▷ センサ故障の原因となる恐れがあるため、スチームまたは洗浄機などを使用するときは一定の距離をあけて使用してください。

警告音および機能

ギヤをリバースに入れる**と警告音が短く鳴り**パーキング・アシスタントが作動開始したことを知らせます。

障害物との距離が近付く**と警告音が断続的に鳴り**距離が近付いていることを運転者に知らせます。
障害物との距離が約30cm以下になると**警告音が連続的に鳴ります**が、最接近すると警告音は鳴りやみます。

▷ また、警告音が聞こえるよう、ラジオのボリュームは下げてください。

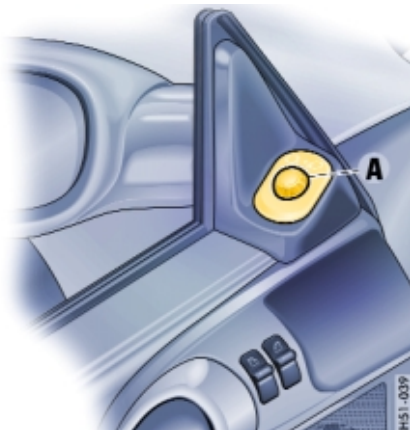
超音波センサの限界

— 粉雪など超音波をしゃ断する物があるとき。
— ガラスや塗装面など超音波を反射する物があるとき。
— 細い物があるとき。

近くでトラックなどがエア・ブレーキを使用すると超音波が乱され警告音が鳴ることがあります。

センサが正常に働かないとき

— ギヤをリバースに入れた後、警告音が鳴り、その後同じピッチで警告音が鳴りつづいたときはセンサが汚れているか、氷または雪が付着しています。
— ギヤをリバースに入れた後、警告音が鳴り、その後に遅いピッチで警告音が鳴りつづけたときはシステムに不具合があります。

▷ ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

A - ドア・ミラー調整コントロール・スイッチ

駐車時のドア・ミラーの自動調整（パーキング・エイド）

▷ 「シート・メモリー」（34ページ）を参照してください。

後退時にリバース・ギヤを選択すると、助手席側ドア・ミラーが自動的に下向きになり、助手席側の後方下部の縁石などが確認しやすくなります。

作動条件

– 車両にはシート・メモリーが装着されている。

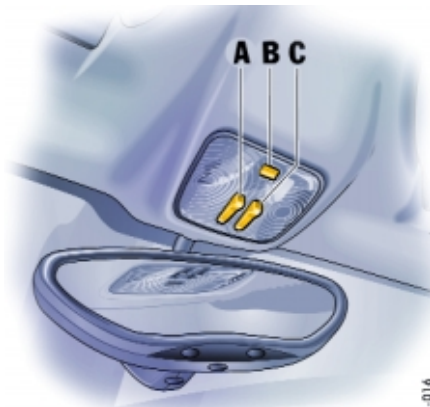
– コントロール・スイッチ**A**が「助手席側ミラー設定」になっている。

– ギヤがリバースに入っている。

ミラーを元の位置に戻す

▷ 車速6km/h以上で前進させます。

または

▷ コントロール・スイッチ**A**を「運転席側ミラー設定」にします。

A - *ルーム・ランプ、フットウェル・ランプ、ラゲッジ・ルーム・ランプ・スイッチ*
B - *オリエンテーション・ランプ*
C - *読書灯*

ルーム・ランプ

▷ 「2時間後または7日後の作動停止」（198ページ）を参照してください。

ルーム・ランプ、読書灯、フットウェル・ランプ、ラゲッジ・ルーム・ランプ

常時ON

▷ スイッチを位置**1**にしてください。
運転席側：
運転席側ルーム・ランプ、フットウェル・ランプ、ラゲッジ・ルーム・ランプが点灯します。
助手席側：
助手席側読書灯が点灯します。

常時OFF

▷ スイッチを位置**2**にしてください。
運転席側：
運転席側ルーム・ランプ、フットウェル・ランプ、ラゲッジ・ルーム・ランプが消灯します。
助手席側：
助手席側読書灯が消灯します。

ドア開閉時の自動ON/OFF

▷ スイッチを位置**0**にしてください。

ドアまたはリア・リッドをロック解除したとき、開いたとき、イグニッション・キーを抜いたときにルーム・ランプと読書灯が**点灯**します。

ドアを閉じた後、約2分でルーム・ランプは消灯します。イグニッションをONにするか、キーを使ってロックした場合は、すぐに**消灯**します。

オリエンテーション・ランプ

ルーム・ランプにはオリエンテーション・ランプがついており、車内が暗いときに装備類の位置をわかりやすくします。

知識：

スポーツ・クロノ・パッケージ・プラス装着車の場合は、PCMでオリエンテーション・ランプの明るさを調節できます。＊

▷ PCM取扱説明書の「個別メモリー」を参照してください。＊

＊日本仕様に設定はありません。

格納式リア・スポイラ

リア・スポイラは空気抵抗を低減し、特に高速走行時にリア・アクスルが浮上がることを防止します。

⚠ 警 告

リア・スポイラが上昇しない場合は、リア・アクスルが浮き気味になるために走行安定性が妨げられて事故を起こす恐れがあります。

▷ この状態を配慮した運転を行ってください。

▷ 故障した場合はポルシェ正規販売店で修理を行ってください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨いたします。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

車を停車させてリア・スポイラを上昇させたり、格納する場合は、リア・スポイラに身体の一部や物が挟まれて怪我をする恐れがあります。

▷ リア・スポイラが稼動する範囲に人や物がないことを十分に確認してください。

リア・スポイラを押し込むと車両が破損する恐れがあります。

▷ リア・スポイラを無理に押し込まないようにしてください。

警告灯

120km/h以上のときにリア・スポイラが完全に上昇しない場合は、オンボードコンピュータの警告灯が点灯します。

自動コントロール

リア・スポイラは約120km/hのときに完全に上昇し、80km/h以下になると格納されます。

電動制御が故障した場合は、警告灯が点灯します。車両が停止状態の時に手動でリア・スポイラを格納してください。

手動コントロール

リア・スポイラは、イグニッション・スイッチをONにしてスイッチを使用すると、上昇および格納することができます。

知識：

リア・スポイラを手動コントロールで上昇させた場合は、自動コントロールで格納されません。
必ず手動コントロールで格納してください。

上昇：

▷ スイッチを短く押してください。
リア・スポイラが完全に上昇します。
スイッチのインジケータ・ランプが点灯します。イグニッション・スイッチをOFFにしてもリア・スポイラは格納されません。

格納：

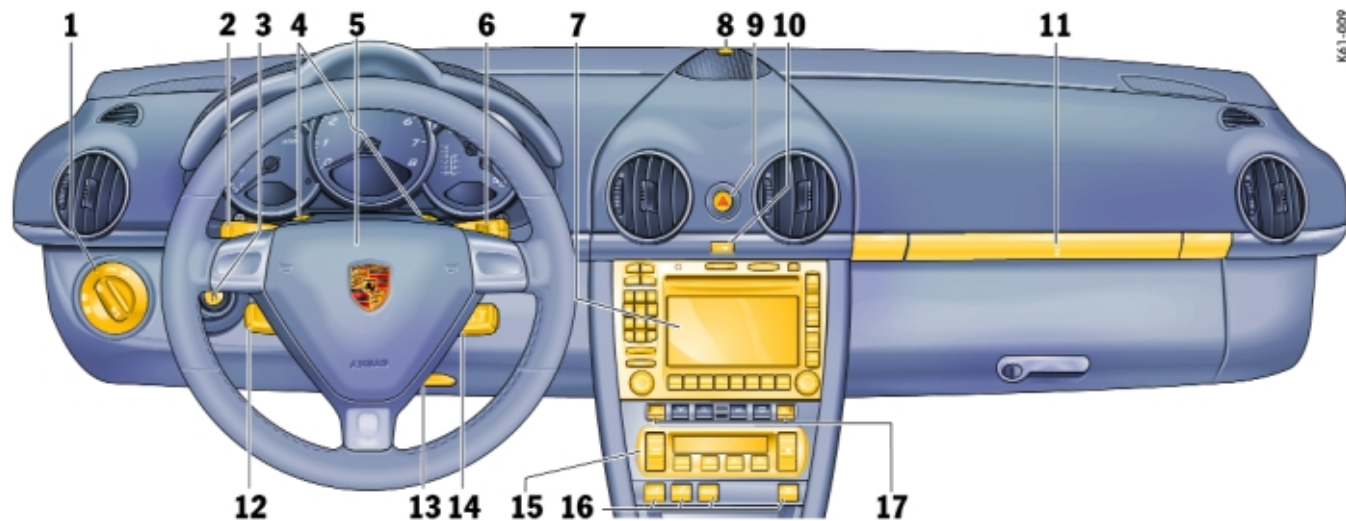
▷ **0-30km/hの場合**
リア・スポイラが完全に格納されるまでスイッチを押し続けます。
スイッチのインジケータ・ランプが消灯し、自動コントロールに切替わります。

▷ **30-100km/hの場合**
スイッチを短く押してください。
リア・スポイラが格納されます。
スイッチのインジケータ・ランプが消灯し、自動コントロールに切替わります。

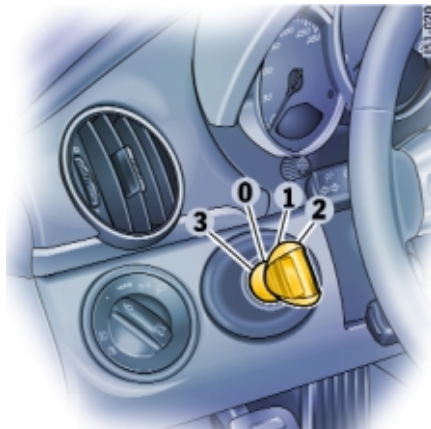
▷ **100km/h以上の場合**
スイッチを短く押してください。
リア・スポイラは格納されず、スイッチのインジケータ・ランプが消灯し、自動コントロールに切替わります。

イグニッション・スイッチを再びONにした後、上昇しているリア・スポイラを手動コントロールで格納する。

1. スイッチを短く押してください。
   スイッチのインジケータ・ランプが点灯します。この時リア・スポイラは、手動コントロールになっています。
2. リア・スポイラが完全に格納されるまでスイッチを押し続けます。
   スイッチのインジケータ・ランプが消灯し、自動コントロールに切替わります。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
K61-009
12
13
14
15
16
17

インストルメント・パネル

1 *ランプ・スイッチ*
2 *方向指示器／ハイビーム／パッシング・レバー*
3 *イグニッション・スイッチ／ステアリング・ロック*
4 *ハンドフリー・マイクロフォン＊*
5 *ホーン*
6 *フロント・ワイパー／ウォッシャ・レバー／リア・ワイパー*
7 *ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント（PCM）＊／オーディオ*
8 *室温センサ／GPSアンテナ＊*
9 *ハザード・ランプ・スイッチ*
10 *セントラル・ロッキング・ボタン、警報システム用ディスプレイ*
11 *カップ・ホルダ*
12 *オンボードコンピュータ用操作レバー*
13 *ステアリング調節用レバー*
14 *クルーズ・コントロール用操作レバー*
15 *エアコン用操作パネル*
16 *各スイッチ：*
リア・スポイラ、ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント（PASM）、スポーツ・モード、ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）
17 *シート・ヒーター・ボタン（右／左側）*

＊日本仕様に設定はありません。

0 - *初期位置*
1 - *イグニッションON*
2 - *エンジン始動*
3 -*イグニッションOFF*

イグニッション・スイッチ／ステアリング・ロック

イグニッション・スイッチには全部で4個のイグニッション・スイッチ位置があります。
車両キーは各イグニッション・スイッチ位置から初期位置に戻ります。

イグニッション・スイッチ位置0

初期位置

イグニッションON位置にする、またはエンジン始動すると、イグニッション・キーは抜取れなくなります。

イグニッション・キーを抜取るには：

▷ 車両を停止します。

▷ **ティプトロニックS装着車：**

セレクタ・レバーを**P**位置にシフトします。

▷ イグニッションをOFFにします。

▷ イグニッション・キーを抜取ります。

イグニッション・スイッチ位置1

イグニッションON

▷ イグニッション・キーを位置**1**に回すと、イグニッションがONになります。

知識：
すべてのアクセサリが作動可能になります。

▷ 「インストルメント・クラスタおよびオンボードコンピュータ上の警告」（104ページ）を参照してください。

イグニッション・スイッチ位置2

エンジン始動

▷ イグニッション・キーをイグニッション・スイッチ位置**2**に回します。

▷ 「エンジンの始動と停止」(66ページ)を参照してください。

イグニッション・スイッチ位置3

イグニッションOFF

▷ イグニッション・キーをイグニッション・スイッチ位置**3**に回します。

ステアリング・コラム・ロック

オートマチック・ロック

イグニッション・キーをイグニッション・スイッチから抜取ると、ステアリングは自動的にロックされます。

▷ **イグニッション・キーは車両が停止している場合にのみ抜取ってください。走行中に抜取ると、ステアリング・ロックがかかり車両がコントロールできなくなります。**

▷ お車から離れる場合は必**ずイグニッション・キーを抜取ってください**。

オートマチック・ロック解除

イグニッション・キーをイグニッション・スイッチに差込むと、ステアリングは自動的にロック解除されます。

エンジンの始動と停止

▷ 「イモビライザー」（14ページ）を参照してください。

▷ 「ウォッシャ液」（170ページ）を参照してください。

⚠ 警 告

排気ガスは少量ですが有毒な無色無臭の一酸化炭素を含んでいます。

▷ 換気の悪い場所では、エンジンを始動し長時間のアイドリングをしないでください。

排気システムは高温になり、引火する恐れがあります。

▷ 可燃物（乾燥した草や枯れ葉など）がある場所には、絶対に駐車しないでください。引火する恐れがあります。

エンジンの始動

▷ フット・ブレーキを踏んでください。

▷ クラッチ・ペダルを一杯に踏込んでください。

▷ シフト・レバーをニュートラルまたはセレクタ・レバーを**“P”**または**“N”**の位置にします。

▷ 電子制御部品が、ガソリンと空気の混合状態を最適に調整しているので、エンジン始動時はアクセル・ペダルを踏まないようにしてください。

▷ スターターを10秒以上は回さないでください。エンジンがかからない場合は、10秒程度、間をおいてから再始動させてください。スターターを再度回す場合は、キーをいったん**3**の位置まで戻してください。

1回目のスターターの作動はエンジンがかかると自動的に終了します。
スターターを回してもエンジンが始動しない場合は、その後のスターターの作動は自動的に停止しません。

▷ 停車時に暖機運転を行わないでください。

エンジンが通常の作動温度になるまでスロットル操作を控え目にし、エンジン回転数を上げないように注意してください。

バッテリが上がった場合は、ブースター・ケーブルを使用してジャンプ・スタートしてください。マニュアル・トランスミッションの場合は押しがけでエンジンをかけることもできます。

▷ 「ジャンパー・ケーブルによる始動」（206ページ）を参照してください。

▷ イグニッション・スイッチをONにしているときや、エンジン回転数が低いとき（渋滞時など）は、バッテリ上がりを防止し、エンジンの始動性を確保するためにも、不要なアクセサリの電源は切ってください。

エンジンの停止

▷ イグニッションをOFFにするときは、必ず車両を停止してください。イグニッションをOFFにすると、ステアリング・アシストおよびブレーキ・ブーストが効かなくなります。

▷ イグニッション・キーを抜くときは、必ず車両が静止させてください。イグニッション・キーを抜取るとステアリング・ロックがかかり、ステアリング操作ができなくなります。

▷ 車両から離れる場合は、**必ず**イグニッション・キーを抜取り、パーキング・ブレーキをかけてください。

知識：

バッテリ上がり防止のためにも、長期間エンジンを停止する場合はキーを抜いてください。

▷ 「2時間後または7日後の作動停止」（198ページ）を参照してください。

エンジン・ルーム・ブロワ、ラジエータ・ファン

ラジエータとラジエータ・ファンは、車両前方に取付けられています。

⚠ 警　告

エンジンをOFFにしてからも、コントロール・ユニットが約30分間、エンジン・ルームとクーラントの温度をモニターします。この間は、温度に応じてファンが作動しつづけたり、作動し始めますので怪我に注意してください。

▷ ラジエータ・ファンまたはエンジン・ルーム・ブロワの近くで作業を行うときはエンジンおよびイグニッションをOFFにして、手や髪を挟まれないようにしてください。致命的な怪我をする恐れがあります。

車両前方のラジエータ・ファンはエンジン作動中は作動しているか、不意に作動し始めますので怪我に注意してください。

▷ ラジエータ・ファンまたはエンジン・ルーム・ブロワの近くで作業を行うときはエンジンおよびイグニッションをOFFにして、手や髪を挟まれないようにしてください。致命的な怪我をする恐れがあります。

インストルメント・クラスタ

個別のインジケータ・ランプについての情報は、取扱説明書の関連の章を参照してください。

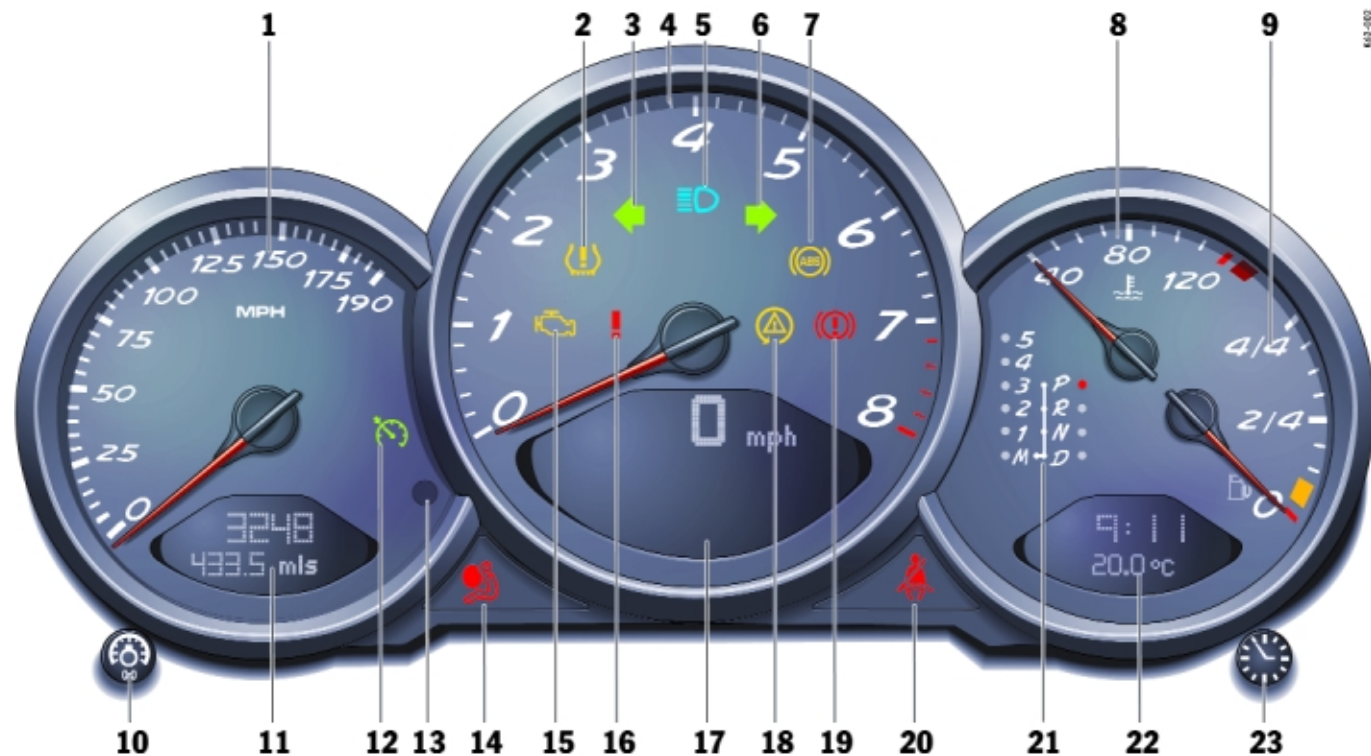
1 *アナログ・スピードメータ*
2 *TPMタイヤ空気圧警告灯*
3 *左方向指示灯インジケータ・ランプ*
4 *タコメータ*
5 *ハイビーム・インジケータ・ランプ*
6 *右方向指示灯インジケータ・ランプ*
7 *ABS警告灯*
8 *クーリング・システム*
水温計、警告灯
9 *燃料計、燃料残量警告灯*
10 *計器照明およびトリップ・コンピュータ用調整ボタン*
11 *走行距離計およびトリップ・カウンタ・ディスプレイ*
12 *クルーズ・コントロール作動表示灯*
13 *計器照明用ランプ・センサ*
14 *エアバッグ警告灯*
15 *エミッション・コントロール警告灯(チェック・エンジン)*
16 *全般的な警告灯*
17 *オンボードコンピュータ・ディスプレイ*
18 *ポルシェ・スタビリティ・マネージメント*
マルチファンクションPSMランプ
19 *パーキング・ブレーキ警告灯*
20 *シートベルト警告灯*
21 *ティプトロニック・インジケータ*
22 *時計および外気温ディスプレイ*
23 *時計調整ボタン*

イグニッションがONのとき、ランプの機能チェックのために警告灯が点灯します。

知識：

警告灯が点灯した原因はコントロール・ユニットのメモリー内に記憶されます。
その情報は、後にポルシェ正規販売店で読み取ることができます。

また、この情報により効率の良い修理作業が可能になります。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
125
150
175
100
190
MPH
75
50
25
0
3248
433.5 mls
1
2
3
4
5
6
7
8
0
0 mph
80
40
120
4/4
2/4
0
5
4
3
2
1
M
P
R
N
D
9:11
20.0 °C
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23

A - *計器照明およびトリップ・メーター調節ボタン*

クルーズ・コントロール・インジケータ・ランプ

このインジケータ・ランプが点灯すると、クルーズ・コントロールがセットされていることを示します。

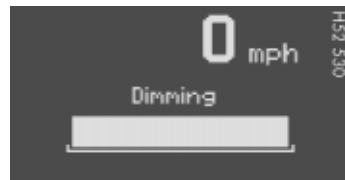
計器照明

照明は、タコメータ内のランプ・センサが周囲の明るさを感知して自動的に調節されます。

さらに、車のランプをONにすると、計器とスイッチの明るさは手動で調節できます。

⚠ 警 告

運転中に計器の明るさを調整すると車両のコントロールを失い、事故を起こす恐れがあります。

▷ 運転中にステアリングのスポークの間からボタンを操作しないでください。

計器照明の調節

▷ 調節ボタン**A**を希望の明るさになるまで回します。
インジケータがオンボードコンピュータに表示されます。

知識：

車のランプをONにすると、周囲の明るさを感知して、調節ボタンの照明が自動的に点灯／消灯します。

トリップ・メータ

⚠ 警 告

運転中にトリップ・メータを操作すると、車両のコントロールを失い、事故を起こす恐れがあります。

▷ 運転中にステアリングのスポークの間からボタンを押さないでください。

リセット方法

▷ 調節ボタン**A**を約1秒間押します。
または

▷ オンボードコンピュータの“SET”メニューで距離をリセットすることができます。

▷ 「オンボードコンピュータ」(80ページ)を参照してください。

9999kmを超えると0に戻ります。

スピードメータ

デジタル・スピードメータはオンボードコンピュータ・ディスプレイ内にあります。表示切替えボタンを回すとkm/h表示かmph表示に切替えることができます。

表示の切替え（km/h/mph）

走行距離および速度表示の単位もオンボードコンピュータの“SET”メニューで変更することができます。

▷ 「オンボードコンピュータの基本設定」（102ページ）を参照してください。

タコメータ

タコメータの表示が目盛りのレッド・ゾーンにあるとき、エンジン回転数が許容範囲を超えていることを示しています。

加速中にレッド・ゾーンに達すると、エンジンを保護するために燃料がカットされます。シフトダウン時は、エンジン回転限界を超えないように注意してください。

方向指示灯インジケータ・ランプ

インジケータ・ランプは方向指示灯と同じ一定の速度で点滅します。

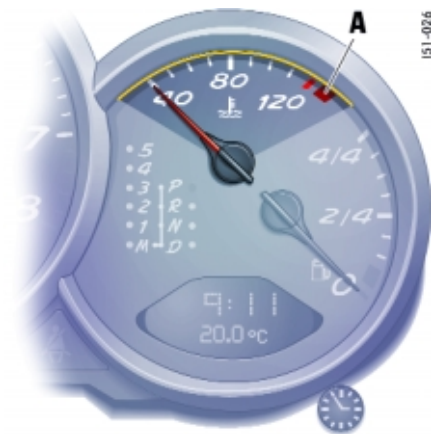
左向きの矢印—左方向指示灯のインジケータ・ランプ
右向きの矢印—右方向指示灯のインジケータ・ランプ

インジケータ・ランプの点滅速度が普段より速い場合は、方向指示灯に異常がないか点検してください。

ハイビーム・インジケータ・ランプ

ハイビームに切替えたり、パッシングすると、ハイビーム・インジケータ・ランプが点灯します。

クーリング・システム

▷ クーリング・システムに不具合が発生した場合は、直ちに最寄りのポルシェ正規販売店で修理を行ってください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

水温計（イグニッションON）

左を指しているときは、エンジンは暖まっていません。

▷ このときはエンジン回転数を控え目にして、負荷をかけないでください。

中央を指しているときは、エンジンは通常作動温度です。

気温が高いときにエンジンに強い負荷をかけるとレッド・ゾーンを示すことがあります。

警告灯 A

クーラントの温度が高くなり過ぎると、**警告灯が点灯します**。
また、オンボードコンピュータにも警告が表示されます。

▷ イグニッションをOFFにして、エンジンを冷やしてください。アイドリングをしないでください。

▷ ラジエータと車両前方の通気口に異物がないか点検してください。

▷ クーラント・レベルを点検してください。必要に応じて、クーラントを補充してください。

▷ ポルシェ正規販売店で修理を行ってください。

▷ 「クーラント・レベル」（161ページ）を参照してください。

知識：
過熱を防ぐために、通気口をフィルムやストーン・ガードなどで塞がないでください。
クーラント・レベルが低くなると、**警告灯が点滅します**。また、オンボードコンピュータにも警告が表示されます。

▷ イグニッションをOFFにして、エンジンを冷やしてください。

▷ クーラントを補充してください。

▷ ポルシェ正規販売店で修理を行ってください。

▷ 「クーラント・レベル」（161ページ）を参照してください。

⚠ 注 意

エンジンを損傷する恐れがあります。

▷ エンジンを止めてください。

▷ 走行中に警告灯が点滅したら、安全な場所に停車してください。

▷ 最寄りのポルシェ正規販売店で修理を行ってください。

エンジン・ルーム・ブロワ

エンジン・ルーム・ブロワが故障した場合も同じ**警告灯が点滅します**。また、オンボードコンピュータにも警告が表示されます。

▷ 故障は、ポルシェ正規販売店で修理してください。

ティプトロニックS

セレクタ・レバー・ポジション・インジケータおよびギヤ・ポジション・インジケータ

イグニション・スイッチをONにすると、現在のセレクタ・レバーまたはギヤの位置が点灯表示されます。

セレクタ・レバーが2つのギヤの間にある場合：

— インストルメント・クラスタのセレクタ・レバー・ポジションが消灯します。

かつ

— オンボードコンピュータに“Selector lever not engaged”と警告が表示されます。

▷ セレクタ・レバーを正しい位置に動かします。

トランスミッションに故障が発生した場合：

— インストルメント・クラスタの**4速ギヤ**表示と選択されているセレクタ・レバー・ポジションが交互に点滅します。

— オンボードコンピュータに“Tiptronic emergency run”と警告が表示されます。

▷ 「走行制限プログラム」（157ページ）を参照してください。

▷ ポルシェ正規販売店で直ちに故障の修理を受けてください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

▷ 「ティプトロニックS」（151ページ）を参照してください。

燃料計

レベル・ゲージ

イグニッション・スイッチをONにすると、燃料の残量が表示されます。

▷ 「容量」（234ページ）を参照してください。

上り坂や下り坂などで車が傾くと、表示がわずかに変化することがあります。

知識：

タンクがほとんど空でほんの少しだけ燃料を補給した場合、この量はレベル・ゲージで表示されず、燃料残量の算出範囲に入りません。

警告灯 A

エンジン作動中にレベル・ゲージの警告灯が点灯した場合、燃料タンクの残りが10リットルより少ないか、燃料の残量による走行可能距離が約50kmを切っています。またオンボードコンピュータの警告灯も点灯します。

▷ 警告灯が点灯したら、最も近い給油所で給油してください。

注 意

燃料が少ないまま走行すると、エミッション・コントロール・システムを損傷する恐れがあります。

▷ 燃料が完全になくなるまで走行をつづけないでください。

▷ 警告灯が点灯した場合は、カーブを曲がるときにスピードを出さないでください。

▷ 「エミッション・コントロール」（79ページ）を参照してください。

警告灯が点滅を始めた場合や、オンボードコンピュータに警告が表示された場合は、システムに不具合が発生しており、残量を表示することができません。

▷ ポルシェ正規販売店で修理を受けてください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

A - *時刻合わせ用ボタン*
B - *時計*
C - *外気温ディスプレイ*

時計

イグニッションをOFFにしてから約4分後、または車両をロックすると、時刻表示が消えます。

時刻合わせ

⚠ 警 告

走行時に時間設定を行うと、車両のコントロールを失い、事故を起こす恐れがあります。

▷ 運転中は絶対にステアリングのスポークの間から時刻合わせを行わないでください。

▷ イグニッション・スイッチをONにします。

時間セット

▷ 時刻合わせ用ボタン**A**を約1秒間押すと、時間表示が点滅を始めます。

▷ ボタンを回して時間を合わせます。
右に回すと、時間が進みます。
左に回すと、時間が戻ります。

ボタンを短い時間回すと、表示が1つずつ変化します。

回したまま保持すると、表示が連続して変化し、すばやく時間が合わせられます。

分セット

▷ 時刻合わせ用ボタン**A**をもう一度押すと、分表示が点滅を始めます。

▷ 時間のときと同じようにボタンを回して分を合わせます。

時刻合わせの終了

時刻合わせモードは1分後に自動的に終了します。**または**

▷ 時刻合わせ用ボタンをもう一度押しても終了できます。

このときボタンを押したまま保持しておいて、0秒のときにボタンを放すと、時刻が秒単位まで正確になります。

知識：

時間モードは、オンボードコンピュータで12hと24hに変えることができます。

外気温

外気温表示**C**は凍結警告表示ではありません。
外気温が0℃以上を表示している場合でも、特に橋の上や道路の日陰部分は凍結している場合があります。

バッテリ／オルタネータ

バッテリーの電圧が落ちた場合、オンボードコンピュータに警告メッセージが表示されます。

エンジンがかかった後も点灯したままだったり、走行中に点灯した場合

▷ 直ちに安全な場所に停車して、エンジンを停止してください。

考えられる原因

ー 充電システムの故障

ー ドライブ・ベルトの不具合

警 告

ドライブ・ベルトに不具合があると、パワー・ステアリングが作動せずステアリングが重たくなったり、エンジン冷却が行われず、事故の可能性やエンジンが故障する恐れがあります。

▷ 走行をつづけないでください。

▷ 故障は最寄りのポルシェ正規販売店で修理してください。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

全般的な警告灯

“INFO” メニューに警告メッセージが表示されると、インストルメント・パネルに警告灯が点灯します。

メッセージはオンボードコンピュータの“INFO” メニューに呼び出すことができます。

▷ 「“INFO” 警告メッセージ」（84ページ）を参照してください。

ブレーキ警告灯

以下の場合に、インストルメント・パネルの警告灯が点灯します。

ー パーキング・ブレーキをかけたとき

ー ブレーキ・オイル・レベルが低いとき

ー ブレーキ・パッドが摩耗限界に到達したとき

ー ブレーキ回路に不具合が起きたとき

さらに、オンボードコンピュータに警告が表示されます。

▷ 「インストルメント・クラスタおよびオンボードコンピュータ上の警告」（104ページ）を参照してください。

エミッション・コントロール

 警告灯

エミッション・コントロール・システムは排気に関連する構成部品の故障、例えば、排気中の有害物質の増加や重大な損傷を引き起こすような状態をできるだけ早期に発見します。
故障は警告灯の点灯または点滅やオンボードコンピュータによって表示され、コントロール・ユニットの故障メモリー内に記憶されます。

警告灯は、イグニッションをONにするとバルブ切れチェックのために点灯し、エンジンがかかると約4秒後に消灯します。

走行中に警告灯が点滅した場合やオンボードコンピュータに警告が表示された場合は、エミッション・コントロール・システムの部品に損傷をあたえる作動状態（失火など）にあることを示しています。

▷ この場合、直ちにアクセル・ペダルから足を放し、エンジンにかかる負荷を下げてください。

危険域の範囲を外れるまで、警告灯は点灯しつづけます。

エンジンまたはエミッション・コントロール・システム（触媒コンバータなど）の重大な損傷を避けるために：
▷ スピードを落とし、直ちに最寄りのポルシェ正規販売店で故障診断または修理を受けてください。
ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

⚠ 注 意

エンジンにかかる負荷を下げても警告灯が点滅をつづける場合は、エミッション・コントロール・システムがオーバー・ヒートしてる可能性があり、損傷する恐れがあります。

▷ 車両を直ちに安全な場所に停車してください。

乾燥した草や落葉などの引火性の高い物がある場所には、駐車したりエンジンを始動させないでください。高温の排気系に接触して発火する恐れがあります。

▷ エンジンを停止させてください。

▷ 最寄りのポルシェ正規販売店で修理してください。

オンボードコンピュータ

ディスプレイ

オンボードコンピュータはタコメータの下にあります。

操作前の準備

— イグニッション・スイッチをONにします。
— エンジンを始動させます。

操作手順

取扱説明書にはオンボードコンピュータの詳細をすべて記載することはできません。しかし、例を挙げて説明してありますので、主な機能についてはご理解いただけると思います。また、メニューも作業しやすいように工夫されています。

“SET” メニューを使用すると、いつでも初期設定値に戻すことができます。

作動レバー

オンボードコンピュータの作動レバーはステアリング・コラムの左下にあります。

オンボードコンピュータの選択機能

▷ レバーを上方向**3**または下方向**4**に操作します。

選択の確認（Enter）

▷ レバーを前方向**1**に操作します。

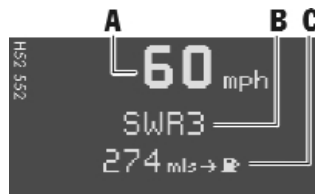
前の選択への復帰

▷ レバーを手前方向**2**に希望の選択に戻るまで操作します。

または

▷ オンボードコンピュータ・ディスプレイ上でこの矢印を選択し、作動レバーを前方向**1**に操作します。

知識：
作動レバーを繰り返し操作することにより、いつでも基本メニューに戻ることができます。

機能およびディスプレイ

A - *デジタル・スピードメータ*
B - *中央ディスプレイ*
C - *下部ディスプレイ*

知識：
オンボードコンピュータの項目およびディスプレイは車両の装備仕様により異なります。そのため、ここで示されている項目やディスプレイの中にはお客様のオンボードコンピュータにはないものが含まれている可能性があります。

基本設定

— 中央ディスプレイ：.....ラジオ局

オンボードコンピュータの中央ディスプレイ**B**は“SET”メニューで選択できます。

ディスプレイC上でのオンボードコンピュータ機能の表示

▷ 作動レバーを上方向または下方向に操作します。（選択領域**D**はOFFのこと。）

以下の項目は連続して呼び出すことができます。

— 平均車速（ϕ mph）
— 平均燃料消費量（ϕ mpg）
— 走行可能距離（mi ➔⛽）
— タイヤ空気圧＊
— ナビゲーション情報＊
（“SET”メニューで作動する場合）

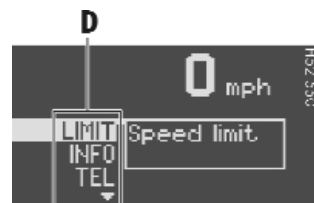
知識：
「平均車速」、「平均燃料消費量」、「トリップ走行距離」の値は“SET”メニューでリセットできます。

選択領域DのON/OFF

▷ 作動レバーを前方向または手前方向に操作します。

続きを表示する矢印E

下向き矢印：▽
▷ 作動レバーを下げると、追加メニューの続きが表示されます。

上向き矢印：△
▷ 作動レバーを上げると、追加メニューの続きが表示されます。

D - *選択領域*
E - *続きを表示する矢印*

＊日本仕様に設定はありません。

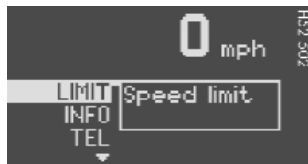
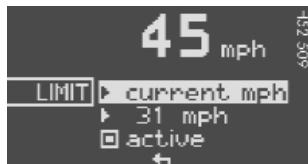
“LIMIT”
速度超過に対する警告音

警告音は10km/h（6mph）を超える設定速度に対して作動します。
設定速度を超過すると警告音が鳴ります。その後、設定速度から5km/h（3mph）以上減速した場合にのみ、再度警告音が有効になります。

選択領域D、ON

▷ 作動レバーを前方向に操作します。

車速の設定

▷ 作動レバーを使用して“LIMIT”を選択します。

▷ 作動レバーを前方向に操作します。

オプション1：
現在車速の受入れ

▷ 作動レバーを前方向に操作します。

現在車速に対し警告音が作動します。

表示：▣

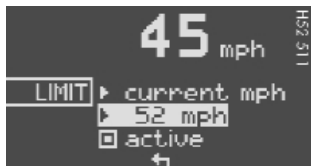
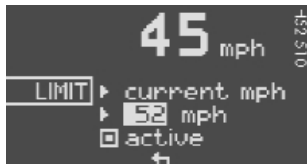
オプション2：
車速の事前設定

▷ 作動レバーを使用して、“LIMIT active”を選択します。

□ 非作動

▣ 作動

▷ 表示が“not active”を示した場合、作動レバーを前方向に操作します。

▷ 作動レバーを使用して、“xxmph”を選択します。

▷ 作動レバーを前方向に操作してください。

▷ 希望の車速になるまで、繰り返し作動レバーを軽く上下方向に操作します。

上：速度を上げる

下：速度を下げる

知識：
作動レバーを上方向または下方向にしばらく押したままにすると、速度が10km/h刻みに調整されます。

▷ 作動レバーを前方向に操作します。

警告音OFF

▷ 作動レバーを使用して、“LIMIT active”を選択します。

▷ 作動レバーを前方向に操作します。

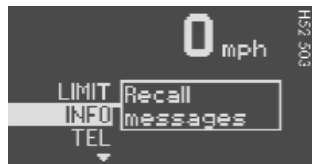
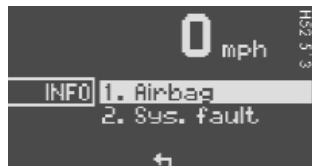
表示：□

“INFO”
警告メッセージ

選択領域D、ON

▷ 作動レバーを前方向に操作します。

警告メッセージの呼び出し

▷ 作動レバーを使用して、“INFO”を選択します。

▷ 作動レバーを前方向に操作します。

警告メッセージがある場合は、作動レバーを使用して呼び出すことができます。
走行中に表示された警告メッセージを呼び出すこともできます（このメッセージは次にイグニッション・スイッチをONにしたときに消去されます）。

▷ 作動レバーを前方向に操作します。

▷ 作動レバーを前方向または手前方向に操作します。

“INFO”のメニュー画面に戻ります。

“TEL” ＊

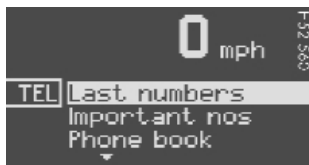
テレフォン・インフォメーション

選択領域D、ON

▷ 作動レバーを前方向に操作します。

テレフォン・インフォメーションの表示

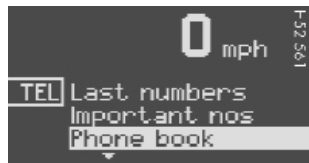
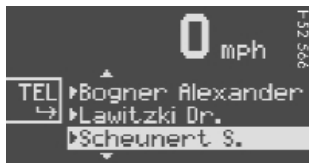
▷ 作動レバーを使用して、“TEL”を選択します。

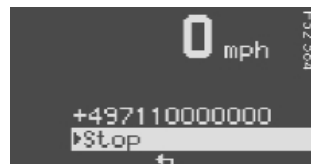
▷ 作動レバーを前方向に操作します。

知識：

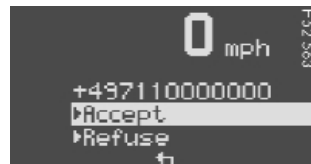
“Missed calls”メニューで着信履歴を呼び出すことができます。

例：

アドレス帳から選択して電話をかける

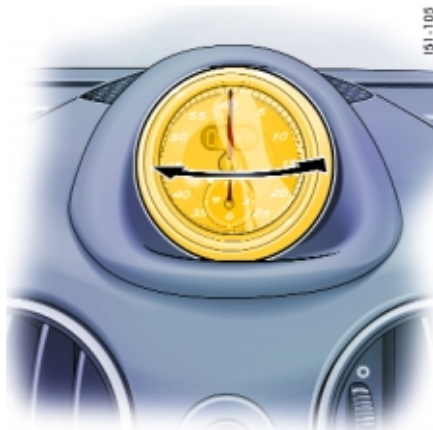
▷ 作動レバーを使用して、“Phone book”を選択します。

▷ 作動レバーを前方向に操作します。

▷ 電話をかける相手を選択し、作動レバーを前方向に操作します。

電話の呼び出しが始まります。

▷ 作動レバーを前方向に操作して電話を切ります。

着信

▷ “Accept”または“Refuse”を選択し、作動レバーを前方向に操作します。

知識：

拒否した電話は“Missed calls”メニューで呼び出すことができます。

＊日本仕様に設定はありません。

CHRONO

ストップウォッチ

ストップウォッチはレース場や業務上の走行時等の時間計測にご使用いただけます。ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント（PCM）＊装着車では測定したラップ時間を保存したり、必要に応じて評価することができます。

▷ PCM取扱説明書＊の「スポーツ・ディスプレイ」を参照してください。

インストルメント・パネル上のストップウォッチ

ストップウォッチにはアナログ・ディスプレイとデジタル・ディスプレイがあります。
アナログ・ディスプレイの長針は秒を計測します。短針2本は時間と分を計測します。ディスプレイは12時間表示となっています。
秒および百分の一秒の単位はデジタル・ディスプレイで読み取ることができます。
デジタル・ディスプレイおよびオンボードコンピュータのディスプレイは99時間、59分まで表示できます。

ストップウォッチは左右両方に向きを調節することができます。

ストップウォッチ・ディスプレイ：

– インストルメント・パネル上のストップウォッチ
– オンボードコンピュータの“CHRONO”メニュー
– PCMのパフォーマンス・ディスプレイ

ストップウォッチの開始／停止

すべてのストップウォッチ・ディスプレイはオンボードコンピュータの“CHRONO”メニューから開始／停止できます。

知識：

ストップウォッチ作動中に“CHRONO”メニューから抜けても、計測は続きます。

ストップウォッチはイグニッションをOFFにすると停止します。4分以内にイグニッションを再度ONにすると、ストップウォッチは作動を再開します。

ストップウォッチをゼロにリセットするには、“CHRONO”メニューの“Reset”を選択します。

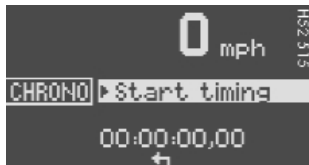
＊日本仕様に設定はありません。

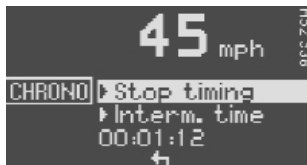
計時開始

▷ 作動レバーを前方向に操作します。

選択領域が表示されます。

▷ 作動レバーを使用して、“CHRONO” を選択します。

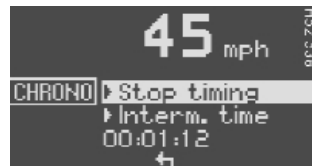
▷ 作動レバーを前方向に操作します。

▷ 作動レバーを前方向に操作します。

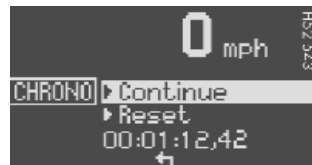
すべてのストップウォッチ・ディスプレイに計測時間が表示されます。オンボードコンピュータ・ディスプレイは “Stop timing/Interm. time” 選択領域に変わります。

PCM情報＊

ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント（PCM）のデータを分析するには、“Trip/Sport display/Begin trip” メニューのパフォーマンス・ディスプレイを選択する必要があります。

計時の停止

計時を開始すると、オンボードコンピュータ・ディスプレイは “Stop timing/Interm. time” 選択領域に変わります。

▷ 作動レバーを使用して、“Stop timing” を選択します。

▷ 作動レバーを前方向に操作します。

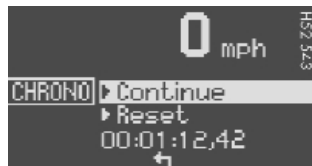
すべてのストップウォッチ・ディスプレイの計測時間が停止します。オンボードコンピュータ・ディスプレイは “Continue/Reset” 選択領域に変わります。

計時を続行するか、ゼロにリセットするか選択できます。

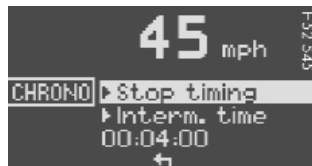
PCM情報＊

計時が終了すると、PCMディスプレイで計時結果を保存するか尋ねてきます。

＊日本仕様に設定はありません。

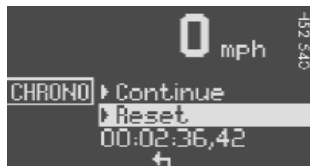
計時の継続

計時が停止すると、オンボードコンピュータ・ディスプレイは“Continue/Reset”選択領域に変わります。

▷ 作動レバーを前方向に操作します。

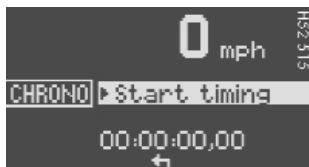
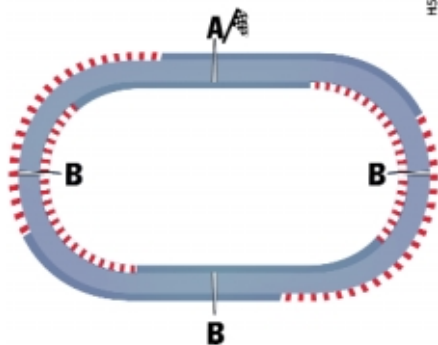
ストップウォッチ・ディスプレイの計測表示が再開します。

オンボードコンピュータ・ディスプレイは“Stop timing/Interm. time”選択領域に変わります。ストップウォッチを止めることも、途中経過を測定することもできます。

時間のリセット

計時が停止すると、オンボードコンピュータ・ディスプレイは“Continue/Reset”選択領域に変わります。

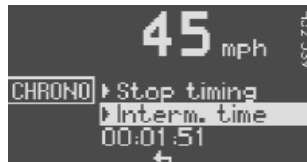
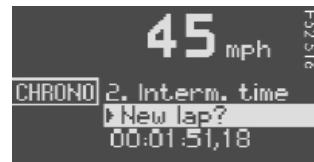
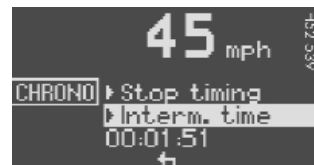
▷ 作動レバーを使用して、“Reset”を選択します。

▷ 作動レバーを前方向に操作します。

ディスプレイは“Start timing”選択領域に戻ります。

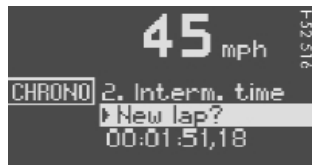
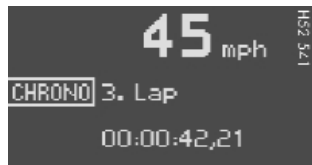
インストルメント・パネルのストップウォッチ・ディスプレイとオンボードコンピュータのディスプレイがゼロにリセットされます。

A - ラップ
B - *途中経過*

途中経過の表示

レース場でのルートごと、ラップごとの途中経過をいくつか表示することができます。途中経過**B**は参考情報です。
ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント（PCM）＊装着車では測定したラップ時間**A**を保存したり、必要に応じて評価することができます。

途中経過を表示させる：
計時を開始すると、オンボードコンピュータ・ディスプレイは“Stop timing/Interm. time”選択領域に変わります。

▷ 作動レバーを使用して、“Interm. time”を選択し、作動レバーを前方向に操作します。

途中経過が約5秒間表示されます。
その後、オンボードコンピュータ・ディスプレイは“Stop timing/Interm. time”選択領域に戻ります。

▷ ストップウォッチを止めることも、もう一度途中経過を測定することもできます。

＊日本仕様に設定はありません。

新しいラップの計時を開始するには：
“Interm. time”を選択すると、“New lap?”選択領域が5秒間表示されます。

▷ 作動レバーを使用して、“New lap?”を選択し、作動レバーを前方向に操作します。

新しいラップがオンボードコンピュータおよびPCM＊に表示されます。オンボードコンピュータおよびPCM＊の計測時間はゼロに戻ります。インストルメント・パネルのストップウォッチは合計時間表示を継続します。

▷ しばらくして、オンボードコンピュータ・ディスプレイは“Stop timing/Interm. time”選択領域に戻ります。

▷ ストップウォッチを止めることも、もう一度途中経過または新しいラップを測定することもできます。

PCM情報＊
ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント（PCM）＊にラップ時間を保存したい場合は、PCM＊の“Trip/Sport display/Begin trip”メニューのパフォーマンス・ディスプレイを選択する必要があります。

＊日本仕様に設定はありません。

“TPM” タイヤ空気圧モニタリング・システム＊

タイヤ空気圧モニタリング・システムは継続的に4輪のタイヤの空気圧およびタイヤ温度を監視し、空気圧が低下した場合にドライバに警告を発します。

タイヤ空気圧の表示、タイヤ空気圧モニタリング・システムの設定はオンボードコンピュータで行います。

タイヤ空気圧モニタリング・システムは監視を行うのみで、空気圧を調整することはできません。タイヤ空気圧の調整は別途行ってください。

▷ タイヤ空気圧モニタリング・システムはタイヤの空気圧を監視しますが、空気圧を正しく維持することができるのはドライバ自身であることを心掛けてください。

タイヤ空気圧モニタリング・システムには、以下の機能があります。

- 走行中のタイヤ空気圧を表示
- 補充が必要なタイヤ空気圧を表示
- 装着されているタイヤ・サイズおよびタイヤの種類を表示
- 2段階のタイヤ空気圧警告

⚠ セーフティ・ノート

タイヤ空気圧モニタリング・システムが装着されていても、タイヤ空気圧を正規に保つことや、必要に応じてシステムの設定を変更することはドライバの責任です。

タイヤ空気圧が正規でない場合、安全な走行に支障をきたしたり、タイヤやホイールを損傷する恐れがあります。

▷ パンクの警告が表示された場合には、速やかに適切な場所に停車させ、タイヤの損傷を点検してください。必要に応じて、タイヤ・シーラントで補修してください。

▷ 空気漏れが発生しているタイヤで走行を続けることは避けてください。

▷ タイヤ・シーラントは緊急時の場合のみ使用してください。最大許容速度は**80km/h**です。

▷ タイヤ空気圧調整後、短時間で再び空気圧が低下する場合は使用を中止し、ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。

▷ 不具合の発生したタイヤは、ポルシェ正規販売店で交換してください。

どのような場合でも、タイヤを修理して使用することは承認されていません。

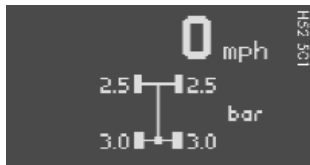
▷ タイヤ空気圧モニタリング・システムに不具合が発生した場合（ホイール・トランスミッタの故障など）、直ちにポルシェ正規販売店で修理を受けてください。このとき、タイヤ空気圧は監視されません。

▷ タイヤ空気圧を調整する場合、タイヤ・プレッシャ・メニューの“Info pressure（タイヤ空気圧情報）”の表示、または個々のタイヤ空気圧警告の数値のみを使用してください。

▷ パンク等の不具合が発生していなくとも、タイヤ空気圧は徐々に低下します。この場合も、タイヤ空気圧が低下するとオンボードコンピュータに警告が表示されます。早目にタイヤ空気圧を調整してください。

▷ タイヤ空気圧モニタリング・システムは空気圧の自然低下だけでなく、異物などにより空気圧が徐々に低下した場合も警告を発します。

ただし、突然のパンク等には警告を発することができません。

＊日本仕様に設定はありません。

オンボードコンピュータのタイヤ空気圧表示機能

オンボードコンピュータのタイヤ空気圧画面では、タイヤ温度によって変化する実際のタイヤ空気圧が表示されます。
走行によって、上昇したタイヤ温度に伴う空気圧の変化を確認することができます。
この画面は情報表示のみに使用します。

▷ いかなる場合も、この画面に表示される空気圧を変更することはできません。

オンボードコンピュータのタイヤ空気圧画面を表示させる

▷ タイヤ空気圧画面が表示されるまで、作動レバーを押し下げる、または押し上げます。
（選択領域が**スイッチOFF**のこと）

タイヤ空気圧メニューの空気圧情報

物理原則に従い、空気圧は温度の変化に応じて変動します。
タイヤ空気圧は10℃の温度変化につき、約0.1bar増加、または減少します。
タイヤ空気圧モニタリング・システムはこのタイヤ空気圧と温度の関係を考慮して演算します。

この画面の表示により、空気圧の調整が必要なタイヤを判断することができます。

空気圧の低下が表示されたタイヤの空気圧を調整してください。
例：“－0.1bar”が表示された場合、空気圧0.1barを補充する必要があります。

知識：
タイヤ空気圧メニューは停車時のみに表示させることができます。

“Info pressure（空気圧情報）”を表示させる

▷ 選択領域がONになるように、作動レバーを前方に押します。
▷ 作動レバーで“TPC（タイヤ空気圧モニタリング・システム）”を選択します。
▷ 作動レバーを前方に押します。
“Tyre pressure menu（タイヤ空気圧メニュー）”が表示されます。
▷ 作動レバーで“Info pressure（空気圧情報）”を選択します。
▷ 作動レバーを前方に押します。

知識：
イグニッション・スイッチをONにしてから、全てのタイヤの空気圧が表示されるまで約1分間かかる場合があります。その間はタイヤ空気圧の代わりにダッシュ記号(“-.-”）が表示されます。

タイヤ空気圧メニューのタイヤ情報

装着しているタイヤに関して、以下の情報を表示します：

— タイヤ・タイプ：
  サマー・タイヤ、ウィンター・タイヤ
— タイヤ・サイズ：
  18インチ、19インチ

“Info tyres（タイヤ情報）”には現在装着しているタイヤの設定が表示されます。

“Info tyres（タイヤ情報）”を表示させる

▷ 選択領域がONになるように、作動レバーを前方に倒します。

▷ 作動レバーで“TPC（タイヤ空気圧モニタリング・システム）”を選択します。

▷ 作動レバーを前方に倒します。
“Tyre pressure menu（タイヤ空気メニュー）”が表示されます。

▷ 作動レバーで“Info tyres（タイヤ情報）”を選択します。

▷ 作動レバーを前方に倒します。

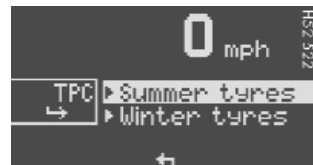
“SET（設定）”メニューによるタイヤ選択

▷ 選択領域がONになるように、作動レバーを前方に倒します。

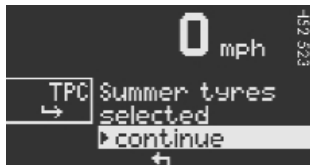
▷ 作動レバーで“TPC（タイヤ空気圧モニタリング・システム）”を選択します。

▷ 作動レバーを前方に倒します。
“Tyre pressure menu（タイヤ空気メニュー）”が表示されます。

▷ 作動レバーで“SET（設定）”を選択します。

▷ 作動レバーを前方に倒します。

▷ ご希望のタイヤ・タイプ（サマー・タイヤ／ウィンター・タイヤ）を選択します。

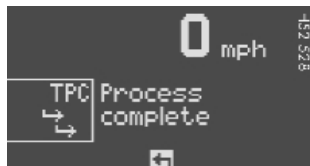
▷ 作動レバーを前方に倒します。
選択したタイヤ・タイプを確認する画面が表示されます。

▷▷▷

▷ “Continue（続き）”を選択し、作動レバーを前方に倒します。

▷ 適切なタイヤ・サイズ（18インチ／19インチ）を選択し、作動レバーを前方に倒します。
選択したタイヤ・サイズを確認する画面が表示されます。

知識：
このメニューは、複数のタイヤ・サイズが選択可能な場合に限り、表示されます。

▷ “Continue（続き）”を選択し、作動レバーを前方に倒します。

タイヤ特性の設定は、オンボードコンピュータに"Process complete（設定完了）"のメッセージが表示された場合にのみ正常終了しています。

▷ 矢印（黒色）を選択し、作動レバーを前方に倒します。“Tyre pressure menu（タイヤ空気メニュー）”に戻ります。
オンボードコンピュータには“System learning（システム登録）”のメッセージが表示されます。

知識：
設定プロセスが中断された場合には“Process cancelled（プロセス中断）”のメッセージが表示されます。この時点までの入力情報は全て失われ、元の設定が有効になります。
設定終了時に、“Process complete（設定完了）”のメッセージが表示された場合にのみ、タイヤ空気圧モニタリング・システムはタイヤの再登録を行います。

▷ 「“System learning（システム登録）”」（97ページ）を参照してください。

オンボードコンピュータに登録されていないサイズのタイヤに交換する場合には、事前にオンボードコンピュータに不足情報を追加する必要があります。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

▷ ポルシェ社が承認したタイヤのみをご使用ください。

タイヤ空気圧メニューの項目は車両の装備仕様により異なります。そのため、ここで示されている項目やディスプレイの中にはお客様のオンボードコンピュータにはないものが含まれている可能性があります。

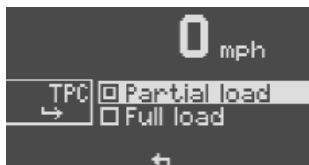
積載重量

(装備仕様によって異なります)

▷ 選択領域がONになるように、作動レバーを前方に倒します。

▷ 作動レバーで“TPC（タイヤ空気圧モニタリング・システム)”を選択します。

▷ 作動レバーを前方に倒します。
“Tyre pressure menu（タイヤ空気圧メニュー)” が表示されます。

▷ 作動レバーで“Load（積載重量)” を選択します。

▷ “Partial load（部分積載)” また“Full load（全積載)” を選択して、作動レバーを前方に倒します。

▷ 「タイヤ空気圧プレート」(227ページ)を参照してください。

▷ タイヤ空気圧がオンボードコンピュータの設定と一致していることを確認してください。必要に応じて、タイヤ空気圧を調整してください。

タイヤ空気圧の警告

タイヤ空気圧モニタリング・システムは、空気圧低下の程度に応じて、2段階に分けて警告します。

ステージ1ーAdd air（空気圧の補充）
（0.2～0.4barの空気圧が低下）

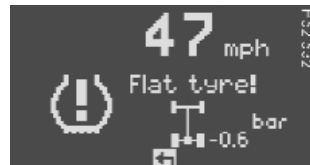
ステージ2ーFlat tyre（タイヤがパンクしている）
（タイヤ空気圧が0.4bar以上低下）

ステージ1ーAdd air（空気圧の補充）

タイヤ空気圧が0.2～0.4bar低下しました。タイヤ空気圧が正規でない場合、安全な走行に支障をきたしたり、タイヤやホイールを損傷する恐れがあります。

▷ タイヤ空気圧警告は空気圧の低下したタイヤを判別し、補充が必要な空気圧と共に表示します。

早目に空気圧を調整してください。

この警告は停車時に表示されるため、安全に確認することができます。
タイヤ空気圧が調整されると、インストルメント・クラスタの警告灯は消灯します。

ステージ2ーFlat tyre（タイヤがパンクしています）

0.4bar以上の重大な空気圧の低下が検知されました。安全な走行に支障をきたします。

▷ この警告がオンボードコンピュータに表示された場合には、速やかに適切な場所に停車させ、タイヤの損傷を点検してください。必要に応じて、リペア・キットで補修してください。

この警告は走行時に表示されます。
タイヤ空気圧が調整されると、インストルメント・クラスタの警告灯は消灯します。

システム登録

タイヤ空気圧モニタリング・システムは、タイヤ交換後、ホイール・トランスミッタの交換後、またはタイヤ設定の更新後にタイヤの“learn（登録）”を開始します。このプロセス中にタイヤ空気圧モニタリング・システムは個々のタイヤ・タイプおよび装着位置を識別します。オンボードコンピュータ・ディスプレイには“TPM not active - system learning（TPM非作動ーシステム登録）”のメッセージが表示されます。

タイヤ空気圧モニタリング・システムがタイヤの登録をするには一定の時間が必要です。この間、オンボードコンピュータに現在のタイヤ空気圧は表示されません。

ー オンボードコンピュータのタイヤ空気圧機能表示は数段に分かれています。

ー 20℃時の冷間タイヤ規定空気圧はタイヤ空気圧メニューの“Info pressure（タイヤ空気圧情報）”画面に表示されます。

ー タイヤ空気圧の警告は、車両のタイヤが識別され、タイヤ空気圧警告灯が消灯するとタイヤ空気圧および位置情報（図参照）を伴わずに表示されます。

タイヤ空気圧および位置情報は、タイヤ空気圧モニタリング・システムが車両に適していると識別したタイヤを正しいタイヤ位置に割り当てると直ちに表示されます。
車両を運転すると、タイヤ登録プロセスは単独で実行されます。

▷ 全てのタイヤの空気圧を手作業で点検し、空気圧を規定値に調整します。

ホイール交換およびタイヤの交換

▷ 新品のホイールには、タイヤ空気圧モニタリング・システム用に無線トランスミッタを取付ける必要があります。
タイヤを交換する前に、ホイール・トランスミッタの電池充電状態を点検してください。
ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

▷ タイヤ交換時には必ずイグニッション・スイッチをOFFにしてください。

ホイール交換後は、オンボードコンピュータのタイヤ設定を必ず更新してください。

新品タイヤの特性がオンボードコンピュータの設定に適合しない場合、メッセージが表示されます。

▷ 次回車両が停止したときに、オンボードコンピュータの設定を更新してください。

警告灯

以下の場合、スピードメータ内の警告灯が点灯します。

— タイヤ空気圧の低下が検出された場合
— タイヤ空気圧モニタリング・システムに故障が発生している場合
— ホイール／ホイール・トランスミッタを新しく取付け、車両がホイール識別を行っている場合

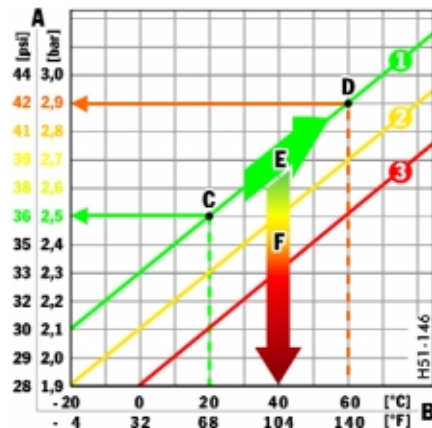
故障が修理されると、インストルメント・クラスタ内のタイヤ空気圧警告灯は消灯します。

タイヤ空気圧の監視が行えない場合

故障が発生すると、タイヤ空気圧モニタリング・システムはタイヤ空気圧の監視を行うことができません。
インストルメント・クラスタの警告灯が点灯し、オンボードコンピュータにメッセージが表示されます。

以下の場合、タイヤ空気圧の監視を行うことができません。

— タイヤ空気圧モニタリング・システムに故障が発生している場合
— ホイールにタイヤ空気圧モニタリング・システム用のトランスミッタが紛失した場合
— ホイールを交換してしばらくの間
— 4個以上のホイール・トランスミッタが識別された場合
— コードレス・ヘッドフォンなどによる外部からの電波干渉を受けている場合
— タイヤの温度が高すぎる場合

▷ 「インストルメント・クラスタおよびオンボードコンピュータ上の警告」（104ページ）を参照してください。

温度上昇に伴う空気圧の増加

A　タイヤ空気圧
B　タイヤ温度
C　低温時のタイヤ空気圧
D　温間時のタイヤ空気圧
E　温度上昇に伴う空気圧増加
F　不具合／漏れタイヤの空気圧低下

1. 規定空気圧直線
2. 警告ステージ1（-0.2〜-0.4 bar）
3. 警告ステージ2（-0.4 bar以上）

物理的原理に従い、空気圧は温度の変化に応じて変動します。
タイヤ空気圧は10℃の温度変化につき、約0.1bar増加、または減少します。
タイヤ空気圧モニタリング・システムはこのタイヤ空気圧と温度の関係を考慮して演算します。

タイヤ空気圧規定値

一般道走行時のタイヤ空気圧に関する情報は、本書の3ページまたは運転席ドア開口部のタイヤ空気圧プレートにも記載されています。
これらの値は冷間時（20℃）のタイヤ空気圧に適用されます。

▷ タイヤ空気圧を調整する場合、“Tyre pressure menu（タイヤ空気圧メニュー)”の“Info pressure（タイヤ空気圧情報)”の表示、または個々のタイヤ空気圧警告の数値のみを使用してください。

“OIL”

オイル・レベルの表示および測定

⚠ 注 意

エンジンが損傷する恐れがあります。

▷ 給油時には必ず定期的にオイル・レベルを点検してください。

▷ オイル・レベルが“MIN”マーク以下にならないよう注意してください。

オイル・レベル測定条件

1. 正確なオイル・レベル測定には車両が**水平状態**にあることが非常に重要です。
2. エンジン停止状態
3. イグニッション・スイッチON状態

オイルの戻り時間

オイル・レベルを測定する前に、エンジン・オイルはオイル・パンに戻っている必要があります。
オイルの戻り時間は、エンジンの温度およびエンジンの停止時間によって異なります。

この待ち時間は、イグニッションをONにするとオンボードコンピュータ・ディスプレイでオイル・ディスプレイが一桁ずつ点滅し、カウント・ダウンされます。

▷ エンジン・オイル・レベルの測定は、長距離運転前またはエンジンが作動温度のときに実施するのが最適です。この時に測定すると、待ち時間が短くなります。

オイル・レベル測定の開始

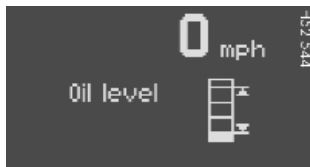
▷ イグニッションをONにします。（エンジンはスタートしません）

エンジン・オイル・レベル測定表示がオンボードコンピュータに表示されます。

▷ オイル・レベル測定の待ち時間はディスプレイに表示されます。

▷ 測定が終了すると、セグメント表示によりエンジン・オイル・レベルがわかります。

— セグメントが最上部まで表示されている場合は、オイル・レベルが“MAX”マークに達しています。

▷ この状態でない場合は、エンジン・オイルを補充します。

— 最下部のセグメントが表示されている場合、オイル・レベルは“MIN”マークに達しています。

▷ 直ちにエンジン・オイルを補充してください。

— 最下部のセグメントが点滅している場合、オイル・レベルは“MIN”マークを下回っています。

▷ 直ちにエンジン・オイルを補充してください。

セグメント表示の“MIN”と“MAX”マーク間は約1.2リットルです。
表示セグメント1個は約0.4リットルの補充量に相当します。

▷ 必要に応じてエンジンオイルを補充します。

「エンジン・オイル・レベル」（164ページ）を参照してください。

オイルを補充する前に、イグニッション・スイッチをOFFにしてください。

▷ “MAX”マーク以下であっても、必要量以上のオイルを補充しないでください。

給油中のオイル・レベル測定

給油中、オイル・レベルは自動的に測定されます。

作業準備

1. イグニッション・スイッチをOFFにします。
2. エンジンが作動温度の場合、駐車してからエンジンを始動するまでの時間が5分以上経過していなければなりません。
3. 給油は15分以内で完了してください。

イグニッション・スイッチをONにすると、エンジン・オイル・レベルがセグメント表示されます。

以下の要件を満たしていない場合は、測定は中止されます。

▷ "OIL"メニューでオイル・レベル測定を開始

または

▷ イグニッション・スイッチをONにしてオイル・レベル測定を開始

故障

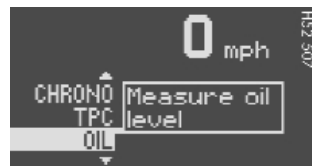
オイル・レベル表示の故障はオンボードコンピュータの警告メッセージで表示されます。

“OIL”メニューからのオイル・レベル測定

選択領域D、ON

▷ 作動レバーを前方向に操作します。

オイル・レベル測定の開始

▷ 作動レバーを使用して、“OIL”を選択します。

▷ 作動レバーを前方向に操作します。

測定が開始されます。

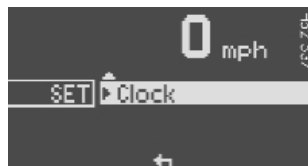
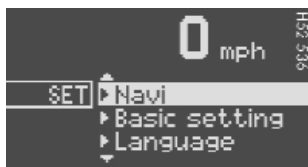
“SET”
オンボードコンピュータの基本設定

選択領域D、ON

▷ 作動レバーを前方向に操作します。

オンボードコンピュータ基本設定の変更

▷ 作動レバーを使用して、“SET” を選択します。

▷ 作動レバーを前方向に操作します。

▷ 作動レバーを使用して、変更したい設定を選択します：

リセット

— 全てリセット

トリップ・カウンタ、平均車速、平均燃料消費量のリセット

単位

— スピードメータ
km - km/h、miles - mph

— 燃費
l/100km、mls/gal（USA）、mpg（UK）、km/l

— 温度
℃、゜F

— タイヤ空気圧
bar、psi

ディスプレイ（中央部）

— ディスプレイの変更

オーディオ情報（ラジオ選局設定）
残燃料による推定走行可能距離
燃費残量少

— 電話情報＊

電話情報機能が作動している場合、オンボードコンピュータに着信が表示されます。

＊日本仕様に設定はありません。

ナビゲーション＊

－ ナビゲーション（オンボードコンピュータ・ディスプレイにナビゲーションの操作説明を表示させることができます。）
－ 方向転換（方向転換の前にのみナビゲーションによる指示が表示されます。）

基本設定

－ オンボードコンピュータ基本設定への復帰

言語

－ 言語バージョンの選択

12h／24hモード

－ 時刻表示のモード：12 h 、24h（時間の左側にAM/PMが表示されます。）

オンボードコンピュータ機能に関する一般的情報

燃料の残量による走行可能距離

長距離走行中は燃料の残量による走行可能距離が、燃料タンクの残量、平均燃料消費量に基づいて継続的に計算されています。タンクの残量が低下すればするほど、表示への影響が大きくなります。このため、走行可能距離が15 km以下になると表示されなくなります。

走行中に車両の傾きが変化したり給油したりすると、走行可能距離が一時的に不正確になる可能性があります。

知識：
ほぼ空のタンクにごく少量しか給油しない場合は、燃料の残量による走行可能距離は計算されません。

平均燃料消費量および平均速度

表示された数値は、平均燃料消費量および平均速度表示が前回0にリセットされてからの走行に基づいています。

走行前および走行中に測定開始ポイントを設定できます。
イグニッションのスイッチをOFFにしても、測定はリセットされません。
数値は、長時間にわたって収集することができます。
メモリは車両バッテリが切り離されると消去されます。

タイヤ空気圧＊

オンボードコンピュータの**タイヤ空気圧**表示機能には、タイヤ温度に応じたタイヤ空気圧が表示されます。走行中のタイヤ空気圧の上昇および低下を確認することができます。

この画面は情報表示のみに使用します。タイヤ空気圧を調整する場合、必ずタイヤ空気圧メニューの“Info pressure（タイヤ空気圧情報）”に表示された値を使用してください。

＊日本仕様に設定はありません。

インストルメント・クラスタおよびオンボードコンピュータ上の警告

▷ 警告記号が表示された場合は、必ず取扱説明書の関連の章を参照してください。
すべての測定条件に合致している場合のみ、警告メッセージが表示されます。

▷ したがって、すべてのフルード・レベルを定期的に点検すること、特に給油時には常にオイル・レベル点検を心がけることが重要です。

インストルメント・クラスタ	オンボードコンピュータ	オンボードコンピュータのメッセージ	意味／対策
		Seat belt	乗員は全員シートベルトを着用してください。
		Handbrake	パーキング・ブレーキが解除されていません。
		Ignition key not removed	キーが抜かれていません。
		Replace battery in ignition key	リモート・コントロールの電池を交換してください。
		Ignition lock faulty, Visit workshop	イグニッション・スイッチが故障している可能性があります。ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
		Ignition lock faulty, Visit workshop now	イグニッション・スイッチが故障している可能性があります。ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
		Relieve steering	ステアリングを左右に動かして、ステアリング・ロックを解除してください。
		Steering locked	ステアリング・ロックが解除されません。ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
		Lights on	ロー・ビーム／車幅灯が点灯しています。
		Parking light is on	パーキング・ランプが点灯しています。

インストルメント・クラスタ	オンボードコンピュータ	オンボードコンピュータのメッセージ	意味／対策
		Check left/right dipped beam 以下にも適用 フロント・サイド・ランプ、方向指示灯、ハイビーム、フォグランプ、サイド・インジケータ・ランプ、ブレーキ・ランプ、テールランプ、リア・フォグランプ、後退灯、ハイマウント・ブレーキ・ランプ	表示されたランプが故障している可能性があります。バルブを点検してください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
		Daytime driving lights off	エンジンを停止すると、デイタイム・ドライビング・ライトがOFFになります。必要に応じてスイッチをONにしてください。
		Headlight beam adjustment faulty	ヘッドランプ自動高さ調整機能が故障している可能性があります。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
		Front lid not close	フロント・トランク・リッドをきちんと閉めてください。
		Rear lid not closed	エンジン・ルーム・リッドをきちんと閉めてください。
		Rain sensor faulty	レイン・センサが故障している可能性があります。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。*
		Refill washer fluid	ウォッシャ液を補充してください。
		LIMIT Cannot be accepted with car stopped	車両走行中の場合、現在の速度に対してのみ警告音が作動します。
		LIMIT 50	警告音が作動する選択速度限度値（50km/h）を超えました。必要であれば速度調整をしてください。
燃料警告灯		Consider remaining range	燃料を補給してください。

インストルメント・クラスタ	オンボードコンピュータ	オンボードコンピュータのメッセージ	意味／対策
		Check engine oil level	オンボードコンピュータのエンジン・オイル・レベル測定を開始してください。 車両を水平状態にして、イグニッション・スイッチをONにしてください。
		Engine oil pressure too low	適切な場所で直ちに停車し、オンボードコンピュータでオイル・レベルを測定してください。必要に応じてオイルを補充してください。
エンジン温度警告灯点灯		Engine temperature too high	エンジンをOFFにしエンジン温度を下げてください。 クーラント・レベルを点検してください。必要に応じてクーラントを補充してください。
エンジン温度警告灯点滅		Check coolant level	エンジンをOFFにしエンジン温度を下げてください。 クーラント・レベルを点検してください。必要に応じてクーラントを補充してください。
		Check engine Visit workshop	エンジン構成部品が故障している可能性があります。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
		Reduced engine power	エンジン構成部品が故障している可能性があります。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
エンジン・ルーム温度警告灯点滅		Failure of engine comp. blower	エンジン・ルーム・ブロワが故障している可能性があります。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
		Warning Battery/generator	適切な場所で直ちに停車し、運転を中止してください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
		Failure Oil pressure indicator	油圧計が故障している可能性があります。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
		Failure Oil level indicator	オイル・レベル表示システムが故障している可能性があります。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊

インストルメント・クラスタ	オンボードコンピュータ	オンボードコンピュータのメッセージ	意味／対策
		Oil temp. indicator faulty	油温計が故障している可能性があります。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
		Failure indicator	クーラント・インジケータが故障している可能性があります。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
		Service wear on brake pads	ブレーキ・パッドを直ちに交換してください。 ポルシェ正規販売店で交換してください。＊
		Warning Brake fluid level	適切な場所で直ちに停車し、運転を中止してください。 ポルシェ正規販売店で交換してください。＊
		Warning Brake distribution	適切な場所で直ちに停車し、運転を中止してください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
ABS		ABS failure	ABSが故障している可能性があります。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
		PSM off	ポルシェ・スタビリティ・マネージメントがOFFになっています。
		PSM on	ポルシェ・スタビリティ・マネージメントがONになっています。
		PSM failure	PSMが故障している可能性があります。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
		PASM Normal/Sport	ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメントの現在の設定
		PASM failure	PASMが故障している可能性があります。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
		PASM indicator faulty	PASMインジケータが故障している可能性があります。ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊

インストルメント・クラスタ	オンボードコンピュータ	オンボードコンピュータのメッセージ	意味／対策
		Failure Sport mode	スポーツ・モードが故障している可能性があります。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
		System fault Airbag	エアバッグが故障している可能性があります。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
		Failure spoiler control	格納式リア・スポイラが故障している可能性があるため、走行安定性が損なわれる可能性があります。運転スタイルを調整してください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
セレクタ・レバー位置表示点滅		Selector lever not engaged	ティプトロニックS： セレクタ・レバーが中間位置にある可能性があります。セレクタ・レバーを正しい位置にシフトしてください。
		Move selector lever to P	ティプトロニックS： セレクタ・レバーをPポジションに入れてから、キーをイグニッション・ロックから抜いてください。
		Apply brake	ティプトロニックS： 始動時にはブレーキを踏んでください。
		Depress clutch pedal	マニュアル・トランスミッション： 始動時にはクラッチを踏み込んでください。
		Move selector lever to P or N	ティプトロニックS： 始動時には、セレクタ・レバーを必ずPかN位置にしてください。
セレクタ・レバー位置表示点滅		Tiptronic emergency run	ティプトロニックが故障している可能性があります。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
		Flat tyre!	タイヤ空気圧モニタリング・システムが深刻な空気圧低下を検知しました。 適切な場所で停車し、タイヤの損傷を点検してください。必要であればタイヤ・シーラントを充填します。（日本仕様に設定はありません。）

インストルメント・クラスタ	オンボードコンピュータ	オンボードコンピュータのメッセージ	意味／対策
		Add air	タイヤ空気圧モニタリング・システムが緩やかな空気圧低下を検知しました。出来るだけ早くタイヤ空気圧を調整してください。
		TPM inactive System learning	タイヤ空気圧モニタリング・システムは車両のタイヤの登録をしています。タイヤ空気圧モニタリング・システムはタイヤおよび取付け位置を探しています。この時間中は現在の空気圧仕様がオンボードコンピュータに表示されません。
		TPM inactive	タイヤ空気圧モニタリング・システムが故障しています。 ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。＊
		TPM inactive Brief disturbance TPM inactive Too many wh. transm.	電波干渉を受ける（車内の別のホイール・トランスミッタなど）またはホイール・センサが高温（約120℃）になると、システムが一時的に停止されます。干渉がなくなると、システムは自動的に再作動します。
		Wheel change ? Reset TPM	出来るだけ早くオンボードコンピュータの“TPM”メニューの設定を更新してください。このメニューで間違った入力を行うと、正しい空気圧情報が得られなくなり、安全性が損なわれます。
		TPM Indicator failure	タイヤ空気圧モニタリング・システムのディスプレイが故障しています。 ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。＊
		System fault Visit workshop	複数のシステムが故障している可能性があります。走行スタイルを調整してください。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊

インストルメント・クラスタ	オンボードコンピュータ	オンボードコンピュータのメッセージ	意味／対策
		Failure Fuel level indicator Workshop	燃料計が故障している可能性があります。 ポルシェ正規販売店で故障を修理してください。＊
		Service in km/days	サービス・インジケータ 表示された距離／時間を過ぎないうちに、サービス点検を受けてください。 ただし、整備手帳に記載のサービス・インターバルが優先です。
		Service now	サービス・インジケータ ポルシェ正規販売店でサービス点検を受けてください。＊

* ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

警告メッセージの確認

警告メッセージはオンボードコンピュータ・ディスプレイから消去することができます。

▷ オンボードコンピュータの作動レバーを前方向に操作します。

“INFO” メニューを使用すると、消去した警告メッセージを呼び出すことができます。

ランプ・スイッチ

● **ランプ・スイッチOFF**

HOME **ホーム・モード**

車幅灯、ライセンス・ランプ、計器照明

ロービーム、ハイビーム
イグニッションがONのときのみ

フォグランプ
車幅灯またはロービームに追加されます：
スイッチを1段階引くと、インジケータ・ランプが点灯します。

リア・フォグランプ
フォグランプに追加されます：
スイッチを2段階引くと、インジケータ・ランプが点灯します。

ランプが点灯しているとき（パーキング・ランプおよびホーム機能を除く）、イグニッション・キーを抜いて運転席側のドアを開くと、警告音が**鳴って**バッテリ上がりを警告します。

国によっては、法律に応じてランプの仕様が異なります。

知識：
スポーツ・クロノ・パッケージ・プラス装着車では、個別ライト機能（デイタイム・ドライビング・ライトなど）を追加することができます。＊
PCM取扱説明書＊の「個別メモリー」を参照してください。

ホーム機能

ホーム・モードの作動

▷ ランプ・スイッチをホーム位置に動かしてください。

セキュリティを向上させるため、お車に乗り込む際および降りる際に、周囲がよく見えるようにフォグランプおよびテールランプが一定時間点灯したままになります。

– **お車から降りる際は**、ドアを開いてから約30秒間ランプが点灯します。車両をロックすると、さらに30秒間延長されます。
  スポーツ・クロノ・パッケージ・プラス装着車では、PCMを使用して点灯時間を設定することができます。この設定により車両ロック解除時の点灯時間も変更されます。＊
  PCM取扱説明書＊の「個別メモリー」を参照してください。
– **車両をロック解除したときは**、約30秒間ランプが点灯します。イグニッション・スイッチをONにした場合、またはホーム機能をOFFにすると、ランプは消灯します。

＊日本仕様に設定はありません。

ヘッドランプ自動高さ調整

バイ・キセノン・ヘッドランプ装着車にはヘッドランプ自動高さ調整機能が装備されています。

イグニッション・スイッチON時、車両積載重量により自動的にヘッドランプの高さが調整され、加速時または減速時のヘッドランプの高さは一定に固定されます。

作動の点検

1. ロービームを点灯させます。
2. イグニッション・スイッチをONにします。最初、ロービームは下面を照らしその後、車両の積載重量に合わせ高さが調整されます。

上記の作動をしない場合は調整機構が故障しています。ポルシェ正規販売店にて点検を受けてください。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

方向指示灯／ハイビーム／パッシング・レバー

方向指示灯、ロービーム、ハイビームはイグニッション・スイッチがONのときに作動します。

1— 左方向指示灯

2— 右方向指示灯

レバーを上下1段目まで押す – 方向指示灯が3回点滅します。

3— ハイビーム

4— パッシング

中央位置 — ロービーム

ハイビームとパッシングが選択されているとき、タコメータ内に青色のインジケータ・ランプが点灯します。

パーキング・ランプ

パーキング・ランプはイグニッション・スイッチをOFFにした場合のみ点灯させることができます。

▷ レバーを上下に動かすと、左または右のパーキング・ランプが点灯します。

フロント・ワイパー／ウォッシャ・レバー

⚠ 注 意

フロント・ワイパーが不意に作動して怪我をする恐れがあります。

またフロント・ウィンドウ、ワイパーおよびヘッドランプ・ウォッシャを損傷する恐れがあります。

▷ ワイパーを作動させる前に、フロント・ウィンドウを十分に濡らしておいてください。

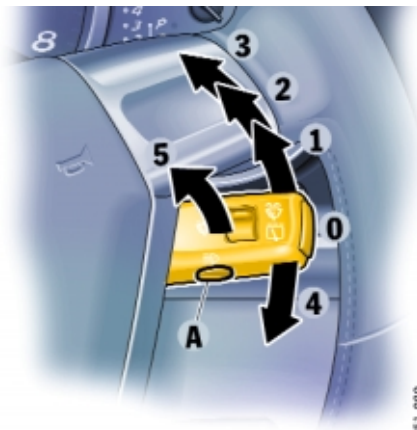
フロント・ウィンドウが乾いていると表面をこすって傷が付く場合があります。

▷ 走行する前にワイパー・ブレードの凍結を融かしてください。

▷ 自動洗車機の使用時に間欠作動によってフロント・ワイパーが不意に作動しない事を確認してください。

▷ 洗車時は、何気なくワイパーを動かしてしまわないように、フロント・ワイパーが作動しない事を確認してください。

▷ 洗車時、ヘッドランプ・ウォッシャを作動させないでください。

▷ ヘッドランプが凍結しているときは、ヘッドランプ・ウォッシャを作動させないでください。

フロント・ワイパーおよびヘッドランプ・ウォッシャ

0— フロント・ワイパーOFF

1— 間欠／レイン・センサ作動
ワイパー・レバーを1段目まで上方向に操作します。

2— フロント・ワイパー低速
ワイパー・レバーを2段目まで上方向に操作します。

3— フロント・ワイパー高速
ワイパー・レバーを3段目まで上方向に操作します。

4— フロント・ワイパーのワンタッチ作動
ワイパー・レバーを下方向に操作します。
フロント・ワイパーが1回作動します。

5— フロント・ワイパーおよびウォッシャ・システム
ワイパー・レバーをステアリング方向に引きます。
ワイパー・レバーをステアリング方向に引いている間、ウォッシャ・システムがウォッシャ液を噴射し、ワイパーが作動します。ワイパー・レバーを放すと、数回ワイパーが作動後、停止します。

A—ヘッドランプ・ウォッシャ

(バイ・キセノン・ヘッドランプ装着車)

ヘッドランプ・ウォッシャはロービームまたはハイビームが作動している場合にのみウォッシャ液を噴射します。

▷ ボタン**A**を短く押して、ヘッドランプ・ウォッシャ・システムを作動させます。

▷ 汚れがひどい場合は、繰り返し作動させます。

ヘッドランプ・ウォッシャ・システムはフロント・ウォッシャ・システムが10回作動するごとに自動的に1回ウォッシャ液を噴射します。

知識：

凍結に備えて、イグニッション・スイッチをONにすると、**ウォッシャ・ノズル**は温められます。

ワイパー間隔の調整

レイン・センサ非装着車では、ワイパー間隔を4段階で調整することができます。

ワイパー作動間隔を短くする

▷ スイッチ**A**を上方向に操作します。
変更が完了すると、フロント・ワイパーが1回作動します。

ワイパー作動間隔を長くする

▷ スイッチ**A**を下方向に操作します。

レイン・センサ

レイン・センサは、雨量を感知し、フロント・ウィンドウ・ワイパーの低速、高速、間欠の作動間隔を、自動的に選択します。

レイン・センサの作動

▷ フロント・ワイパー・レバーを1段目の位置まで上方向に操作します。

レイン・センサの解除

▷ フロント・ワイパー・レバーを**0**の位置にします。

イグニッション・スイッチをONにしたとき、フロント・ワイパー・レバーがすでに**1**の位置になっていた場合、レイン・センサは作動しません。

レイン・センサを作動させるには：

▷ フロント・ワイパー・レバーを**0**の位置にしてから、**1**の位置に戻します。

または

▷ フロント・ウィンドウ・ウォッシャ・システム**5**を作動させます。

または

▷ コントロール・スイッチ**A**でレイン・センサの感度を変更します。

レイン・センサが作動すると、ワイパーが1回作動します。

スポーツ・クロノ・パッケージ・プラス装着車では、PCM＊を使用してレイン・センサ追加機能を選択することができます。

▷ PCM取扱説明書＊の「個別メモリー」を参照してください。

＊日本仕様に設定はありません。

レイン・センサの感度変更

コントロール・スイッチ**A**を使用してレイン・センサの感度を4段階に調整できます。

▷ コントロール・スイッチ**A**を上方向に操作すると、感度が高くなります。

変更が完了すると、ワイパーが1回作動します。

▷ コントロール・スイッチ**A**を下方向に操作すると、感度が低くなります。

知識：

▷ ワイパー・ブレードは定期的（特に洗車後）にウィンドウ・クリーナで清掃してください。
ポルシェ・ウィンドウ・クリーナを推奨致します。ひどい汚れ（昆虫の死がいなど）の場合はスポンジや布を使用して清掃してください。

ワイパー・ブレードがこすれたり、きしむ場合は以下の原因が考えられます。

– 自動洗車機で洗車した場合、フロント・ウィンドウにワックスなどの残留物が付着する場合があります。

▷ このような残留物はウィンドウ・クリーナを使用して落とすことができます。

▷ 「ウォッシャ液」（170ページ）を参照してください。

詳しくは、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

– ワイパー・ブレードが損傷しているか、摩耗している恐れがあります。

▷ ワイパー・ブレードを交換してください。

リア・ワイパー

6— リア・ワイパーの間欠作動
ワイパー・レバーを1段目まで前方向に操作します。
リア・ワイパーが一定の間隔で作動します。

210km/h以上の場合、リア・ワイパーは自動的に停止します。190km/h以下になると、再作動します。
スポーツ・クロノ・パッケージ・プラス装着車の場合は、PCMでリア・ワイパーの付随機能を選択できます。＊

▷ PCM取扱説明書の「個別メモリー」を参照してください。＊

＊日本仕様に設定はありません。

A - クルーズ・コントロールON／OFF
1 - セット／加速
2 - 減速
3 - OFF（中断）
4 - 再開

クルーズ・コントロール（自動車速制御装置）

クルーズ・コントロールは、30〜240km／hの範囲でアクセル・ペダルを踏まなくても希望する車速を保ったまま走行できます。クルーズ・コントロールはステアリング部にあるレバーで操作します。

⚠ 警 告

交通量が多いとき、カーブの多い道、路面状態が悪い場合（冬場の滑りやすい路面、濡れた路面、起伏の多い路面など）では、事故を起こす恐れがあります。

▷ クルーズ・コントロールを使用しないでください。

クルーズ・コントロールON

▷ クルーズ・コントロール・レバーのノブ**A**を押してください。

緑色のインジケータ・ランプが点灯して、クルーズ・コントロールがONになっていることを示します。

スピードの設定

▷ 希望の速度まで車を加速させてください。

▷ レバーを短く前方向**1**へ操作してから放してください。

加速（例：追い越し）

オプション1

▷ 通常の走行時と同じようにアクセル・ペダルを踏むと加速されます。
アクセル・ペダルを放すと、元の設定速度に戻ります。

知識：

設定速度より約25km/h以上の速度で20秒間加速すると、クルーズ・コントロールは自動的に解除されます。

オプション2

▷ 操作レバーを前方向（**1**の位置）に希望のスピードになるまで操作してください。
操作レバーで加速した場合は、操作レバーを放したときの速度が設定速度になります。

オプション3

▷ 操作レバーを前方向（**1**の位置）にすばやく操作してください。
1回押す毎に約2km/hずつ速度が増します。（最大10回）

減速

オプション1

▷ 操作レバーをステアリング・ホイール側（**2**の位置）に希望のスピードになるまで手前方向に操作してください。
操作レバーで減速した場合は、操作レバーを放したときの速度が設定速度になります。

オプション2

▷ 操作レバーをステアリング・ホイール側（**2**の位置）にすばやく手前方向に操作してください。
1回押す毎に約2km/hずつ速度が増します。（最大10回）

クルーズ・コントロールの中断

▷ レバーを下側方向（**3**の位置）に操作してすぐに放してください。**または**

▷ ブレーキ・ペダルまたはクラッチ・ペダルを踏んでください。**または**

▷ ティプトロニック・トランスミッションの場合は“N”を選択してください。

▷ 「ティプトロニックS」（151ページ）を参照してください。

解除される前の速度はメモリーに記録されています。

クルーズ・コントロールの自動中断

— 設定速度より25km/h以上の速度で20秒間加速したときに自動的に中断します。

— 上り坂などで、設定速度より10km/h以下の速度で5秒間減速したときも自動的に中断します。

— PSMが作動したときも自動的に中断します。

クルーズ・コントロールの再開

▷ レバーを上側方向（**4**の位置）に操作してすぐに放してください。
設定速度まで加速／減速します。

交通状態や路面状況がクルーズ・コントロール走行に適した場合にクルーズ・コントロールを再開するように注意してください。

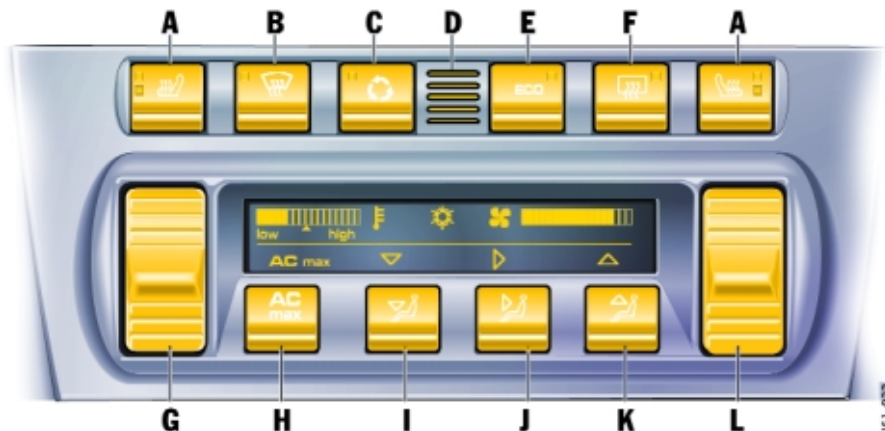
クルーズ・コントロールOFF

▷ クルーズ・コントロール・レバーのノブ**A**を押してください。
スピードメータ内にある緑色のインジケータ・ランプが消灯します。

車両を駐車してイグニッションをOFFにすると、メモリーは消去されます。

知識：

上り坂や下り坂では、設定速度が維持できない場合があります。

▷ 上り坂ではエンジンに負荷がかかりすぎないように、また下り坂では十分エンジン・ブレーキがかかるようにシフトダウンしてください。

エアコン

風量、エア配分および温度設定をコントロール・パネルで調節することができます。

ディスプレイ・パネル表示項目

— 設定温度

— エアコン・コンプレッサON/OFF

— 風量

— AC max

— エア配分

A - *シート・ヒータ*
B - *フロント・デフロスタ*
C - *内気循環ボタン*
D - *車室内温度センサ*
E - *ECOボタン（エアコン・コンプレッサON/OFF）*
F - *リア・ウィンドウ・ヒータ*
G - *温度設定ボタン*
H - *AC max*
I - *足元吹き出し*
J - *中央および両サイド吹き出し*
K - *フロント・ウィンドウ吹き出し*
L - *風量ボタン*

温度設定

▷ ボタン**G**を上げるか、または下げると設定する温度を調節できます。

希望の温度はバー・ディスプレイによって表示されます。

温度設定が**最低温度に設定**されている時は、ディスプレイ・パネルに**バーは表示されません**。

温度設定が**最高温度に設定**されている時は、ディスプレイ・パネルに**すべてのバー**が表示されます。

知識：

急速冷房したいときは、Ac maxボタン**H**を押します。

風量調整

▷ ボタン**L**を上げるか、または下げると、設定された風量が増加または減少します。

風量はバー・ディスプレイによって表示されます。

最小風量に設定されているとき、エアコン・コンプレッサはOFFになります。

フロント・デフロスタ

▷ ボタン**B**（スイッチON／OFF）を押すとボタンのインジケータ・ランプが点灯し、フロント・ウィンドウの曇りを素早く取除くことができます。風はフロント・ウィンドウのみに向けられます。

内気循環モード

⚠ 警　告

内気循環モードを行なうとウィンドウが曇り、視界を妨げる恐れがあります。

▷ 内気循環モードは短時間のみ使用してください。

▷ もしウィンドウが曇った場合は、内気循環モードを停止させ、フロント・デフロスタを作動させてください。

内気循環モードのON／OFF

▷ ボタン**C**を押すとインジケータ・ランプが点灯し、外気の導入をしゃ断して、車内の空気を循環させます。

ECO-エアコン・コンプレッサ ON／OFF

エアコン・コンプレッサは外気温が3℃より低くなると自動的にOFFになり、手動でもONにすることはできません。

外気温が3℃を超えるとエアコン・コンプレッサは手動でONまたはOFFにすることができます。

燃料を節約するためにコンプレッサをOFFにすることもできます。

▷ ボタン**E**を押すとボタンのインジケータ・ランプが点灯し、コンプレッサがOFFになります。

▷ 車室内の温度が高くなり過ぎたときは、コンプレッサをONに戻してください。

湿度が高いときは、ウィンドウの曇りを防ぐために、エアコン・コンプレッサをOFFにしないでください。

AC max

AC max操作によって車内を急速に冷却することができます。

▷ AC maxボタン**H**を押します。ボタンのインジケータ・ランプが点灯します。

エア配分

各吹き出し口から希望のエア配分をすることができます。

エア配分を選択しない場合はディスプレイ・パネルに何も表示されません。

フロント・ウィンドウおよびすべての吹き出し口から風が流れます。

夏期の推奨設定ー
中央および両サイド吹き出し口。

冬期の推奨設定ー
足元およびフロント・ウィンドウ吹き出し口。

足元

▷ ボタン**I**を押すと、風は足元へ流れます。
設定がディスプレイに表示されます。

中央および両サイド

▷ ボタン**J**を押すと、風は中央および両サイドの吹き出し口から流れます。
吹き出し口を開けてください。
設定がディスプレイに表示されます。

フロント・ウィンドウ

▷ ボタン**K**を押すと、風はフロント・ウィンドウへ流れます。
設定がディスプレイに表示されます。

エアコン・コンプレッサに関する一般的な知識

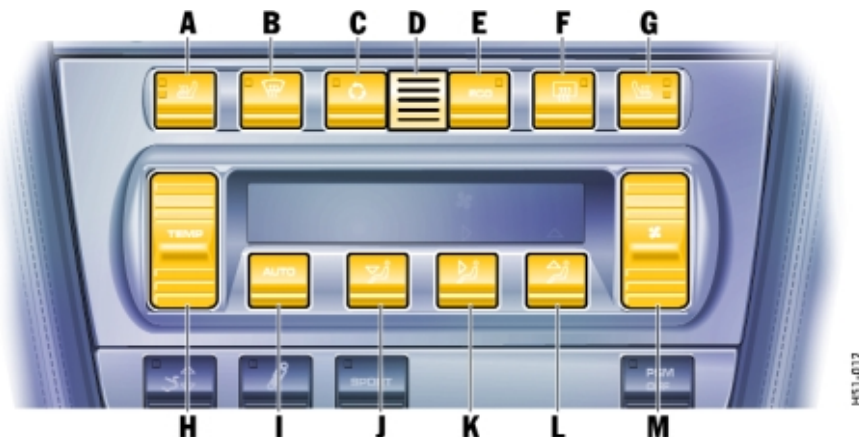
— エンジンに大きな負荷がかかっているとき、エンジンの冷却が十分に行われるように、一時的にOFFにすることができます。

— エアコンの効果を上げるために、エアコン使用中は窓を閉じてください。

日光の当たる場所に長時間駐車していたときは、窓を開いて室内の空気を入れ換えてから、エアコンを使用すると効率的です。

— 外気温と湿度によっては、水滴がエバポレーターから滴り落ちて、車の下に水たまりを作ることがあります。これは正常な状態で、液漏れ等の故障ではありません。

▷ 最低温度に設定しているのに冷たい空気が出てこないときは、エアコン・スイッチをOFFにして、ポルシェ正規販売店で修理してください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

A - *シート・ヒータ（左側）*
B - *フロント・デフロスタ*
C - *内気循環ボタン*
D - *車室内温度センサ*
E - *ECOボタン（エアコン・コンプレッサON/OFF）*
F - *リア・ウィンドウ・ヒータ／ドア・ミラー・ヒータ*
G - *シート・ヒータ（右側）*
H - *温度設定ボタン*
I - *AUTOボタン（自動調節）*
J - *足元吹き出し口*
K - *中央および両サイド吹き出し口*
L - *フロント・ウィンドウ吹き出し口*
M - *風量ボタン*

オートマチック・エアコン

オートマチック・エアコンは、車室内の温度をあらかじめ設定していた温度へ自動的に調節します。
必要に応じて、手動で調節することもできます。

自動調節

▷ **“AUTO”**ボタン**I**を押すと、ディスプレイ・パネルに**“AUTO”**が表示され、風量、吹き出し口、温度が自動制御されて外気温が変動しても車内の温度は一定に保たれます。

設定されている機能は個々に変更できます。それぞれの設定は、その設定ボタンをもう一度押すか、**“AUTO”**ボタンを押すまで維持されます。

温度設定

▷ ボタン**H**の該当する側を押すと、希望に合わせて、車室内の温度を16～29.5℃の範囲で選択できます。**快適温度として22℃**をお薦め致します。

ディスプレイに“LO”（最低温度16℃）または“HI”（最高温度29.5℃）が表示された場合は、エアコンの作動は最大になっています。
自動調整は作動しません。

知識：
オートマチック・モードで設定温度を変えると自動的に風量が増し早く希望温度に達します。

センサ

エアコン・システムの性能を低下させないよう以下に注意してください。

▷ インストルメント・パネルの日射センサまたは車室内温度センサ**D**を覆わないようにしてください。

フロント・デフロスタ

▷ ボタン**B**（スイッチON／OFF）を押すとボタンのインジケータ・ランプが点灯し、フロント・ウィンドウの曇りを素早く取除くことができます。風はフロント・ウィンドウのみに向けられます。

ECO-エアコン・コンプレッサON／OFF

エアコン・コンプレッサは外気温が3℃より低くなると自動的にOFFになり、手動でもONにすることはできません。

オートマチック作動のとき、外気温が3℃を超えると、エアコン・コンプレッサが作動します。

燃料を節約するためにコンプレッサをOFFにすることもできますが、その場合は快適さが損なわれます。

▷ ボタン**E**を押すとボタンのインジケータ・ランプが点灯し、コンプレッサがOFFになります。

▷ 車室内の温度が高くなり過ぎたときは、コンプレッサをONに戻すか、**“AUTO”**ボタンを押してください。

湿度が高いときは、ウィンドウの曇りを防ぐために、エアコン・コンプレッサをOFFにしないでください。

風量調整

▷ ボタン**M**を上げるか、または下げると、設定された風量が増加または減少します。

風量はバー・ディスプレイによって表示されます。

風量が小さい時はエアコン・コンプレッサはOFFになります。

最小風量に設定されているとき、ボタン**M**のマイナス側を押すと、ディスプレイ・パネルに**“OFF”**が表示され風量と自動調整はOFFになります。
プラス側または**“AUTO”**ボタンを押すと、風量と自動調整はONに戻ります。

内気循環モード

⚠ 警 告

内気循環モードを行なうとウィンドウが曇り、視界を妨げる恐れがあります。

▷ 内気循環モードは短時間のみ使用してください。

▷ もしウィンドウが曇った場合は、内気循環モードを停止させ、フロント・デフロスタを作動させてください。

内気循環モードのON／OFF

▷ ボタン**C**を押すと、外気の導入をしゃ断して、車内の空気を循環させます。

ボタン**C**のインジケータ・ランプが点灯します。

約3℃より高い場合

エアコン・コンプレッサが停止している場合は、自動的に作動します。内気循環モードの連続作動時間は無制限です。

約3℃より低い場合

エアコン・コンプレッサが停止し、内気循環モードは約3分後に自動的に外気導入モードになります。

エア配分

各吹き出し口から希望のエア配分をすることができます。
エア配分を選択しない場合はディスプレイ・パネルに何も表示されません。
フロント・ウィンドウおよびすべての吹き出し口から風が流れます。
夏期の推奨設定ー
中央および両サイド吹き出し口。
冬期の推奨設定ー
足元およびフロント・ウィンドウ吹き出し口。

足元

▷ ボタン**J**を押すと、風は足元へ流れます。
設定がディスプレイに表示されます。

中央および両サイド

▷ ボタン**K**を押すと、風は中央および両サイドの吹き出し口から流れます。
吹き出し口を開けてください。
設定がディスプレイに表示されます。

フロント・ウィンドウ

▷ ボタン**L**を押すと、風はフロント・ウィンドウへ流れます。
設定がディスプレイに表示されます。

知識：

▷ スポーツ・クロノ・パッケージ・プラス装着車では、個々のエアコン設定が車両キーに保存できます。＊
PCM取扱説明書＊の「個別メモリ」を参照してください。

＊日本仕様に設定はありません。

エアコン・コンプレッサに関する一般的な知識

— エンジンに大きな負荷がかかっているとき、エンジンの冷却が十分に行われるように、一時的にOFFにすることができます。

— エアコンの効果を上げるために、エアコン使用中は窓を閉じてください。

日光の当たる場所に長時間駐車していたときは、窓を開いて室内の空気を入れ換えてから、エアコンを使用すると効率的です。

— 外気温と湿度によっては、水滴がエバポレーターから滴り落ちて、車の下に水たまりを作ることがあります。これは正常な状態で、液漏れ等の故障ではありません。

— 最低温度に設定しているのに冷たい空気が出てこないときは、エアコン・スイッチをOFFにして、ポルシェ正規販売店で修理してください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

A - *開閉ダイヤル*
B - *送風方向調節ノブ*

中央および両サイドの吹き出し口

○　吹き出し口を開く

▷ ダイヤル**A**を上に回す。

●　吹き出し口を閉じる

▷ ダイヤル**A**を下に回す。

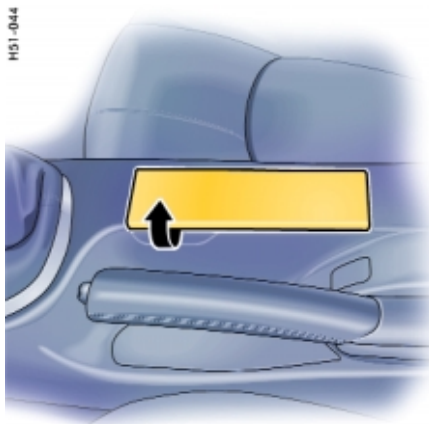
送風方向の調節

▷ ルーバー角度を調節して希望の方向に風を送ることができます。

外気またはエアコンの風は、操作パネルの設定に応じて、どの吹き出し口からも出すことができます。

外気導入口

外気の導入を確保してください。

▷ フロント・トランク・リッドとフロント・ウィンドウの間の外気導入口を雪、氷、木の葉などで詰らせないようにしてください。

△ ハザード・ランプ・スイッチ

ハザード・ランプはイグニッション・スイッチの位置とは関係なく点灯できます。

スイッチON/OFF

▷ インストルメント・パネルにあるスイッチを押してください。

全ての方向指示灯とインストルメント・パネルにあるそれらのインジケータ・ランプが同時に点滅します。

灰皿

開き方

▷ 灰皿の蓋を開きます。

掃除

▷ 掃除する場合は、灰皿を開いて、トレー部を慎重に引抜いてください。

⚠ 警 告

エンジン・ルーム内で煙草が燃えて、火災になる恐れがあります。

▷ 車内から煙草を投げ捨てないでください。空気口**A**に入り、エンジン部で火災が起こる場合があります。

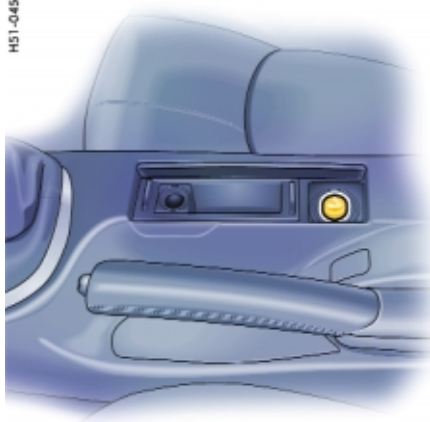
シガー・ライタ

シガー・ライタはイグニッション・スイッチの位置に関係なく使用できます。

⚠ 警 告

火災や火傷をする恐れがあります。

▷ 保護者なしでお子様だけを絶対に車内に残さないでください。

▷ 加熱したシガー・ライタを持つ場合は、ノブを持ってください。

ライタの加熱

▷ 灰皿の蓋を開きます。

▷ ライタを押込み、フィラメントが充分な温度になると、元の位置に飛び出します。

電源ソケット

シガー・ライタの差込み部分はアクセサリのソケットとして使用しないでください。（タイヤ充填コンプレッサは使用可能です）

▷ 「ソケット」（129ページ）を参照してください。

フロント・シート間の小物入れ

ソケット

アクセサリは12Vソケットに接続することができます。

▷ 最大消費電力を遵守してください。

知識：

タイヤ充填コンプレッサはシガー・ライターに接続して使用してください。
ソケットは、イグニッションをOFFにしても、イグニッション・キーを抜いても使用できます。
エンジン停止中にアクセサリを使用すると、バッテリが上がります。

バッテリあがりを防ぐために、エンジン停止状態ではアクセサリを5分以上作動させないでください。

ソケットを使用するときは、アクセサリの合計消費電力が70Wを超えないようにしてください。

▷ アクセサリはメーカーの電力仕様を遵守して使用してください。

助手席のグローブ・ボックスの下
（BOSEサラウンドサウンドシステム装着車）

A - *フロント・トランク・リッド・ロック解除*
B - *リア・リッド・ロック解除*

フロント・トランク・リッド

知識：

バッテリ上がりのときは、外部電源を使用してフロント・トランク・リッドを開けます。

▷ 「電気系統」（198ページ）を参照してください。

▷ またはヒューズ・ボックス・リッド裏の説明を参照してください。

警告灯

トランク・リッドが完全に閉じられていない場合は、インストルメント・クラスタ内の警告灯に表示されます。

▷ 完全にトランク・リッドを閉じてください。

ロック解除

▷ 運転席のドアを開き、運転席シートの横にあるプル・ボタン**A**を操作してください。または、リモート・コントロールのボタンを操作してください。
トランク・リッドを開くと、トランク・ルーム内のランプが点灯します。

▷ 「2時間後または7日後の作動停止」（198ページ）を参照してください。

▷ 「キー」（14ページ）を参照してください。

フロント・トランク・リッドの開き方

⚠ 注 意

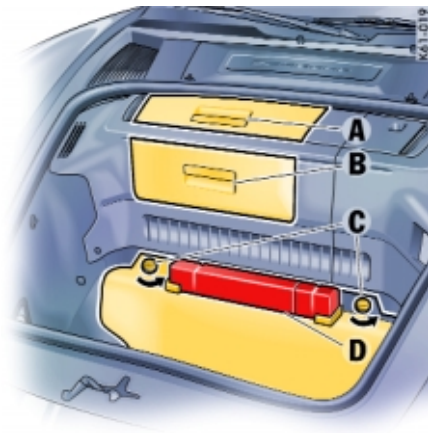
フロント・トランク・リッドまたはフロント・ワイパーを損傷する恐れがあります。

▷ フロント・トランク・リッドを開ける場合は、ワイパーを立てないでください。

▷ リッドを少し持ち上げ、レバー（**矢印**）を操作してセーフティ・キャッチを外してください。

トランク・リッドの閉じ方

▷ リッドを下げ、ロックがかかるまで押えてください。

▷ 手のひらでリッドのロック部分を押え、リッドを確実にロックしてください。リッドがロックされたことを確認してください。

フロント・トランク・ルーム

アクセス・カバー

（DVDナビゲーション＊またはCDチェンジャ装着車）

開き方

▷ アクセス・カバー**A**または**B**のハンドルを握って開いてください。

DVDナビゲーション＊またはCDチェンジャのドライブはアクセス・カバー**B**の内部にあります。
ここには応急セット＊が収納されています。

⚠ 注 意

損傷する恐れがあります。

▷ アクセス・カバーの内部には重い物、湿った物、耐熱性のない物は入れないでください。

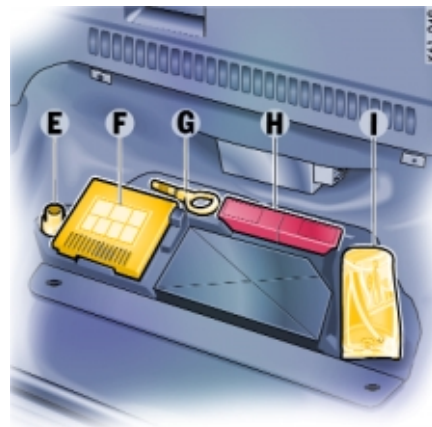
停止表示板

停止表示板**D**＊はツール・キットの上部に固定することができます。

工具セット

開き方

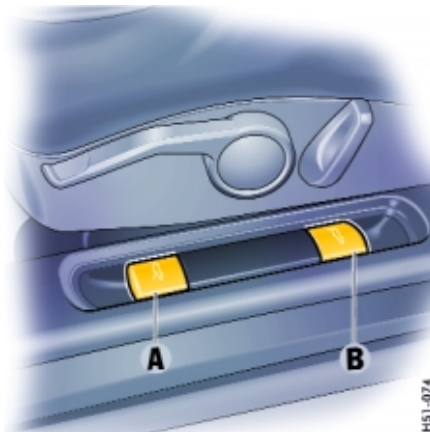
▷ ターン・ロック**C**を解除します。

▷ 工具セットを開いて、トランク・ルーム・フロアに置いてください。

E - *セキュリティ・ホイール・ボルト・アダプタ*
F - *タイヤ充填コンプレッサ*
G - *けん引ラグ*
H - *工具セット*
I - *タイヤ・シーラント*

閉じ方

▷ ツール・ボックスをトランク・ルーム・フロアのガイド・ピンにはめます。

▷ 工具セットを閉じて、ターン・ロック**C**をロックします。

＊日本仕様に設定はありません。

A - フロント・トランク・リッド・ロック解除
B - リア・リッド・ロック解除

リア・リッド

ロック解除

▷ 運転席シートの横にあるプル・ボタン**B**を操作してください。または、リモート・コントロールのボタンを操作してください。

リア・リッドの開き方

⚠ 注 意

ルーフ・ラックに荷物を積んでいる場合、リア・リッドを開くと荷物に接触してリッドが損傷する恐れがあります。

▷ 荷物とリア・リッドが接触しないことを確認してから、リア・リッドを開くようにしてください。

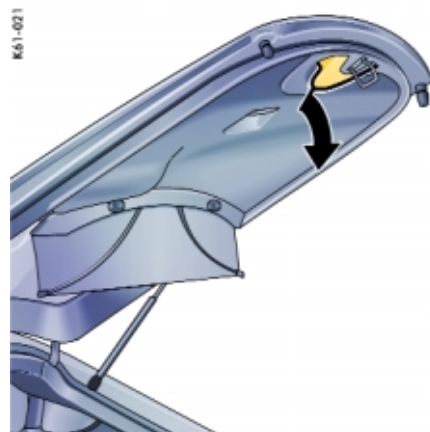
リア・リッドは**2段階**で開くことができます。
リア・リッドを開くとリア・ラゲッジ・ルーム内のランプが点灯します。

▷ 「2時間後または7日後の作動停止」(198ページ)を参照してください。

▷ **位置1：**

リア・リッドを少し持ち上げるとリア・リッドは抵抗がある位置で止まります。

▷ **位置2：**

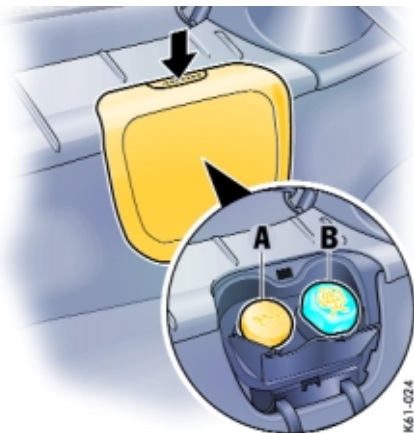
さらにリア・リッドを持ち上げると全開します。

リア・リッドの閉じ方

▷ リア・リッドを下げ、ロックに押し込んでください。

リア・リッドがロックされたことを確認してください。

警告灯

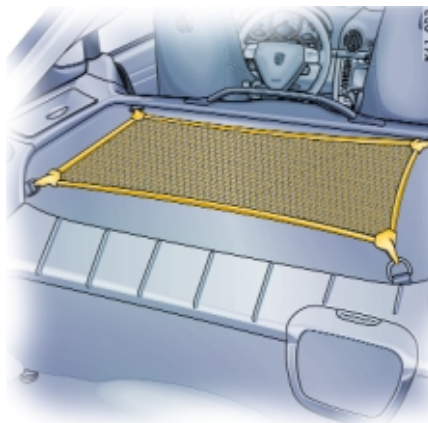
リア・リッドを完全に閉じていない場合は、インストルメント・クラスタ内の警告灯に表示されます。

▷ リア・リッドを完全に閉じてください。

リア・ラゲッジ・ルーム

サービス・フラップ

▷ キャッチ・ボタン（矢印）を押してサービス・フラップを開きます。

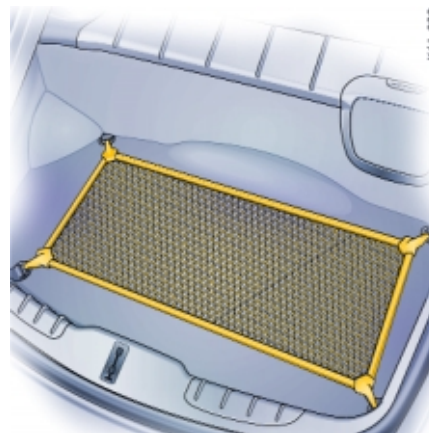
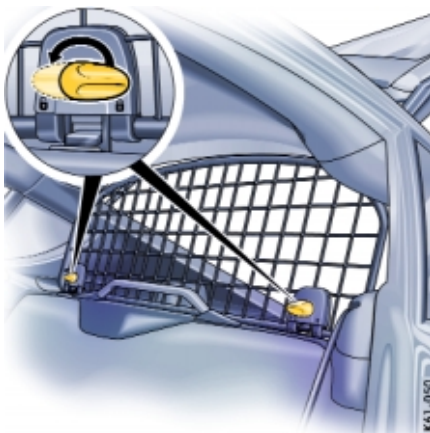
A- エンジン・オイルの注入口

B- クーラントの注入口／クーラント・レベルの点検

ラゲッジ・ネット／タイダウン・リング

⚠ 警 告

急ブレーキ、急な車線変更や衝突の際に、荷物によって怪我をする危険があります。

▷ 車内に積込む荷物は確実に固定し、滑りださないようにしてください。

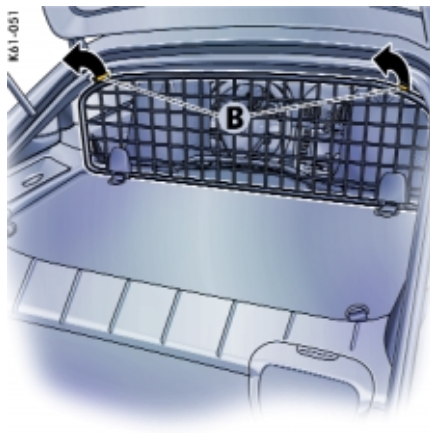
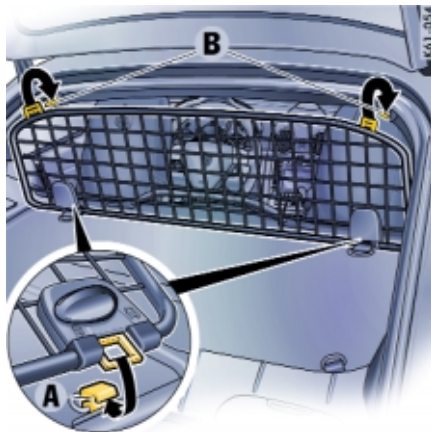
▷ ラゲッジ・ネットの中には重い荷物を収納しないでください。

▷ ラゲッジ・ネットはリア・ラゲッジ・ルーム内エンジン・カバーの4つのタイダウン・リングで取付けます。

カーゴ・パーティション

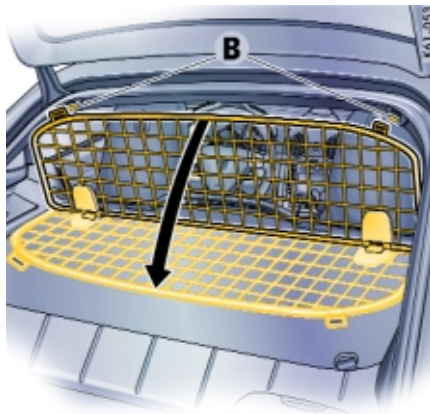
⚠ 警 告

急ブレーキ、急な車線変更や衝突の際に、荷物によって怪我をする危険があります。

▷ 車内に積込む荷物はカーゴ・パーティションを使用して確実に固定し、滑りださないようにしてください。

カーゴ・パーティションの取外し方

1. 車内から図の矢印のように“Lock open（ロック解除）”の方向に回します。
2. カーゴ・パーティションをリア・ラゲッジ・ルームから少し持ち上げ、上側のフック**B**から外して押さえます。
3. カーゴ・パーティションを斜めにし、下側のマウント**A**から取外します。

カーゴ・パーティションの取付け方

1. つまみを“Lock open（ロック解除）”の方向に回します。
2. 下側のマウント**A**にフックをかけて、はめ込みます。
3. カーゴ・パーティションを少し持ち上げて上側のフック**B**にはめ込みます。
4. つまみを“Lock closed（ロック）”の方向に回します。

カーゴ・パーティションの倒し方

カーゴ・パーティションを倒す前に、必ずラゲッジ・ネットを取外してください。

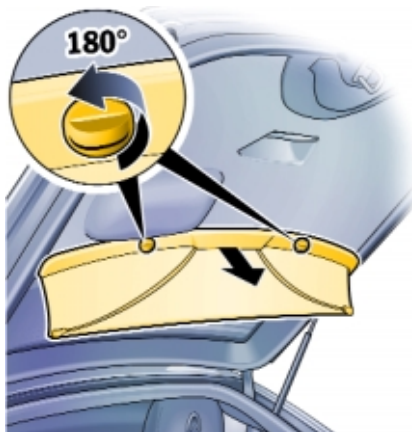
1. つまみを“Lock open（ロック解除）”の方向に回します。
2. カーゴ・パーティションを少し持ち上げて上側のフック**B**から外して押さえます。
3. カーゴ・パーティションをゆっくり倒します（強く押さないでください）。パーティションが下側のマウント**A**から外れていないことを確認してください。
4. つまみを“Lock closed（ロック）”の方向に回します。

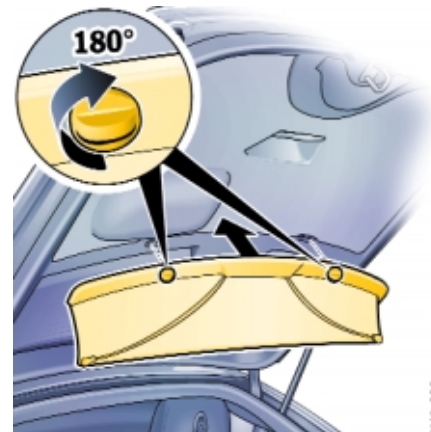
ラゲッジ・カバー

ラゲッジ・カバーはリア・ラゲッジ・ルーム内の荷物を直射日光や人目から覆い隠します。

⚠ 注 意

ラゲッジ・カバーは鋭利な物や荷物の滑りによって損傷する恐れがあります。

▷ ラゲッジ・カバーを損傷する恐れのある荷物を積込むときは、ラゲッジ・カバーを取外してください。

ラゲッジ・カバーの取外し方

▷ 手でラゲッジ・カバーを押さえながら、つまみを反時計回りに回します。
両手でラゲッジ・カバーを取外します。

ラゲッジ・カバーの取付け方

▷ 両手でラゲッジ・カバーを取付け、押さえながらつまみを時計回りに回します。

室内の小物入れ

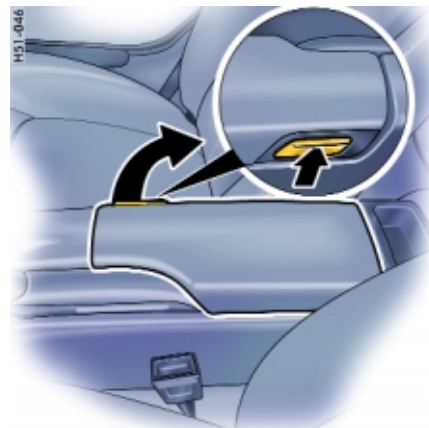
⚠ 警 告

急ブレーキ、急な車線変更や衝突の際に荷物によって怪我をする危険があります。

▷ 車内に積込む荷物は確実に固定してください。

▷ シート間の小物入れの中には重たい物を収納しないでください。

その他の収納場所

— ドア・ポケット
— 助手席側のドア・シル・ポケット
— センター・コンソール
— バックレストの後ろ側のフック
— シート間のコイン・ホルダ付きトレー
— CDおよびペン・ホルダ付きグローブ・ボックス
— シート後方の外側

シート間の小物入れ

開く

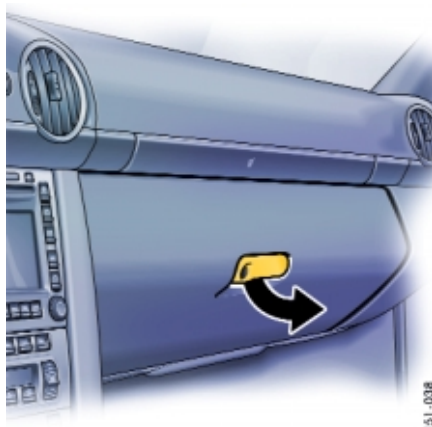
▷ 小物入れを開くには、ロッキング・ノブを押してください。
小物入れの前部分にはコイン・ホルダおよびソケットがあります。

▷ 「ソケット」（129ページ）を参照してください。

グローブ・ボックス

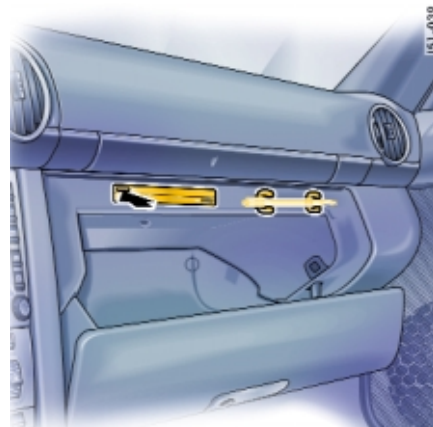
⚠ 警 告

グローブ・ボックスのリッドで怪我をする恐れがあります。

▷ 走行中はグローブ・ボックスを閉じてください。

リッドの開き方

▷ レバーを引き上げてリッドを手前方向に引いて開きます。

施錠

▷ 盗難防止のために使用しない場合は施錠してください。

CDホルダ

内部にＣＤが入っていると、インジケータが赤く表示されます。

トレーの引き出し方

▷ 引き出したいトレーのボタンを押します。

トレーの戻し方

▷ トレーの端を持ち上げ、カチッという音がするまで元に戻します。

ペン・ホルダ

▷ CDホルダの右側のクリップにペンを1本固定することができます。

カップ・ホルダ
(缶、カップ用ホルダ)

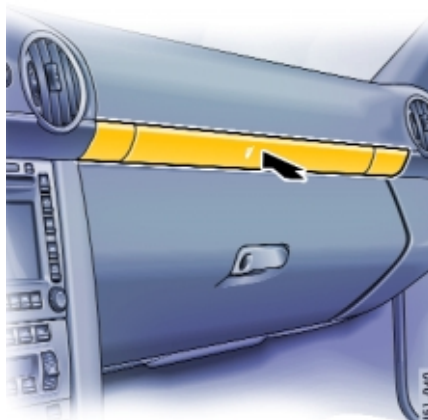
▷ 運転中はカップ・ホルダを収納しておいてください。

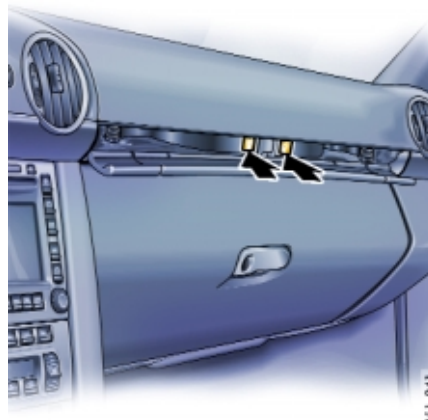
⚠ 警 告

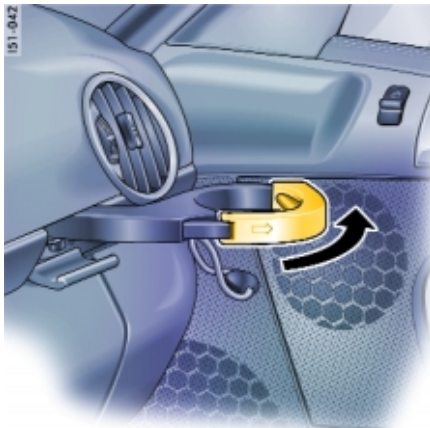
飲料がこぼれると、火傷または物品が損傷する恐れがあります。

▷ カップ・ホルダに適切に収まる容器のみを使用してください。

▷ 一杯に満たされた容器を置かないでください。

▷ 熱い飲み物は置かないでください。

カップ・ホルダの使用

▷ パネルを押し、開きます。

▷ カップ・ホルダ・マークを押してください。

▷ 中央のパネルを閉じてください。

カップ・ホルダの引き出し

▷ ホルダを引き出します（**矢印**）。

▷ 容器を差込みます。

▷ 慎重にホルダを内側にスライドさせ、容器の大きさに合わせます。

カップ・ホルダの収納

▷ カップ・ホルダを折りたたみます。

▷ 中央のパネルを開きます。

▷ カップ・ホルダを閉じて固定します。

▷ パネルの中央を閉じます。

シート後方の外側の小物入れ

⚠ 警 告

急ブレーキ、急な車線変更や衝突の際に、荷物によって怪我をする危険があります。

▷ 車内に積込む荷物は確実に固定してください。

▷ 重い荷物は収納しないでください。

開く

▷ シート後方外側の小物入れのリッドを外側方向に開きます。

自動車電話＊、無線装置＊

▷ 自動車電話を使用する前に、必ず自動車電話の取扱説明書をお読みください。

▷ 走行中の通話は、法規に従ってください。

⚠ セーフティ・ノート

安全のため、下記の内容に注意してください。

▷ 安全のため、車両を停止した状態で行ってください。

▷ アンテナと受話器が一体になった電話機または無線装置を車内で使用すると健康を害することがあります。外部アンテナに接続して使用してください。

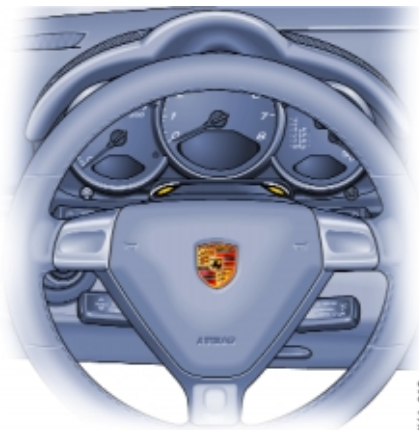
移動通信システム（自動車電話や無線装置など）は、ポルシェ社の取付仕様に従い専門の業者でのみ取付けられます。

通信装置は通信出力が10W以下のものを使用してください。

通信装置はその車両のタイプ・アプルーバル（部品認証）を得たもの（**eマーク付き**）を使用してください。

最大出力が10Wを超える装置の取付けは専門の業者にご相談ください。

これらの装置の取付けには技術知識が必要です。

外部アンテナを使用していない自動車電話や無線装置の使用、および装置またはアンテナが正しく取り付けられていないと、無線通信によりアクセサリが正しく作動しなくなる場合があります。電話機または無線装置を使用する場合は、必ず外部アンテナに接続してください。

ハンドフリー・マイクロフォン＊

ハンドフリー・マイクロフォンは、使用している電話の機種に合ったものを取付けてください。

詳しくはポルシェ正規販売店にお尋ねください。

受信状態

自動車電話、無線装置の受信状態は、走行中に絶えず変化します。建物、地形、天候による受信障害は避けられません。ハンドフリー装置をご使用の場合、エンジンや風切音など外部の音で会話が聞き取りにくくなる場合があります。

＊日本仕様に設定はありません。

ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント（PCM）＊

▷ PCMを使用する前に、別冊の操作説明書を参照してください。

PCMを初めて使用する場合は、ナビゲーション・システムを正しく調整するため約50km走行させてください。タイヤを冬用または夏用などに交換した場合にも、同様に走行させてください。この走行中にはまだナビゲーション・システムは正確に作動していません。

車両をフェリー、列車などで輸送した場合、スイッチを入れてから車両の現在地を確認するまで数分かかります。

雪道などで車がスピンした場合などは、ナビゲーション・システムが一時的に正確に作動しなくなる場合があります。

バッテリの接続を外した場合は、ナビゲーション・システムが再び正常に作動するまで約15分かかります。

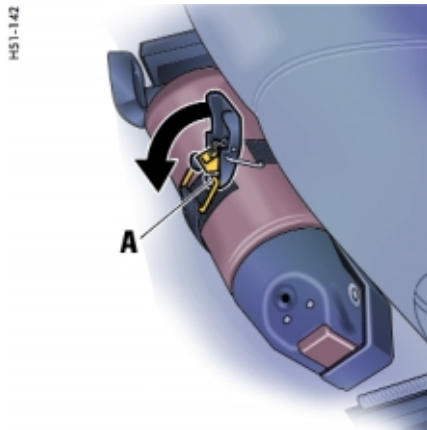
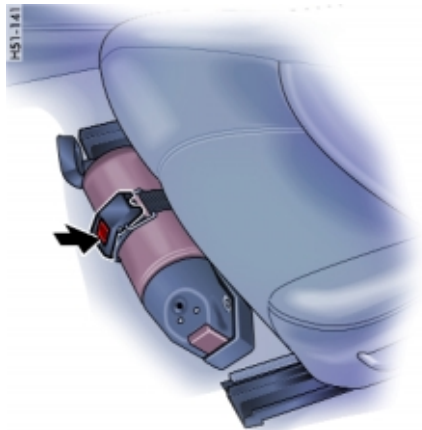
＊日本仕様に設定はありません。

ラジオ

▷ ラジオを使用する前に、別冊のラジオ操作説明書を参照してください。

カー・ラジオの受信状態は走行中、常に変化します。建物、地形および天候による受信障害は避けられません。特にFMステレオは周囲の状況変化に敏感です。モノラルに切替えるか、他のFM局を選択すると、受信障害を抑えることができます。

アクセサリの取付けは必ず、ポルシェ正規販売店にて行ってください。また、アクセサリはポルシェ社が推奨したものを使用してください。推奨されていないアクセサリを使用すると、ラジオの受信状態に悪影響をおよぼす恐れがあります。

▷ 「2時間後または7日後の作動停止」（198ページ）を参照してください。

消火器＊

車両に消火器が装備されている場合は、運転席シートの前側に取付けられています。

消火器の取出し

1. 消火器を一方の手で持ち、もう一方の手で固定ストラップのPRESSボタン（**矢印**）を押してください。
2. 消火器を取付台から取外します。

消火器の収納

1. 消火器を取付台に戻します。
2. 固定ストラップの突起**A**をテンション・ジャッキにはめ込み、テンション・ジャッキを閉じます（**矢印**）。

知識：

▷ 消火器の使用期限に注意してください。使用期限を過ぎた消火器を使用すると、正しく機能しない恐れがあります。

▷ 取扱いについては、消火器の取扱説明書に従ってください。

▷ 消火器は1〜2年ごとに専門の業者で点検し、機能することを確認してください。

▷ 使用後は消火器に消火剤を補充してください。

＊日本仕様に設定はありません。

1,2,3 - *プログラム・ボタン*
A - *ステータス・インジケータ・ランプ*

ホームリンク＊

シャッターやゲートの開閉用リモート・コントロール、または警報システムなどのリモート・コントロール信号をプログラム・ボタン**1〜3**の各ボタンに登録すると、これらのボタンでシャッターなどを操作することができます。

⚠ 警 告

ホームリンクを操作するとき、操作する対象物の周囲に人や動物がいたり、物が置いてあると事故につながる恐れがあります。

▷ ホームリンクを操作する場合は、周囲を十分に確認してから操作してください。

▷ 各装置のリモート・コントロールに付属する注意事項を遵守してください。

ホームリンクの操作およびプログラムの作動条件

ー イグニッション・スイッチをONにする

ー フォグランプを消灯する

ホームリンクの操作方法

▷ プログラム・ボタン**1〜3**の該当ボタンを押し、対象物に信号を送信します。信号送信中はランプ**A**が点灯します。

知識：

▷ ホームリンクを操作するときは、車両をまっすぐ対象物に向けてください。これを怠ると、反応範囲外になる場合があります。

▷ お車を売却される場合は、プログラム・ボタン**1〜3**に登録してある信号を消去してください。

▷ リモート・コントロールに付属する取扱説明書をよく読み、リモート・コントロールに使用されているコードが固定または変更可能か確認してください。

＊日本仕様に設定はありません。

リモート・コントロール信号のキーへの登録

▷ リモート・コントロールに付属する取扱説明書に従ってください。

登録準備

以下の手順により工場で設定された標準コードが消去されます。他のボタンをプログラムする場合は、この手順を繰り返さないようにしてください。

▷ プログラム・ボタンのボタン**1**および**3**を約20秒間押し、ランプ**A**が点滅し始め、ボタン**1〜3**のすべてのプログラム信号が消去されます。

固定コード・システムのリモート・コントロールの場合：

1. ランプがゆっくり点滅するまで、該当するボタン**1〜3**を押します。
   ステップ2および3は約5分間で実施してください。
2. 車両のマーク位置（図）の前方約0〜30cmの位置にリモート・コントロールを持ってきます。
3. フォグランプが3回点滅するまで、リモート・コントロールの送信ボタンを押します（約45秒間）。
4. ステップ1〜3を繰り返して、各リモート・コントロールの信号を他のボタンに登録します。

知識：

車両とリモート・コントロールの距離を変えて、数回の試行が必要になる場合があります。

5分間を過ぎると、フォグランプが点滅します。この場合、プログラム手順を最初からやり直してください。

変更可能なコード・システムのリモコンの場合：

1. 固定コード・システムと同様にプログラム・ボタンに各リモコンの信号を登録します（ステップ1〜3）。
2. システムの同期化：
   自動シャッターなどの受信機側のプログラム・ボタンを押します。約30秒待ってからステップ3に進みます。
3. プログラム・ボタンの登録するボタンを2回押します。装置によっては2回押した後、確定のため3回目を押さなければならない場合もあります。
4. ステップ1〜4を繰り返して、各リモコンの信号を他のボタンに登録します。

知識：

▷ 本章の指示およびリモート・コントロールの取扱説明書に従って作業を実施したにもかかわらず、リモート・コントロールの信号をプログラム・ボタンに登録できない場合は、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

プログラム・ボタンの個別ボタンの再プログラミング

1. ランプがゆっくり点滅するまで、該当するボタン**1〜3**を押します（約20秒間）。ステップ2および3は約5分間で実施してください。
2. 車両のマーク位置（図）の前方約0〜30cmの位置にリモート･コントロールを持ってきます。
3. フォグランプが3回点滅するまで、リモート･コントロールの送信ボタンを押します（約45秒間）。
4. ステップ1〜3を繰り返して、各リモート・コントロールの信号を他のボタンに登録します。

知識：

車両とリモート･コントロールの距離を変えて、数回の試行が必要になる場合があります。

5分間を過ぎると、フォグランプが点滅します。この場合、プログラム手順を最初からやり直してください。

信号の消去

（車を売却する場合）

▷ プログラム・ボタンの外側のボタン**1**および**3**を同時に約20秒間押すと、ランプ**A**が点滅し始め、ボタン**1〜3**の全てのプログラム信号が消去されます。

ルーフ・トランスポート・システム

▷ ルーフ・トランスポート・システムの取付け説明書を参照してください。

▷ ポルシェ・テクイップメント製品またはポルシェ社でテストおよび承認されたルーフ・トランスポート・システムのみ装着することができます。

一般に市販されているルーフ・トランスポート・システムは装着できません。

ポルシェ・ルーフ・トランスポート・システムは、様々なスポーツ用品やホビー用品を積載できます。
ルーフ・トランスポート・システムの詳細は、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

⚠ セーフティ・ノート

▷ リア・リッドを損傷する恐れがあります。荷物とリア・リッドが接触しないことを確認してから、リア・リッドを開くようにしてください。

▷ 自動洗車機を使用するときは、ルーフ・トランスポート・システムを完全に車から取外してください。車両が損傷する恐れがあります。

▷ ルーフへの積載荷重は60kg迄で、最大総重量と軸重量の限度を超えないようにしてください。「車両重量」(235ページ)を参照してください。

▷ 車幅より大きな荷物を積まないようにしてください。また、荷物はできるだけ重い物を下にして高さが均一になるように積んでください。

▷ ルーフ・トランスポート・システムに積んだ荷物は、ロープまたはワイヤーで固定してください(ゴム製のひもは使用しないでください)。

▷ 走行前と、長距離を走行中は定期的に、ルーフ・トランスポート・システムと荷物の固定状態を点検してください。必要に応じて固定し直したり、固定用品を追加してください。

ルーフ・トランスポート・システムに荷物を積載して走行する場合の最高速度は、積載物の性質、大きさ、重量にもよります。

▷ 車速が140km/hを超えないようにしてください。

▷ ルーフ・トランスポート・システムに何も積んでいないときは、車速が180km/hを超えないように走行してください。

最大速度については走行中の道路の最大制限速度を遵守してください。

重心が高くなり、空気抵抗も大きくなるので、走行、ブレーキ、ステアリング操作の状態が普段と違ってきます。このことを考慮して安全運転を心がけてください。
燃費を高め、騒音を減らすために、使用していないルーフ・トランスポート・システムは車から取外すようにしてください。

シフト・ギヤ

マニュアル・トランスミッション、クラッチ

⚠ 警 告

予期せぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ ペダルの下に、フロア・マットなどが入らないように注意してください。

フロア・マットはポルシェ社が認可した物を使用してください。

シフト・ポジションの位置はギヤ・レバーに表示してあります。

▷ シフト・チェンジを行うときはクラッチをしっかり踏込み、ギヤ・レバーを確実に操作してください。

▷ ギヤをバックに入れるときは完全に車を停止させてください。

▷ 上り坂ではエンジンに負荷がかかりすぎないように、また下り坂では十分エンジン・ブレーキがかかるようにシフトダウンしてください。

イグニッション・スイッチをONにし、ギヤ・レバーをリバースに入れると、リバース・ランプが点灯します。

エンジンのレブ・リミット（回転限界）

▷ タコメータの針がレッドゾーンに入る前に1段高いギヤにシフトアップするか、あるいはアクセルを緩めるよう心掛けてください。

加速時にレッドゾーンに達すると、燃料の供給がしゃ断されます。

⚠ 注 意

低いギヤにシフト・ダウンした場合、エンジンを損傷する恐れがあります。

▷ 低いギヤにシフトダウンする前に、エンジンが規定の回転数に下がっているか確認してください。

ティプトロニックS

ポルシェ社のティプトロニックは、(「オートマチック」ポジションと「マニュアル」ポジションの) 2つのスピード・セクション・モードがある5速トランスミッションです。

セレクタ・レバーを **“D”** の位置に入れると、**オートマチック・モードになり**ギヤ・チェンジは自動に行われます。
ステアリングのロッカー・スイッチを操作することにより、一時的にオートマチック・モードからマニュアル・モードにすることが可能です。

セレクタ・レバーを **“M”** の位置に入れると、**マニュアル・モードになり**ステアリングにあるロッカー・スイッチを操作することによりマニュアル・モードのギヤ・チェンジができます。

オートマチック・モードとマニュアル・モードは、走行中、希望にあわせて切替えることができます。

知識：

▷ 誤ってロッカー・スイッチを操作し、急なギヤ・チェンジをしないように注意してください。

セレクタ・レバーの操作

イグニッション・スイッチをOFFにすると、セレクタ・レバーが固定されます。イグニッション・スイッチをONにすると、ブレーキ・ペダルを踏んで、ロック解除ボタンを押したときのみ、セレクタ・レバーを **“P”** および **“N”** から動かすことができます。

ロック解除ボタン

“P” や **“R”** の位置にレバーを動かす場合、セレクタ・レバーの上部にある誤操作防止用のロック解除ボタン（**矢印**）を押してください。

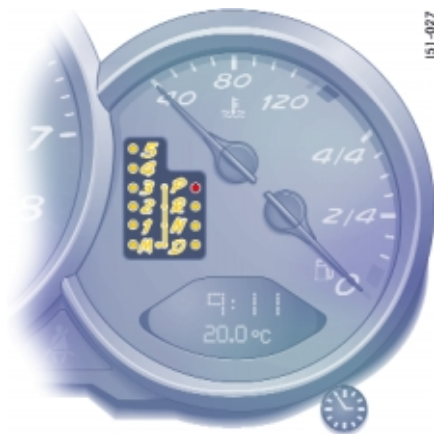
エンジンの始動

安全のためセレクタ・レバーが **“P”** か **“N”** の位置にあり、ブレーキ・ペダルを踏んだ状態でないとエンジンを始動することはできません。

発進

▷ エンジンがアイドリング状態であることを確認してブレーキ・ペダルを踏んでセレクタ・レバーを **“P”** レンジから他のレンジ（**“D”**、**“M”** または **“R”**）に動かしてください。

▷ 走行レンジにシフトすると車両がゆっくりと動きだすので（クリーピング現象)、発進の準備が整うまでブレーキ・ペダルから足を放さないでください。

▷ 走行レンジにシフト後はエンジン・パワーが確実にドライブ・トレーンに伝達されるまでアクセルを吹かさないでください。

セレクタ・レバー・ポジション・インジケータおよびギヤ・ポジション・インジケータ

エンジン作動時に、セレクタ・レバー位置および選択されたギヤが表示されます。

セレクタ・レバーが2つのレンジ位置の中間にある場合は、

— インストルメント・クラスタ内のインジケータが点滅します。**および**

— オンボードコンピュータには“Selector lever not engaged”と警告表示されます。

▷ 正確にギヤ・チェンジを行ってください。

— セレクタ・レバー位置は、正しいレバー位置が検出されると表示されます。

— 短い検出時間の後、現在のギヤ位置が表示されます。

トランスミッションが故障している場合は：

— インストルメント・クラスタ内の**4速ギヤ**表示および**セレクタ・レバー・ポジション**が交互に点滅します。

— オンボードコンピュータに“Tiptronic emergency run” と警告が表示されます。

「走行制限プログラム」（157ページ）を参照してください。

▷ 故障が発生した場合は、直ちに最寄りのポルシェ正規販売店で修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

セレクタ・レバー・ポジション

Pレンジーパーキング・ロック

▷ 車が完全に停止してから、**“P”** レンジに入れてください。

▷ パーキング・ロックは必ずパーキング・ブレーキをかけて**から**入れてください。また、**“P”** から他のレンジにシフトした後にパーキング・ブレーキを解除してください。

イグニッション・キーは **“P”** の位置でのみ抜くことができます。

Rレンジーリバース

▷ 車が完全に停止してブレーキを効かせてから、このレンジに入れてください。

Nレンジーニュートラル

けん引するときや自動洗車機を使用するときなどは、必ずこのレンジを使用してください。

▷ エンジンがアイドリング状態で、ブレーキ・ペダルを踏込んでいるときに、発進させるためのレバー位置（**D**、**M**または**R**）にシフトするようにしてください。

Dレンジ-オートマチック・セレクション・モード

“D” の位置は、通常走行時に使用します。車速とアクセルの踏込み方により、前進ギヤが自動的に切替ります。

ギヤ・チェンジの特性は、アクセル・ペダルの踏込み方や車速、エンジン回転数および通常の加速、コーナリング時の横方向の加速、地形に応じて変化します。
コーナー手前の急激なスロットルの戻しを感知して、コーナリング手前のシフトアップを防ぎます。
コーナリング中は、横方向の加速を感知してエンジン回転数がレブリミットに達するまで、現在のギヤが維持されます。限界を超えなければ、ギヤはシフトアップされません。
ブレーキを踏むと、減速の程度に応じて、ギヤは自動的にシフトダウンされ、エンジン・ブレーキがより効果的に作用します。
コーナー手前でブレーキをかけた場合は、コーナーを曲がりきってアクセルを踏むときにシフトダウンしなくてもよいように、最適のギヤが選択されます。

スポーツ・モードON

▷ 「スポーツ・モード」（51ページ）を参照してください。

スポーツ・モード・プログラムがONになっていると、ティプトロニックはスポーティなギヤ・チェンジ特性に切替わり、シフト時間を短くします。減速時のシフトダウンは早めに開始されます。エンジン高回転域であっても、わずかな減速に反応してシフトダウンが行われます。

発進

アクセルを緩やかに踏むと**2速**で発進します。エンジンが冷えてるときやアクセルを強く踏込むと**1速**で発進します。

ステアリング・ホイールでのギヤ・シフト

ステアリング・ホイールのロッカー・スイッチで、**“D”**（オートマチック・セレクション・モード）から**“M”**（マニュアル・モード）へ一時的に切り替えることができます。

利点：
– カーブや市街地に入る前にシフトダウンします。
– エンジン・ブレーキにより下り坂でシフトダウンします。
– 急加速時にシフトダウンします。
– 発進時にギヤが1速に入ります。

以下の場合モードはマニュアル・セレクション・モードのままです：
– コーナリング時（横加速度）やオーバーランした場合。
– 車両が交差点などで停車した場合。

以下の場合オートマチック・セレクション・モードに戻ります：
– コーナリング時やオーバーラン時以外は、自動約8秒後。
– アクセル・ペダルを踏込んでキックダウンした場合。
– 発進後。

一時的なシフトダウン

状況：
約54km／h以上
▷ 走行中にアクセル・ペダルをすばやく踏込むと、トランスミッションは最もスポーティなシフト・プログラムに入り、即座にシフトダウンされます。このプログラムでは通常よりもシフト・ポイントが高くなります。従って、1段階または2段階分のシフトダウンが素早く行われます。

作動停止：
▷ この機能はアクセル・ペダルをほぼいっぱいまで戻すと作動しなくなります。

キックダウン

キックダウン機能はセレクタ・レバーが**“D”**位置にある場合、ステアリング・ホイールのロッカー・スイッチを使用して一時的に**“M”**（マニュアル・モード）にしたときにも機能します。

▷ 追い越し時など最高の加速が必要な場合は、アクセル・ペダルをフルスロットルよりもさらに（キックダウンの位置まで）踏込んでください。

セレクタ・レバーの位置と車速に応じ、トランスミッションは最も適切な低いギヤにシフトダウンされます。

そのギヤでのエンジン回転数の上限に達するまで1つ上のギヤにはシフトアップされません。

キックダウン時のギヤ・チェンジに要求されるエンジン回転数は、アクセル・ペダルがスロットル・ポジションの80％に戻されるまで維持されます。

Mレンジ-マニュアル・セレクション・モード

現在のギヤは、“D”から“M”にシフトしてもそのまま維持されます。

“M”から“D”にシフトした場合は、現在の走行状態に最も適したシフト・プログラムになり、適切なギヤが選択されます。

マニュアル・セレクション・モード“M”ではキックダウンが機能しません。追い越しなど急加速が必要な場合は、手動で一つ低いギヤに落としてください。

アッパー・ステアリング・ホイール上側のスポークにある2個のロッカー・スイッチによって、ステアリングから手を放さずに快適な5速前進ギヤのシフト・チェンジができます。

シフトアップ

▷ ロッカー・スイッチの上側（＋）を押します。

シフトダウン

▷ ロッカー・スイッチの下側（－）を押します。

車速とエンジン回転数に関係なく、いつでも次のギヤにシフトアップ／ダウンできます。エンジン回転数に適さないシフトアップやシフトダウンはコントローラーにより制限されています。

ステアリングのロッカー・スイッチをつづけて2度すばやく操作すると、一度に2段のシフトダウンができます。

エンジン回転数がそのギヤの限界に達するとトランスミッションはトラクションを損なうことなく、自動的にシフトアップします。また、エンジンがアイドル回転数に達する直前に自動的にシフトダウンします。

▷ 上り坂ではエンジン・パワーを有効に使用できるように、また下り坂では十分エンジン・ブレーキがかかるようにシフトダウンして適切な低いギヤを使用してください。

PSM解除またはスポーツ・モードON

▷ 「PSMの解除」（53ページ）を参照してください。

▷ 「スポーツ・モード」（51ページ）を参照してください。

PSMを解除するか、スポーツ・モードを作動させると、エンジン回転数がギヤの限界に達しても自動的にシフトアップは行われません。

シフトアップ抑制の解除

アクセル・ペダルをキックダウンすることにより、1つ上のギヤにシフトアップできるようになります。たとえば、追い越し中にエンジン回転数がそのギヤの限界に達しても自動的にシフトアップが行われないときは、アクセル・ペダルをキックダウンすることによりシフトアップすることができます。

▷ アクセル・ペダルはスロットル全開位置を超えて踏み込んでください（キックダウン）。

マニュアル・モードの故障

マニュアル・モードで異常が発生した場合は、電子制御によりオートマチック・モードに切替り、セレクタ・レバーのディスプレイの **“D”** の位置が点灯します。

▷ このような不具合が発生した場合は、ポルシェ正規販売店で修理してください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

停止

▷ 信号待ちなどの短時間の停車時には、セレクタ・レバーは **“D”** 位置のままで、フット・ブレーキを踏んでください。

▷ エンジンをかけたまま長時間停車する場合は、セレクタ・レバーを **“N”**（アイドリング状態）に入れてください。

▷ 登り坂ではアクセル・ペダルを踏みながら停止位置を保つようなことはしないでください。フット・ブレーキを踏むか、パーキング・ブレーキを効かせてください。

▷ 車両を離れるときは、必ずパーキング・ブレーキを引き、セレクタ・レバーを **“P”** 位置に入れてください。

駐車

▷ アクセルは慎重に操作してください。

▷ 特に狭い場所で駐車・移動する場合は、フット・ブレーキを使って速度を調節してください。

冬の走行

雪や凍結している滑りやすい急な坂道では、マニュアル・モードを使用してください。このモードでは、タイヤがスピンするようなギヤ・チェンジが防止できます。

けん引

▷ 「けん引による始動」(222ページ)を参照してください。

走行制限プログラム

⚠ **警 告**

走行制御プログラム作動時はリバース・ロック・モニタが機能しません。走行中、事故および損傷の危険性があります。

▷ セレクタ・レバーを**“R”**位置にしないでください。

トランスミッションに故障が発生すると以下の症状が現れます:

ー インストルメント・クラスタ内の**4速ギヤと、セレクタ・レバー・ポジション**が交互に点滅します。

オンボードコンピュータに“Tiptronic emergency run”(ティプトロニック緊急作動警告)が表示されます。

ー トランスミッションのシフトができなくなります。セレクタ・レバー・ポジションにかかわらず、4速ギアに固定されます。

▷ この状態を配慮した運転を行ってください。

▷ 故障の修理は、ポルシェ正規販売店にご相談ください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

車のお手入れ

メインテナンス上の諸注意

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

お客様ご自身でメインテナンスされる場合につきましても、細心の注意を払っていただくようお願い致します。このような注意を払ってはじめて信頼できる走行が保証できます。

不適切な整備を行いますと、保証期間中でも保証が適用されないことがあります。

パワー・テスト

シャシ・ダイナモ・メータによるパワー・テストはポルシェ社では承認されていません。

エンジン・ルームの作業

エンジン・ルーム内の整備点検を行うときは、専門的な知識が必要になります。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。

⚠ 警 告

メインテナンス作業は危険を伴いますので十分に注意してください。致命的な事故、怪我および火災になる恐れがあります。

▷ バッテリや燃料系統の近くでは、喫煙したり火気を近付けたりしないでください。

▷ 整備は、屋外か、室内でも換気のよい状況で行ってください。

▷ 加熱しているエンジン部品の近くで作業をする場合は、火傷の危険性がありますので十分注意してください。

▷ エンジン・ルーム内の部品の整備をする前にエンジンを停止し、十分冷やしてください。

▷ エンジンをかけたまま作業しなければならない場合は、必ずパーキング・ブレーキをかけ、シフト・レバーをニュートラルまたは **“P”** の位置にしてください。

▷ 手、指、衣服の一部（ネクタイ、袖など）や装飾品、長い髪などがファン、ドライブ・ベルト、その他の可動部に絡まることのないように、特に注意してください。

▷ ラジエータおよびラジエータ・ファンは車両の前側にあります。
ラジエータ・ファンは、エンジンが停止していても、クーラントの温度に応じて作動し続けたり、作動し始めたりすることがあります。
ラジエータ・ファン付近で作業をする場合は、エンジンおよびイグニッションをOFFにしていても怪我をする可能性がありますので十分注意して作業をしてください。

▷ イグニッションがONのときは、点火装置に接続されている全てのケーブルとリード線に高電圧がかかっていますので、特に注意が必要になります。

▷ もし、車の下に入って作業する場合は、必ず強固なリフトで車体を持ち上げてください。ジャッキを使用することは危険ですのでおやめください。

▷ エンジン・オイル、ウォッシャ液、ブレーキ液またはクーラントなどの液体は健康を害するので、取扱いの際は次のことに注意してください。
これらの液体はお子様の手の届かない所で保管してください。
廃棄する場合は、法規に従ってください。

クーラント・レベル

▷「メインテナンス上の諸注意」(160ページ)を参照してください。

クーリング・システムは工場でロング・ライフ・クーラントが充填されています。このクーラントは年間を通じた腐食防止と、ー35℃までの凍結防止の働きをします。

▷ ポルシェ社指定の不凍液のみを使用してください。

クーラント・レベルの点検

注入口の付いたリザーバ・タンクがリア・ラゲッジ・ルームのサービス・フラップ内にあります。

▷ リザーバ・タンクの透明な部分から定期的にクーラント・レベルを点検してください。

エンジンが冷えていて、車が水平な場所にあるとき、クーラント・レベルが **“MIN”** と **“MAX”** マークの間を保つようにしてください。

クーラントの補充

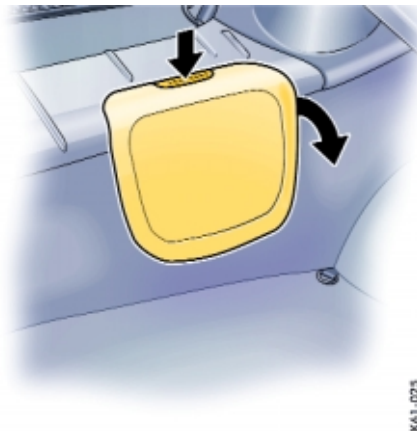
⚠ 注 意

熱くなったクーラントで火傷をする恐れがあります。

▷ エンジンが熱いときにリザーバ・タンク・キャップを開かないでください。

クーラントがあふれてリア・ラゲッジ・ルーム周辺が損傷する恐れがあります。

▷ クーラントを補充するときは、こぼしてリア・ラゲッジ・ルームを汚さないように注意してください。

---

1. エンジンを停止し、冷えるのを待ちます。

   「クーリング・システム」(74ページ)を参照してください。

2. キャッチ・ボタンを押してサービス・フラップを開きます。

3. リザーバ・タンク・キャップを布で覆って、慎重に開き圧力を逃してください。その後、キャップを完全に取外します。
4. 同量の不凍液と水を混ぜ合わせ、それを **“MAX”** マークを超えないように注入します。

   クーラント内の不凍液と水の割合

   不凍液50%：水50%（−35℃までの凍結防止）

   不凍液60%：水40%（−50℃までの凍結防止）
5. キャップをしっかりと締め付けます。
6. サービス・フラップを閉めます。

緊急時に水だけを補充した場合は、ポルシェ正規販売店でクーラントの割合を修正してください。

クーラントの減り方が著しい場合は、クーリング・システムに漏れが発生しています。このような場合は、直ちにポルシェ正規販売店で修理してください。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

ラジエータ・ファン

ラジエータとラジエータ・ファンは車両の前側にあります。

⚠ 注 意

車両の前側にあるラジエータ・ファンは、イグニッションがONのときは、作動していたり、不意に作動することがあります。

▷ ラジエータ・ファン付近で作業をする場合は、怪我をする危険性がありますので十分注意してください。

エンジン・オイル

ポルシェ車のエンジンはオイル添加剤を必要としません。

適合するオイル：

▷ エンジン・オイルはポルシェ社によってテストされ、認可されたもの（ポルシェ社認可オイル・リストを参照）のみを使用してください。ポルシェ正規販売店に、お車のエンジンに適合するエンジン・オイルをお尋ねください。

▷ 工場出荷時に注入されているエンジン・オイルの情報が、サービス・フラップ裏面に貼り付けてあるステッカーに記述されています。

▷ 市販のエンジン・オイルを使用する場合は、オイル缶の注意書きやメーカーの指示を遵守してください。

エンジンに適合するエンジン・オイルであれば、互いに混ぜることができますが、銘柄によって組成が異なりますので、オイル交換の前後で注ぎ足す必要の生じた場合は、できるだけ同じオイルを使用してください。

定期的なオイル交換はメンテナンスの一部です。

▷ ほこりの多い場所を走行する場合は、頻繁にエンジン・オイルを交換してください。

エンジン・オイル・グレード

エンジン・オイルは潤滑油としてだけでなく、エンジン内部をきれいに保ち、燃焼によってエンジン内部に侵入するすすを中和し、腐食からエンジンを保護するという役目も果たしています。これらの機能を果たすために、専用に開発された添加剤が加えられています。

鉱物油は原油から直接つくられたものですが、これらのオイルをさらに精製（水素化分解オイル）、または様々な化学的工程をへて、完全に転化（合成オイル）することができます。これらのオイルは鉱物油に比べて、より効果的です。

ポルシェ社によって認可された合成エンジン・オイルのみを使用してください。

オール・シーズン・ライト・ランニング・エンジン・オイル

オール・シーズン・オイルは、低温度でも粘度が低く、温度安定性が非常に高い上に、その組成により高温度で蒸発しにくい特性があります。適切な温度範囲を考慮すれば、高性能要件に適合するオイルとしてオール・シーズン・オイルを使用することができます。「冬季および夏季」を参照してください。

これらのオイルは、低温度でも粘度が低いため、良好なライト・ランニング特性を持っており、オール・シーズン・ライト・ランニング・オイルとも呼ばれます。

ポルシェ社によって認可された省燃費エンジン・オイルのみを使用してください。

粘度

粘度（流動特性）は、SAE級によって表示されます。

低温粘度は、0Wや5Wのように数字と“W”（winterの“W”）とで表されます。5Wのオイルは、0Wのオイルに比べ粘度が高くなります。

その後に続く40や50のような数字は、高温粘度を表し、40のオイルの方が50のオイルに比べ粘度が低くなります。

マルチ・グレード・オイルは、2種類の粘度を持っています。例えば、SAE 0W-40、5W-40あるいは5W-50のようなオイルがあります。

例：

0W-40および5W-40のオイルは、高温度での粘度は同じですが、低温度では5Wのオイルの方が粘度が高くなります。5W-40および5W-50のオイルは、低温度での粘度は同じですが、高温度ではクラス40のオイルの方が粘度が低くなります。

冬季および夏季

－25℃以上：

SAE 0W-40、5W-40、5W-50のポルシェ社認可オイル

－25℃以下：

SAE 0W-40のポルシェ社認可オイル

エンジン・オイル・レベル

▷「メンテナンス上の諸注意」（160ページ）を参照してください。

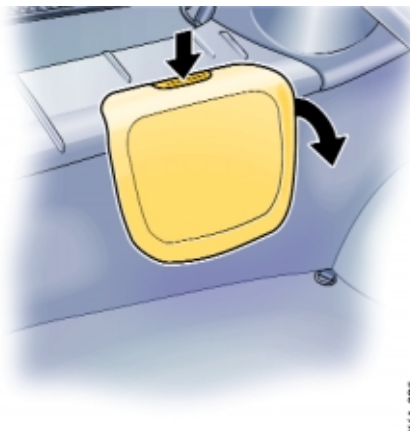
▷ 定期的なオイル・レベル点検は、燃料給油時にオンボードコンピュータで点検してください。「オイル・レベルの表示および測定」（100ページ）を参照してください。

▷ エンジン・オイルの補充口は、リア・ラゲッジ・ルームのサービス・フラップ内にあります。

エンジン・オイルの補充

⚠ 警 告

エンジン・オイルがあふれてリア・トランク・ルームを汚す恐れがあります。

▷ エンジン・オイルを補充する時は、リア・ラゲッジ・ルームを汚さないように注意してください。

K61-025

1. オンボードコンピュータにエンジン・オイルの補充量が表示されます。
2. キャッチ・ボタンを押してサービス・フラップを開きます。

K61-026

3. オイル・フィラー・キャップを取外します。
4. 一度に最大0.5リットルずつ補充します。
5. オンボードコンピュータのオイル・レベルを再度確認します。
6. 必要に応じて、エンジン・オイルを追加補充します。
   上限マークまでの量以上のエンジン・オイルを補充しないでください。
7. オイル・フィラー・キャップを慎重に閉めます。
8. サービス・フラップを閉めます。

ブレーキ液レベル

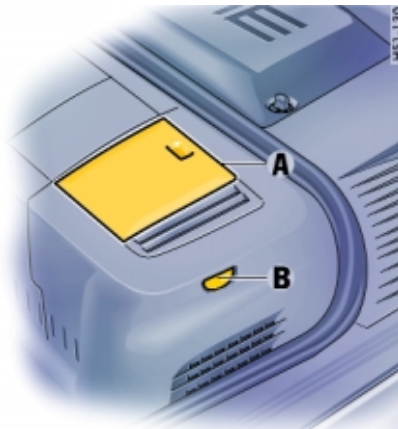
▷ 「メインテナンス上の諸注意」（160ページ）を参照してください。

▷ ポルシェ純正ブレーキ液またはポルシェ社の要求する性能、品質基準を満たしたブレーキ液を使用してください。

⚠ 警 告

ブレーキ液は有毒で、塗装や他の表面を傷付けます。

▷ ブレーキ液は、お子様の手の届かない場所に保管してください。

▷ ブレーキ液を補充するときは、トランク・ルーム内を汚さないように注意してください。

ブレーキ液レベルの点検

油圧ブレーキ操作システム用のフルード・リザーバ・タンクは、フロント・トランク・ルームの中にあります。

1. カバー・キャップ**A**を開いて、取外します。
2. 透明なリザーバ・タンク内のブレーキ液の液面をウィンドウ**B**から定期的に点検してください。
   液面は上限のマークと下限のマークの間にくるようにしてください。

走行中に、ブレーキ・パッドの摩耗により液面が若干低下することがありますが、これは正常な状態です。
液面の低下が著しい場合や下限のマークより下がった場合は、ブレーキ・システムに漏れが発生しています。

▷ その場合は、直ちにポルシェ正規販売店でブレーキ系統の点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

ブレーキ液の交換

ブレーキ液は吸湿性があります。水分を含むと、沸点が下がり、操作状況によってはブレーキの性能に影響します。

整備手帳に指示された期間に従って、交換してください。

警告灯

ブレーキ液が許容範囲以下に減った場合は、インストルメント・クラスタの警告灯が点灯し、オンボード・コンピュータに警告メッセージが表示されます。

– ブレーキ回路が不具合を起こした場合、ブレーキ・ペダルの踏みしろが大きくなり、インストルメント・パネルの警告灯が点灯し、オンボード・コンピュータに警告メッセージが表示されます。

走行中に警告灯が点滅した場合

▷ それ以上の走行を避け、安全な場所に停車してください。

▷ 最寄りのポルシェ正規販売店で修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

エミッション・コントロール・システム

O2センサ、エレクトロニック・コントロール・ユニットに加えて、三元触媒コンバータにより、エミッション・コントロール・システムの効果が大幅に向上しています。

エミッション・コントロール・システムの効率を維持するために、定期的に点検整備を受けてください。

無鉛ガソリン以外の燃料を使用しないでください。**使用すると、触媒コンバータとO2センサが破損して、補修できない場合があります**。

燃料タンク・ベンチレーション・システムは、燃料蒸発ガスがタンクから外気に漏れるのを防ぎます。

運転上のアドバイス

空燃比制御システムに故障が発生すると、エンジンがオーバーヒートしたり、触媒コンバータが損傷してしまうため必ず下記の注意をお守りください。

⚠ 警 告

エミッション・コントロール・システムを損傷する恐れがあります。

▷ エンジンが始動しない場合は、スターター・モーターを繰り返し作動させたり、長時間作動させないでください。

▷ 走行中にミスファイヤーが発生したとき（エンジンの回転が荒くなったり、出力低下、エミッション・コントロール・システム警告灯の点灯で判断できます）は、直ちに最寄りのポルシェ正規販売店で修理をしてください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

▷ 燃料残量警告灯が点灯したら、高速でコーナーを走行しないでください。

▷ 燃料タンクが完全に空になるまで走行しないでください。

▷ けん引または押しがけスタートはエンジンが冷えている場合のみ行ってください。
ティプトロニック車は、けん引または押しがけスタートができません。

高温の排気系に接触して発火する恐れがあります。

▷ エキゾースト・マニホールド、エキゾースト・パイプ、触媒コンバータ、ヒートシールドやその周囲に、アンダーコーティングしたり防錆剤を塗布しないでください。エンジンが作動すると、保護剤が過熱、発火することがあります。

▷ 乾燥した草や落葉などの引火性の高い物がある場所では、駐車したりエンジンを始動させないでください。

燃料

⚠ 警 告

燃料は可燃性が高く、有害な物質なので十分注意してください。

▷ 燃料系統の近くでは、喫煙したり火気を近付けたりしないでください。

▷ 皮膚や衣類が接触しないよう十分注意してください。

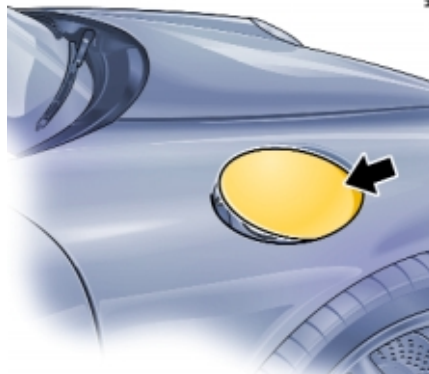
▷ 燃料の揮発ガスを吸い込まないようにしてください。

▷ 「ウォッシャ液」(170ページ) を参照してください。

▷ 「燃料計」(76ページ) を参照してください。

無鉛ガソリン以外の燃料を使用しないでください。使用すると、触媒コンバータとO2センサが破損して、補修できない場合があります。

エンジンは**無鉛プレミアム・ガソリンで、オクタン価が98RON/88MON**のものを使用した場合に、最高の性能と燃費を達成するように設計されています。

オクタン価が95RON/85MONの無鉛プレミアム・ガソリンを使用した場合は、エンジンのノック制御システムが自動的にイグニッション・タイミングを調整します。

カバーの開き方

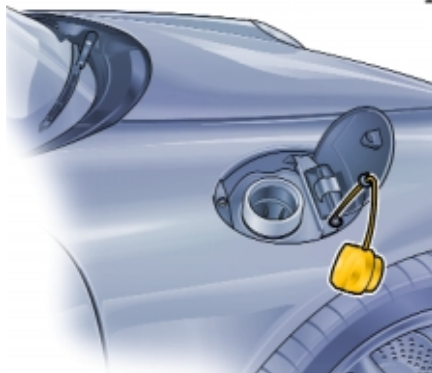
燃料給油口は右フロント・フェンダ部のカバー内にあります。

▷ 車のロックを解除して、カバーの前部分（**矢印**）を押してください。

カバーは他のロックと同じように、セントラル・ロッキングによってロックされます。

自動ロック解除システムが故障した場合は、

▷ 助手席側ドアを開きます。

▷ 右側ドア開口部にあるリング（**矢印**）を引いてください。

燃料の給油

タンク容量は約64リットルです。

1. エンジンを停止し、キーをイグニッション・スイッチから抜取ります。
2. タンク・キャップを取外し、燃料給油フラップ裏側に引っかけます。
タンク・キャップを開けたときにシューという音が聞こえますが、これは正常な状態であり、タンク・システムの故障を示すものではありません。
3. ノズルは確実にフィラーの奥まで差込み、注入時はノズルを下に向けて給油してください。
4. フューエル・ホース・ノズルを正しく使用した場合、ノズルからの燃料の注入が停止したら、タンクは「満タン」です。これ以上注入すると、燃料が熱で膨張したときにあふれます。
5. ガソリン注入後は、タンク・キャップを確実に合わせ、しっかりと取付けられるまで回します。

タンク・キャップを紛失した場合は、必ず純正部品と交換してください。

知識：
エンジン・オイル量は給油時に自動で計測されます。

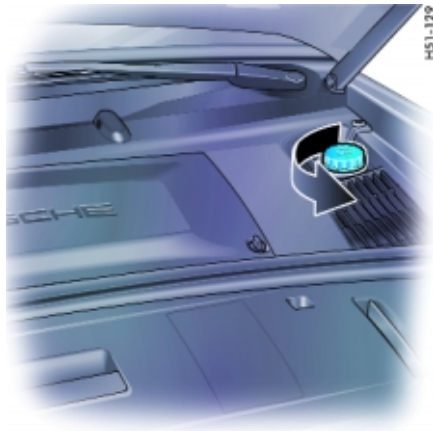
▷ 「給油中のオイル・レベル測定」（101ページ）を参照してください。

予備燃料タンク

⚠ 危 険

予備燃料タンクの損傷や燃料漏れによる火災や爆発の恐れがあります。また有毒ガスが健康に害を与えます。

▷ 予備燃料タンクを車両に積み込んだまま、長距離走行を行わないでください。

▷ 各法規に従ってください。

ウォッシャ液

ウォッシャ液タンクは、フロント・トランク・ルーム内の左後方にあり、青色のネジ式キャップが付いています。

容量：

— ヘッドランプ・クリーニング・システムなし：約2.5リットル
— ヘッドランプ・クリーニング・システム付き：約6リットル

ウォッシャ液

一般的に、水だけではウィンドウやヘッドランプはきれいになりません。季節に応じてウィンドウ・クリーナを適量添加してください。混合の割合はクリーナに付属の取扱説明書に従ってください。

ウィンドウ・クリーナは下記の条件に合致するものをお使いください。

— 1：100に希釈したもの
— 無リン酸塩系
— ヘッドランプ・レンズの材質に適しているもの

ポルシェ社が認可したウォッシャ液を使用してください。詳しくは、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

夏季の充填

ウィンドウ・クリーナを水で薄め、容器の目盛りまで入れます。

冬季の充填

凍結防止剤とウィンドウ・クリーナを水で薄め、容器の目盛りまで入れます。

▷ ウィンドウ・クリーナや凍結防止剤の容器に記載されている情報に注意してください。

ウォッシャ液の補充

1. ウォッシャ液タンクのキャップを取外します。（矢印）
2. ウォッシャ液を補充し、確実にキャップを閉めます。

警告メッセージ

ウォッシャ液の残りが約0.5リットルになるとオンボードコンピュータに警告メッセージが表示されます。

▷ ウォッシャ液を補充してください。

パワー・ステアリング

⚠ 警 告

エンジンがかかっていない（けん引など）場合や、油圧操舵機構に異常がある場合は、操舵力はアシストされません。この場合、ステアリング操作に強い力が必要となり、思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ けん引するときは、十分注意してください。

▷ 直ちに最寄りのポルシェ正規販売店で修理してください。

知識：

ステアリングを一杯に切ったときに聞こえるノイズは、構造上の特性であり、ステアリング・システムの故障ではありません。

オイルの点検

リザーバ・タンクはエンジン・ルームにあります。

▷ 「メインテナンス上の諸注意」（160ページ）を参照してください。

エア・フィルタ

▷「メインテナンス上の諸注意」（160ページ）を参照してください。

エア・フィルタはエンジン・ルームの左側にあります。

定期的なフィルタ・エレメント交換はメンテナンスの一部です。

▷ ほこりの多い場所では、より頻繁に点検し、必要に応じて交換してください。

室内防塵用フィルタ

室内防塵用フィルタを通って室内に入ってくる空気は、ほこりや花粉などが取除かれます。

▷ 外気が汚れている場合は、内気循環に切替えてください。

フィルタが汚れていると、空気の清浄効果が下がります。

▷ フィルタの交換は、最寄りのポルシェ正規販売店にお申し付けください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

定期的なフィルタ交換はメンテナンスの一部です。

ワイパー・ブレード

視界を良好に保つため、ワイパー・ブレードを頻繁に点検してください。

ワイパーの性能が低下したときや、年に2回（冬季の前後で）ワイパー・ブレードを交換してください。

⚠ 注 意

ワイパー・アームが突然倒れてフロント・ウィンドウが損傷しないように注意してください。

▷ ワイパー・ブレードを交換するときは、ワイパー・アームをしっかり持ってください。

ワイパー・ブレードが凍結した場合、損傷する恐れがあります。

▷ 凍結部を取除いてください。

知識：

▷ ワイパー・ブレードは定期的（特に洗車後）にウィンドウ・クリーナで清掃してください。ポルシェ・ウィンドウ・クリーナを推奨します。ひどい汚れ（昆虫の死がいなど）の場合はスポンジや布を使用して清掃してください。

ワイパー・ブレードの擦れやきしみの原因には以下が考えられます。

— 自動洗車機を使用した場合、フロント・ウィンドウにワックスなどの残留物が付着する場合があります。このような残留物は、ウィンドウ・クリーナを使用して落とすことができます。

▷ 「ウォッシャ液」（170ページ）を参照してください。

詳しい情報はポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

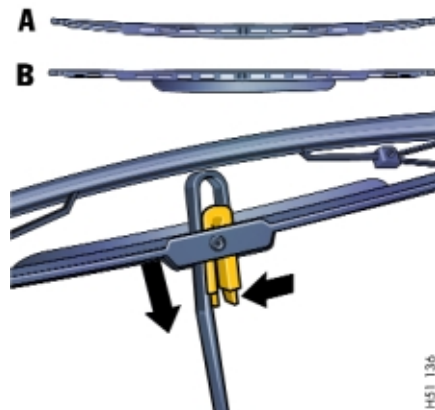
— ワイパー・ブレードが損傷または摩耗する恐れがあります。

▷ できるだけ早急に損傷したワイパー・ブレードを交換してください。

ワイパー・ブレードの交換

⚠ 注 意

誤った方法でワイパー・ブレードを交換すると、走行中に外れ、損傷の原因となる恐れがあります。

▷ ワイパー・ブレード交換後には、ワイパー・アームが確実に固定されているか確認してください。

A - *助手席側（カーブしたブレード）*
B - *運転席側（スポイラ付）*

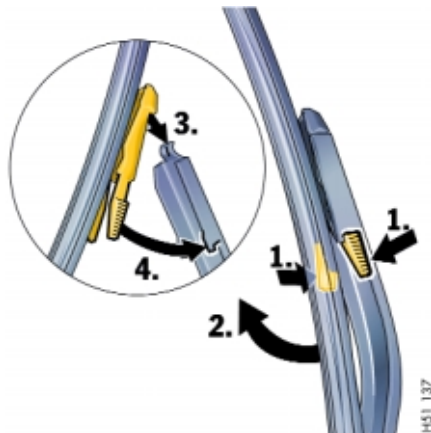
1. パーキング・ブレーキをかけます。
2. ワイパーを停止し（**0**位置）、イグニッション・キーを抜きます。
3. ワイパー・アームをフロント・ウィンドウから起こします。
4. ワイパー・ブレードのプラスチック・スプリング（**右側矢印**）を押します。ワイパー・ブレードを引出し、ワイパー・アームから取外します。

5. 新品のワイパー・ブレードをはめ込み、確実に固定します。
   新品のワイパー・ブレードをワイパー・アームの同じ位置にはめ込みます。
   – 運転席側（スポイラ付）
   – 助手席側（カーブしたブレード）
6. ワイパー・アームを注意して元の位置に戻します。

リア・ワイパー・ブレードの交換

⚠ 注 意

誤った方法でワイパー・ブレードを交換すると、走行中に外れ、損傷の原因となる恐れがあります。

▷ ワイパー・ブレード交換後には、ワイパー・アームが確実に固定されているか確認してください。

1. パーキング・ブレーキをかけます。
2. リア・ワイパーを停止し（**0**位置）、イグニッション・キーを抜きます。
3. ワイパー・アームをリア・ウィンドウから起こします。
4. ワイパー・ブレードのプラスチック・スプリングを押します。
5. ワイパー・ブレードを上方向に引出し、ワイパー・アームから取外します。
6. 新品のワイパー・ブレードをワイパー・アームの上側からはめ込みます。
7. ワイパー・ブレードのプラスチック・スプリングを押して、カチッと音がするまでワイパー・アームにはめ込みます。
8. ワイパー・アームを注意して元の位置に戻します。

車のお手入れ

定期的に正しく車のお手入れを行うことは、お車の価値を長持ちさせるだけでなく、車両の保証と長期保証の適応を受ける際の有利な条件となります。

ポルシェ正規販売店には、お車にふさわしいカー・ケア製品が揃っており、単品でもセットでも販売しております。

▷ 使用に当たっては、必ずパッケージ等に印刷された注意事項を守ってください。

▷ 製品はお子様の手の届かない安全な場所に保管してください。

▷ 処分の必要がある場合は、必ず適切な方法で行ってください。

お車の状態がポルシェ正規販売店で点検されているか、そして10年間の長期保証が有効であるかを確かめるために、ポルシェ正規販売店では、お手入れの状態や整備状況を点検させていただき、「整備手帳」にその結果を記載します。

高圧洗車装置

⚠ 警 告

高圧洗車装置を使用すると、以下のコンポーネントを傷付けることがあります。

- タイヤ
- ロゴ、エンブレム
- 塗装面
- ジェネレータ
- パーキング・アシスタント・センサー

▷ 使用するときは、メーカーから提供された取扱説明書を遵守してください。

▷ 平形ジェット・ノズルなどで洗浄する場合は、最低50cm距離を置いてください。

▷ 丸型ジェット・ノズルを使用しないでください。
高圧洗浄機と丸型ジェット・ノズルを組合せて使用すると、お車を損傷する恐れがあります。特にタイヤの損傷に注意してください。

▷ エンジン・ルームを洗浄する場合は、ジェット・ノズルを直接ジェネレータに向けないでください。

洗車

車を美しく保つには、日頃のお手入れが大切です。こまめに洗車とワックスがけを行ってください。道路に凍結防止剤がまかれる冬季が終わったら、車両の下まわりをていねいに洗ってください。

塩、砂じん、ばい煙、昆虫の死がい、鳥のふん、樹木から出る樹液や花粉は、車体に付着している時間が長くなればなるほど、塗装の傷みがひどくなります。

車の手洗いは洗車機を使用するよりも環境を汚染する場合があります。

▷ グリース、オイル、ごみ等が適切に処理できる場所で、洗車・清掃を行ってください。

濃い色の塗装は、明るい色の塗装に比べて非常に小さな傷（引っかき傷）でも目立ちます。

濃い色の塗装は、顔料の組成のために傷が付きやすいので、特にこまめな手入れと注意が必要です。

▷ 日差しの強いところや、車体がまだ熱い間は洗車しないでください。

▷ 手で洗う場合、水を十分に使用し、柔らかいスポンジか洗車用ブラシ、ポルシェ・カー・シャンプーを使用してください。
ポルシェ・カー・シャンプーを推奨致します。

▷ 車体によく水をかけ、主な汚れを洗い流します。

▷ 洗剤を使った後は車を水で十分にすすぎ、革拭きします。

ウィンドウには、ボディを洗ったときと同じ革を使用しないでください。

ブレーキが濡れていると、効きが悪くなったり片効きになったりします。

▷ ブレーキ・ディスクを乾かした後、ペダルを何度か踏んで制動能力を必ず確かめてください。

緊急時に正常な制動が行えない場合があります。

自動洗車機

▷ 「ワイパー・ブレード」（173ページ）を参照してください。

自動洗車機を使用すると、取付けているオプション部品が飛び出している場合は傷を付ける恐れがあります。

以下のパーツは特に破損の恐れがあります。

— ワイパー（間欠作動やセンサによる不意な誤作動を防止するため、常にスイッチをOFFにしてください。）

— リア・スポイラ

— ホイール（リムが広がり、タイヤ高が低くなるにつれ、より破損が生じやすくなります。）

— メッキ・ホイール（傷が付きやすいので、ホイール洗浄用ブラシでこすらないでください。）

▷ 自動洗車機を使用する前に洗車場の担当者に確認してください。

▷ アンテナを取外してください。

▷ ルーフ・トランスポート・システムを全て取外してください。

▷ ドア、フロント・トランク・リッドやエンジン・フードの継目、ドアの下枠など洗車機で洗えない箇所は手で洗い、柔らかい革（セーム革など）で拭いてください。

ドア・ロック

▷ 冬場にドア・ロックが凍結しないように、洗車中はロック・シリンダにカバーをしてください。

▷ 万一ロックが凍結した場合は、市販の除氷剤を使用することもできますが、温めたキーを差込むのも効果的です。ただし、無理な力をかけないでください。

塗装

▷ 乾いた布で車体のほこりを払うと、ほこりの粒子で表面の塗装が削れてしまい、つやがなくなったり、傷付いたりすることがあります。

車の塗装面は外的悪条件にさらされています。強い日差し、雨、霜、雪等の気候的悪条件が主なものです。その他にも塗装面は紫外線、急速な温度変化、大気中のばい煙、化学堆積物などの影響も絶え間なく受けています。美しい塗装面を長期間保つには、定期的に細やかなお手入れを行うことが不可欠です。

▷ ウィンドウには、シリコン光沢剤を使用しないでください。

▷ つや消し仕上げの部品にワックスや光沢剤を使用すると、つや消し効果がなくなります。

ワックス

塗装面は風化によってつやが失われていくので、頻繁にワックスがけを行ってください。

ワックスがけを行うことによって、塗装の光沢と強度を保つことができます。また、塗装面に汚れが付着したり、ばい煙が浸透することを防ぎます。

洗車とお手入れの際に必ずワックスがけを行うようにすると、新車時の光沢を長く保つことができます。

▷ 洗車の後は、ワックスで磨いてください。

つやだし

通常のワックスがけでは満足なつやが出ない時に限り、ポルシェ社指定の光沢剤を使用してください。

ポルシェ・ペイント・ポリッシュを推奨致します。

汚点、染み

▷ タールの汚れ、グリース、昆虫の死がいは洗っただけでは落ちません。そしてこれらが塗装面に残ると、退色の原因になります。

▷ 処理を行った後は、直ちにその箇所を洗い流してください。

小さな塗装の傷

▷ 亀裂、引っかき傷、飛石による塗装面の小さな傷は、腐食が**始まる前に**、すみやかにポルシェ正規販売店で修理を行ってください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

既に腐食が見られる場合は、まず錆を完全に取除きます。
つぎに、その箇所に防錆プライマを塗布し、上塗り塗料で仕上げます。車両のペイント・データ・プレートをみれば、ペイント・コードやカラー番号がわかります。

エンジン・ルームの清掃と維持

エンジン・ルームおよびエンジンの表面は、工場にて防錆処理が施されています。エンジン・ルーム内の清掃にグリース溶剤を使用したり、エンジンを洗浄した場合は、防錆処理の効果が薄れ腐食を早める恐れがあります。全ての表面、ボディのつなぎめ、ジョイント、エンジン・ルーム内の構成部品に耐久保護剤を塗布してください。また、防錆処理の行われたパーツを交換した場合にも耐久保護剤を塗布してください。

⚠ 注 意

損傷する恐れがあります。

▷ エンジン・ルームを洗浄する場合は、ジェット・ノズルを直接ジェネレータ、シール類およびエンジン構成部品に向けないでください。また、洗浄する場合はジェネレータおよびエンジン構成部品にカバーをしてください。

冬など、特に気温が低い季節には、効果的な防錆対策を取ることが必要です。凍結防止の塩剤がまかれた路面上を頻繁に走行する場合は、エンジン・ルーム全体を完全に清掃し、塩による損傷が及ばないように完全なコーティング処理を行うようにお薦め致します。

ウィンドウ

▷ ポルシェ社のウィンドウ・クリーナは、ウィンドウの内側にも外側にも使用できます。
ポルシェ・ウィンドウ・クリーナを推奨致します。
セーム革を使用してウィンドウを清掃する場合、同じ革をボディ塗装部分と共用しないでください。ワックスや光沢剤が革に付着し、それによってウィンドウが汚れ、視界が悪くなることがあります。

▷ 昆虫の死がいは、昆虫除去剤で取除いてください。

知識：

ドア・ウィンドウには撥水性（疎水性）コーティングが施されており、ウィンドウの汚れを防止しています。
コーティングが自然摩滅してしまった場合は、新しく塗布することができます。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ワイパー・ブレード

視界を良好に保つには、ワイパー・ブレードが完全な状態であることが不可欠です。

▷ ワイパー・ブレードは年に1〜2回（冬季の前後）、またはワイパーの性能が劣化した場合に交換してください。

▷ ワイパー・ブレードはウィンドウ・クリーナーで清掃してください。
ポルシェ・ウィンドウ・クリーナを推奨致します。
汚れがひどい場合（昆虫の死骸など）はスポンジまたは布で清掃してください。

アンダーコーティング

下まわりは化学的、機械的ダメージに対して耐えるように保護されていますが、毎日の走行により保護塗装も傷付きますので、ポルシェ正規販売店で定期的に点検、修理を受けてください。

⚠ 警 告

エキゾースト・システムが火災になる恐れがあります。

▷ エキゾースト・マニホールドやエキゾースト・パイプ、触媒コンバータ、ヒート・シールドやその周辺に追加のアンダーコーティング剤や防錆剤を塗らないでください。これらの箇所は運転中は高温になるので、保護剤を過熱し発火させることがあります。

必ず、下まわりやエンジンを洗浄した後、また下まわりの部品を修理した後に、適切な防錆剤を塗布してください。

ヘッドランプ、ランプ類、室内および外装のプラスチック部品

▷ ヘッドランプ、ランプ類､プラスチック部分などの表面を清掃するには、清潔な真水および少量の中性洗剤を使用してください。表面が乾いた状態で清掃しないでください。
柔らかいスポンジまたは糸くずの出ない柔らかい布を使用し、優しく、あまり圧力をかけずに表面を拭いてください。
ウィンドウ内側の清掃には、プラスチック表面用のクリーナが適しています。クリーナ容器に記載されている注意事項に従ってください。
ポルシェ純正のクリーナ類の使用を推奨致します。
清掃には化学クリーナまたは溶剤を使用しないでください。

▷ 清浄な水で表面を洗い流します。

ドア、リッド、ウィンドウ・シール

▷ シールの汚れ（傷、汚れ、凍結防止の塩など）は温かい石鹸水で定期的に洗浄してください。
化学洗浄剤や溶剤は絶対に使用しないでください。

▷ 凍結の恐れのある場合は、ドアやリッドのシールを適切なケア用品で保護してください。

インナー・ドア・シールに塗布されている減摩コーティングは傷が付きやすいので洗浄しないでください。

ステンレス・スチール製エグゾースト・テール・パイプ

ステンレス・スチール製エグゾースト・テール・パイプは、汚れ、排気熱、排気ガスなどで輝きが失われます。市販の金属ポリッシュで磨いてください。

軽合金製ホイール

▷ 「自動洗車機」（176ページ）を参照してください。

金属粒子（ブレーキ・ダストに含まれる真ちゅうや銅など）が軽合金に長い間付着しないように注意してください。接触性腐食を起こし、ピッチング（小さなくぼみ穴）が発生します。

▷ ホイールをスポンジかブラシで、できれば2週間毎に洗ってください。冬季に凍結防止剤が道路にまかれる地域や、大気中にばい煙の多い地域では毎週洗うようにしてください。
ポルシェ指定軽合金ホイール・クリーナー（pH値9.5）をお使いください。洗剤のpH値が適切でないものを使用すると、ホイールの保護塗装が腐食されます。
ポルシェ純正軽合金ホイール・クリーナを推奨致します。

保護塗装の酸化皮膜を破壊するような光沢剤、研磨器具、研磨剤などは使用しないでください。

▷ 3ヶ月に1度は、洗浄後、腐食性のないグリース（ワセリン）をホイールに塗布してください。柔らかい布を使って、グリースを表面によくすりこみます。

⚠ 警 告

ブレーキ・ディスクにホイール・クリーナなどを付着したままにすると、ブレーキ・ディスクに膜ができて、ブレーキ性能を損なってしまい思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ ブレーキ・ディスクにクリーナが付着していないか必ず確認してください。

▷ ブレーキ・ディスクにクリーナが付着していた場合は、高圧洗車装置を使用して完全に洗い流してください。

▷ 道路に十分に注意してからブレーキを作動させ、ブレーキ・ディスクを乾かしてください。

本革のお手入れ

本革の特性

本革の表面に見られる天然のしわや傷、虫が刺したような跡、模様の違い、色合いや銀面における微妙なバリエーションが本革の天然素材としての魅力を一層引き立てます。

特に知っていただきたいのは本革の特徴です。革は厳選した最高級品質の本革を使用しています。染色しない部分を残して、天然の風合いを感じていただけるように仕上げました。この素材は卓越した座り心地、しなやかさ、風合いを特徴としています。

本革のお手入れおよび取扱い

▷ 白色の湿らせた柔らかい毛織物または市販のマイクロ・ファイバー布を使用して、定期的にお手入れしてください。

▷ 汚れがひどいときは、ポルシェ社指定のレザー・クリーナーを使用してください。
容器の取扱説明書をよく読んでから使用してください。
ポルシェ・レザー・クリーナを推奨致します。

刺激性の強い洗剤や、硬い清掃用品を使用しないでください。

本革製メッシュ・トリムは、裏面まで湿らせないように注意してください。

▷ 洗浄が終わったら、ポルシェ社指定のレザー・ケア剤でお手入れしてください。本革製シートは傷みが激しいので特にお手入れをお薦め致します。
ポルシェ・レザー・ケア剤を推奨致します。

カーペットとマット

▷ 掃除機か、中程度の硬さのブラシを使用してください。

▷ 汚れやしみはポルシェ社指定のしみ抜き剤で除去します。

カーペットの汚れを防止するため、フロア・マットがポルシェ・カー・アクセサリとして販売されています。

⚠ 警 告

思わぬ事故になる恐れがあります。

▷ ペダル操作の妨げにならないようにフロア・マットは確実に固定してください。

アルカンターラ

アルカンターラ部の清掃に革用手入れ剤を使用しないでください。

日常のお手入れとしてはカバーを柔らかいブラシで拭くだけで十分です。
アルカンターラの表面を強くこすらないでください。損傷する恐れがあります。

軽度な汚れ

▷ 柔らかい布を水または薄めた中性洗剤で濡らして、汚れを取除きます。

頑固な汚れ

▷ 柔らかい布をぬるま湯または薄めたクリーニング用溶剤で濡らして、外側から汚れた部分を軽くたたきます。

シートベルトのお手入れ

シートベルトを洗浄する場合は、刺激性の少ない洗剤を使用してください、またベルトを乾燥させるときは、直射日光を避けてください。

▷ 適切な洗剤のみを使用してください。

▷ ベルトを染色および脱色しないでください。ベルトの布地が弱り、安全性が損なわれます。

車の保管

長期間保管をする場合は、ポルシェ正規販売店にご相談ください。スタッフが適切な腐食防止対策、お手入れ、メインテナンス、保管などのアドバイスを致します。

▷ 「バッテリ」(201ページ)を参照してください。

万一のときのために

簡単な整備作業について

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施されるよう推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

お客様ご自身でメインテナンスされる場合につきましても細心の注意を払っていただくようお願い致します。このような注意を払ってはじめて信頼できる走行が保証できます。

不適切な整備を行いますと、保証期間中でも保証が適用されないことがあります。

知識：

停止表示板＊、応急処置セット＊、工具セットはフロント・トランクに収納しています。

▷ 「フロント・トランク・リッドの開き方」（131ページ）を参照してください。

国の法規によっては、工具セットやスペア・パーツの携帯が義務付けられている場合があります。運転前には必ず確認をしてください。

⚠ 警 告

メインテナンス作業は危険を伴いますので十分に注意してください。致命的な事故、怪我および火災になる恐れがあります。

▷ バッテリや燃料系統の近くでは、喫煙したり火気を近付けたりしないでください。

▷ 整備は、屋外か、室内でも換気のよい状況で行ってください。

▷ 加熱しているエンジン部品の近くで作業をする場合は、火傷の危険性がありますので十分注意してください。

▷ エンジン・ルーム内の部品の整備をする前にエンジンを停止し、十分冷やしてください。

▷ エンジンをかけたまま作業しなければならない場合は、必ずパーキング・ブレーキをかけ、シフト・レバーをニュートラルまたはセレクタ・レバーを**“P”**の位置にしてください。

▷ 手、指、衣服の一部（ネクタイ、袖など）や装飾品、長い髪などがファン、ドライブ・ベルト、その他の可動部に絡まることのないように、特に注意してください。

▷ ラジエータおよびラジエータ・ファンは車両の前側にあります。
ラジエータ・ファンはイグニッションがONのときは、作動していたり、不意に作動することがあります。
ラジエータ・ファン付近で作業をする場合は、エンジンおよびイグニッションをOFFにして怪我をする危険性がありますので十分注意して作業をしてください。

▷ イグニッションがONのときは、点火装置に接続されている全てのケーブルとリード線に高電圧がかかっていますので、特に注意が必要になります。

▷ もし、車の下に入って作業する場合は、必ず強固なリフトで車体を持ち上げてください。ジャッキを使用することは危険ですのでおやめください。

▷ エンジン・オイル、ブレーキ液またはクーラントなどの液体は健康を害するので、取扱いの際は次のことに注意してください。
これらの液体はお子様の手の届かない所で保管してください。
廃棄する場合は、法規に従ってください。

＊日本仕様に設定はありません。

タイヤとホイール

タイヤの寿命は、空気圧やホイール・アライメントの他に、走行スタイルにも関係しています。急加速、高速でのコーナー走行、ブレーキの酷使はタイヤの摩耗を早めます。また、高い外気温や悪路での走行では、トレッドの摩耗も大きくなります。エンジン同様、タイヤも正常な状態で使用されなければなりません。正しく取扱うことにより、長時間にわたり、安全なドライビングが保証されます。
安全のためにも、これから説明されるタイヤの取扱いに関する項目を守ってください。

荷重と速度

▷ 車両に規定重量を超える荷物を積まないようにしてください。ルーフへの積載重量に注意してください。

過負荷状態に加えて

+ タイヤ空気圧が低いとき
+ 高速で走行したとき
+ 気温が高いとき

（例：真夏の暑い日のドライブなど）走行するのはきわめて危険な行為です。

タイヤの空気圧

タイヤを規定の空気圧に保ってください（規定空気圧は、この取扱説明書の3ページと燃料給油口カバーの内側に表示されています）。表示されている規定空気圧は、タイヤが冷えているときのものです。（約20˚C）

▷ 空気圧は最低でも2週間毎に点検してください。また必ずタイヤが低温状態の時に行ってください。（約20˚C）

▷ タイヤ空気圧モニタリング・システム装着車：「TPMタイヤ空気圧モニタリング・システム」（91ページ）を参照してください。＊

タイヤの温度が上昇すると、空気圧も上昇します。

▷ タイヤの温度が高い状態で空気を抜くと、温度が下がったときに空気圧が最低値以下になってしまうため注意が必要です。

バルブ・キャップはバルブからの空気漏れを防ぎ、ほこりや汚れが入るのを防ぎます。

▷ 必ずネジを完全に締めてください。

▷ 紛失したら直ちに新しいキャップを取付けてください。

空気圧が不十分だとタイヤが過熱し、タイヤに目視できない損傷を与える可能性があります。この様な損傷は、空気圧を正しく調整しても直りません。

タイヤの破損

▷ 「高圧洗車装置」（175ページ）を参照してください。

⚠ 警 告

目に見えないような傷でも、高速走行時にはそれが原因でタイヤがバーストすることがあります。

▷ 定期的にタイヤ（側面も含む）を点検し、異物、欠け、切り傷、き裂、側面のふくれ等がないか調べてください。

▷ 縁石は速度を落として、なるべく直角に乗り越えてください、また急な縁石や尖った縁石を乗り越えるのはやめてください。

▷ 衝撃の強さによっては、リムを損傷することがあります。リムの特に内側が損傷している可能性がある場合には、専門家による点検を受けてください。

＊日本仕様に設定はありません。

以下の場合、安全のためにタイヤ交換をお薦め致します。

— タイヤに不具合がある場合、状況から判断してタイヤの層が損傷している可能性がある場合
— 空気圧の低下や損傷のためにタイヤが過熱したり異常な負荷がかかり過ぎた可能性がわずかでもある場合

知識：

タイヤの修理は、どのような場合でも許可されていません。タイヤ・シーラントによるタイヤの補修は緊急な場合にかぎります。近くの整備工場までは運転していくことはできますが、タイヤの気密性が確保されたとしても、緊急時に短距離を走行するに留めてください。

縁石

高速で縁石を乗り越えたり、縁石の鋭角部分や尖ったもの（石など）にタイヤが当たると、その衝撃で目に見えない損傷が生じます。その時点では気付かなくても、後で損傷があらわれる場合があります。衝撃の強さによっては、リム・フランジが損傷する場合があります。

タイヤの保管

▷ タイヤは常に乾燥した場所に保管してください。ホイールに取付けていないタイヤは立たせた状態で保管してください。

▷ 燃料、オイル、グリース等に触れないように保管してください。

「タイヤは保管して古くなった方が摩耗しにくくなる」といった説がありますが、これはまったくの誤りです。時間がたつと、ゴムに伸縮性を与えるために添加されている化学薬品の効果がなくなり、ゴムがもろくなってしまうため、**製造後6年以上たったタイヤは使用しないでください**。

タイヤの製造時期は側面のDOTコードでわかります。例えば、コードの下4桁が1205となっていたら、2005年の第12週目に製造されたタイヤということになります。

トレッド（溝）

トレッドが浅くなればなるほど、ハイドロプレーニング現象の起こる危険性が高くなります。

▷ 安全のため、トレッドの溝にスリップ・サイン（深さ1.6ミリ）が**表われる前に**タイヤを交換してください。

▷ タイヤは定期的に点検してください。特に長距離走行の前後には、入念に点検をしてください。

ホイール・バランス

▷ 安全で快適なドライブを楽しんでいただくために、サマー・タイヤは春に、スノー・タイヤは冬に入る**前に**ホイール・バランスの調整を受けてください。

ウエイトは必ず認可されたものを使用してください。接着タイプのウエイトは洗浄剤により落下することがありますので、ホイールの清掃の際は注意してください。

ホイールの交換

▷ ホイールを取外すときは、回転方向と各ホイールの位置をマークしてください。

例：

FR（右前）、FL（左前）、RR（右後）、RL（左後）

▷ 常にマークした通りにタイヤを取付けてください。

ホイール・アライメント

トレッドの摩耗に偏りがあるのは、ホイールのアライメント不良の可能性があります。ポルシェ正規販売店にご相談ください。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

⚠ 警　告

不具合の原因をそのままにして運転をつづけると車両をコントロールできなくなることがあり、たいへん危険です。

長距離走行時にハンドルをとられたり、振動が発生した場合は、タイヤや車両が損傷する恐れがあります。

▷ 急激なブレーキ操作を行わないように、スピードを落としてください。

▷ 停車して、タイヤを点検しても不具合箇所が判明しない場合には、慎重な運転を心掛け、最寄りのポルシェ正規販売店まで車両をお持ちください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

タイヤ交換

ZR品質タイヤは240km/ h の速度に耐えられるように設計されていますが、その速度を強要する訳ではありません。法定速度を遵守して走行してください。

▷ 新しいタイヤを取り付ける前に、最新の認可事情についてポルシェ正規販売店にお尋ねください。

▷ ポルシェ車によってテスト、認証されたタイヤメーカーの製品のみをご使用ください。

基本的にタイヤの組み合わせは同じメーカーの同じ仕様番号（N0、N1など）のものに限定してください。

▷ 新しいタイヤはグリップ性能が十分ではないので、交換後100～200kmは必要以上に高速で走行しないでください。

フロントまたはリア・タイヤ**のみ**交換した場合は、前後タイヤのトレッド溝深さに差があるので、それまでの走行とはっきりした違いが感じられます。この違和感は特にリア・タイヤを交換した場合に顕著になります。走行距離が伸びるにつれて違和感はしだいに減少していきます。

▷ ハンドリングの変化に応じた運転を行ってください。

タイヤの交換はかならず整備工場などで行ってください。

タイヤを片側のみ交換する場合は、左右タイヤのトレッド溝深さに30%以上の差がないように注意してください。

▷ 過去の使用歴が不明な中古タイヤは使用しないでください。

バルブ

▷ プラスチック・バルブ・キャップのみを使用してください。

ラバー・バルブはタイヤ交換時にかならず交換してください。

メタル・バルブの交換は、規定の取り付けまたは交換手順に従ってください。

▷ ポルシェ純正メタル・バルブまたはポルシェ社の要求する性能、品質規準を満たす同等部品を使用してください。

▷ バルブ・インサートの汚れを防ぐため、必ずバルブ・キャップを取り付けてください。

バルブが汚れると、タイヤ空気圧減少の原因となります。

ウィンター・タイヤ

⚠ 警 告

走行道路の遵守速度を守ってください。思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ ウィンター・タイヤの最高制限速度を超えないように走行してください。

▷ 最高制限速度を表示したステッカーを運転手の目に付く位置に貼ってください。

▷ 国別の法律に従ってください。

▷ ウィンター・タイヤは降雪や凍結のシーズンが近付いたら早めに、4輪全てに装着してください。ウィンター・タイヤに関しては最寄りのポルシェ正規販売店にご相談ください。

▷ ウィンター・タイヤを装着する前に、認可されているタイヤであることを確認してください。

▷ ポルシェ社によってテスト、認可されたタイヤ・メーカーの製品のみをご使用してください。

知識：

外気温が7℃を下回る場合、ウィンター・タイヤを装着されることをお勧めします。

ウィンター・タイヤはトレッドの深さが4 mm以下になると機能が低下します。

ホイールの交換

▷ ホイールを取外すときは、回転方向と各ホイールの位置をマークしてください。

例：

FR（右前）、FL（左前）、RR（右後）、RL（左後）

▷ 常にマークした通りにタイヤを取付けてください。

その他

冬場の走行には、雪や氷を取除くためのハンドブラシとプラスチック製スクレーパー、凍結した斜面にまく乾いた砂などを携行すると役に立ちます。

スノー・チェーン

スノー・チェーンは後輪にのみ装着可能で、「テクニカル・データ」に掲載されていないタイヤ／リムの組合わせには、使用できません。

▷ チェーンとホイール・ハウスの間に十分なクリアランスをとるため、ポルシェ社が推薦、認可したファインリンク・クロスタイプ・スノー・チェーンのみをご使用ください。

▷ スノー・チェーンを装着する前に、ホイール・ハウス内側の固まった雪と氷を取除いてください。

▷ 法定速度を遵守してください。

▷ 「タイヤ、ホイール、トレッド」（232ページ）を参照してください。

スノー・チェーンの装着

5 mmスペーサを取付けた状態では、スノー・チェーンを装着しないでください。

⚠ 注 意

5 mmスペーサを取付けたままスノー・チェーンを装着すると、ホイール・ハウジングを損傷する恐れがあります。

▷ スノー・チェーンを装着する前に、4輪すべての5 mmスペーサを取外してください。

▷ スペーサの取外し／取付け：

スペーサの取外しと取付け作業はポルシェ正規販売店で行ってください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

▷ 「スペーサ」（191ページ）を参照してください。

A - *タイヤ幅（mm）*
B - *扁平率（%）*
C - *タイヤ構造記号（ラジアル）*
D - *リム径（インチ）*
E - *ロード・インデックス*
F - *速度記号*

ラジアル・タイヤの記号

速度記号

速度記号はそのタイヤの最高許容速度を示します。
この記号はタイヤのサイド・ウォールに表示されています。

H = 210km/hまで
V = 240km/hまで
W = 270km/hまで
Y = 300km/hまで

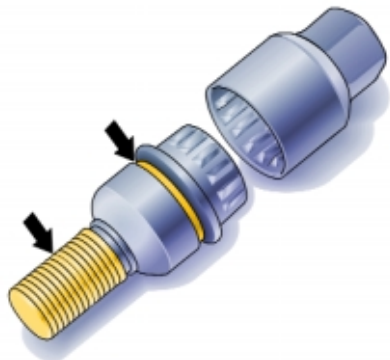
知識：

▷ 定格最高速度が車両最高速度に満たないタイヤ（ウィンター・タイヤなど）は、タイヤ・サイドウォールにM+S識別が記載されている場合に限り、取付けることができます。

軽合金ホイールの記号

知識：

リム幅（インチ）およびリム・オフセットは外側から見えます。この表示はタイヤ・バルブの横にあります。

G - *リム幅（インチ）*
H - *フランジ形状記号*
I - *ドロップ・センター・リム記号*
J - *リム径（インチ）*
K - *ダブル・ハンプ*
L - *リム・オフセット（mm）*

ホイール・ボルト

▷ タイヤ交換時などホイール・ボルトを外したときは清掃してください。

▷ ポルシェ純正グリース〔**オプティモリTA**（アルミニュウム・ペースト）〕をねじ山、ヘッド・ボルトと可動式球面キャップ・リングの間（**矢印**）に塗布してください。
球面キャップのベアリング側にはグリースを絶対に塗らないでください。

▷ ホイール・ボルトを交換する際は、必ずポルシェ純正ホイール・ボルトを使用してください。
ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

締付けトルク

ホイール・ボルトは**130Nm**の締付けトルクで締め付けてください。

盗難防止ホイール・ボルト

盗難防止ホイール・ボルト用のソケットは工具セットの中に入っています。

盗難防止ホイール・ボルトの取外しや取付けを行うには、山が特殊な形状になっているソケットをアダプタとして、ホイール・ボルトとホイール・ボルト・レンチの間に挿入してください。

▷ ソケットを挿入するときは、ホイール・ボルトの山に確実に合わせてください。

知識：
修理するためにホイールを外す必要がある場合、車のキーと一緒に盗難防止ホイール・ボルト用のソケットも忘れずお渡しください。

スペーサ＊

▷ スペーサを取付けるときは、ポルシェ社が承認したホイールおよびホイール・ボルトを使用してください。

スペーサを取付ける前に、最新の認可ホイールを確認してください。詳しくは、正規ポルシェ販売店にご相談ください。

コラプシブル・スペア・タイヤを使用するとき

5 mmスペーサが取付けられている場合は、コラプシブル・スペア・タイヤを装着するときに、5 mmスペーサを取外さないでください。

スノー・チェーンの装着

5 mmスペーサを取付けた状態では、スノー・チェーンを装着しないでください。

⚠ 注 意

5 mmスペーサを取付けたままスノー・チェーンを装着すると、ホイール・ハウジングを損傷する恐れがあります。

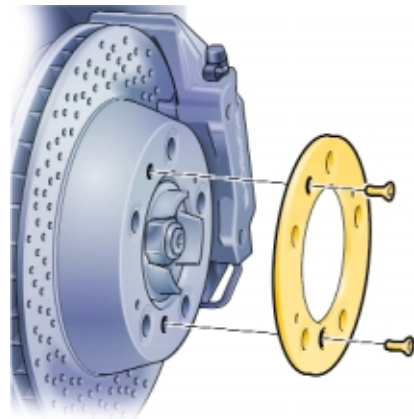
▷ スノー・チェーンを装着する前に、4輪すべての5 mmスペーサを取外してください。

知識：

▷ スペーサの取外し／取付け：

スペーサの取外しと取付け作業はポルシェ正規販売店で行ってください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

スペーサの取外し

1. 「タイヤ交換」（196ページ）を参照してください。
2. 皿ネジ・タイプのスクリュ2本 (M6×16) を、ホイール・ハブから取外します。
3. スペーサを取外します。
4. ネジ部の長さが**短い**皿ネジ・タイプのスクリュ (M6×12) を使用して、ブレーキ・ディスクを固定します。
   部品番号： 900.269.047.09
   締付けトルクは**10Nm**です。
5. スペーサを取外した状態でホイールを取付けるときは、ネジ部の長さが5 mm **短い**ホイール・ボルトを使用します。
   部品番号： 996.361.203.02
   締付けトルクは**130Nm**です。

スペーサを取外したときに必要な部品：

皿ネジ・タイプのスクリュ（短）(M6×12)
部品番号： 900.269.047.09

ホイール・ボルト（短）×1セット
部品番号： 996.361.203.02

盗難防止ホイール・ボルト
部品番号： 996.361.057.01

＊日本仕様に設定はありません。

ホイール・ボルト（長）
X = ボルト首下長さ約50 mm
矢印部に識別マークあり

ホイール・ボルトの識別方法

ホイール・ボルト（長）は、ボルト頭部に「GT」の印が付いているか、または赤色にマーキングされています。
もしくは、ネジ部の球面キャップ・リングが赤色にメッキされています。
このホイール・ボルト（長）は、5 mm**スペーサを取付けたとき**に使用してください。

ホイール・ボルト（短）には、カラー・マーキングがありません。
このホイール・ボルト（短）は、5 mm**スペーサを取外したとき**に使用してください。

どちらの場合も、ホイール・ボルトの締付けトルクは**130Nm**です。

パンクしたとき

1. できるだけ道路の脇によけて停車します。
   ジャッキがセットできる固く平坦な滑りにくい場所に駐車してください。
2. ハザード・ランプを点灯させます。
3. パーキング・ブレーキをしっかりかけます。
4. ギヤを1速に入れるか、セレクタ・レバーを“**P**”にします。
5. 前輪を直進位置にします。
6. エンジンが始動しないように、イグニッション・キーを抜き、ステアリングをロックします。
7. 車両から乗員を降ろします。
8. 停止表示板を車両から適当に離して置きます。

A - *充填ボトル*
B - *充填ホース*

タイヤ・シーラント

タイヤ・シーラントはタイヤ・トレッドについた小さな切傷の補修に使用できます。

タイヤ・シーラントによるタイヤの補修は緊急な場合にかぎります。近くの整備工場までは運転していくことができますが、タイヤの気密性が確保されたとしても、緊急時に短距離を走行するに留めてください。

タイヤ・シーラントおよびプレッシャ・テスター付きコンプレッサーはトランク・ルーム内のツール・ボックスに保管されています。

タイヤ・シーラントの構成：

- 充填ボトル
- 充填ホース
- バルブ回し
- スペア・バルブ・インサート
- 最高制限速度を表示したステッカーを運転手の目の付く位置に貼ってください。

⚠ 警 告

思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ タイヤ・シーラントは4mm以下の切傷や刺傷のみに使用してください。

▷ リムが損傷している場合は、タイヤ・シーラントを使用しないでください。

⚠ 警 告

シーラントは可燃性が高く、有害な物質なので十分注意してください。

▷ タイヤ・シーラントを取扱う際は、炎、裸火、喫煙は厳禁です。

▷ 皮膚、目、衣服に付着しないように注意してください。

▷ お子様の手の届かない場所に置いてください。

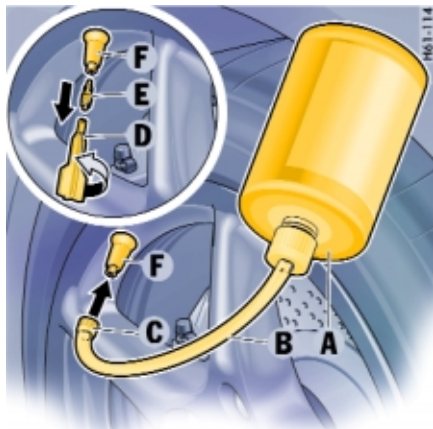
▷ 気化ガスを吸込まないでください。

シーラントが付着した場合：

▷ 皮膚に付着したり、目に入った場合はただちに洗い流してください。

▷ 付着した衣服はすぐに着替えてください。

▷ アレルギー反応がある場合は至急医師の診察を受けてください。

▷ シーラントを飲込んだ場合は、ただちに口の中を十分にゆすぎ、大量の水を飲んでください。嘔吐せずに、至急医師の診察を受けてください。

A - 充填ボトル
B - 充填ホース
C - 充填ホースのプラグ
D - バルブ回し
E - バルブ・インサート
F - タイヤ・バルブ

シーラントの充填

1. タイヤの空気が抜けた原因となったものは、タイヤに残しておきます。
2. トランク・ルームからシーラントおよび同封のステッカーを取出します。
3. ステッカーはドライバーから見える位置に貼付けます。
4. 充填ボトル**A**を振ります。
5. 充填ホース**B**を充填ボトルにねじ込みます。これで充填ボトルが使用できます。
6. タイヤ・バルブ**F**からバルブ・キャップを外します。
7. バルブ回し**D**を使用してバルブ・インサート**E**をタイヤ・バルブから取外します。バルブ・インサートは、乾いた汚れのない場所におきます。
8. 充填ホース**B**のプラグ**C**を取外します。
9. 充填ホースをタイヤ・バルブに押し付けます。
10. 充填ボトルをタイヤ・バルブより上に持上げ、ボトルを強く押して中身を完全にタイヤに充填します。
11. 充填ホースをタイヤ・バルブから抜きます。
12. バルブ回しを使用してバルブ・インサートをタイヤ・バルブにしっかりねじ込みます。
13. 指定のタイヤ空気圧をセットし、タイヤに空気を入れます。
「冷間時のタイヤ空気圧」(233ページ)を参照してください。
14. バルブ・キャップをタイヤ・バルブにねじ込みます。
15. 約10分間走行してからタイヤ空気圧を点検してください。
タイヤ空気圧が1.5bar/22psi未満の場合は、運転を中止してください。
タイヤ空気圧が1.5bar/22psi以上の場合は、指定のタイヤ空気圧に調整してください。
16. スペア・タイヤに不具合が発生したら、ポルシェ正規販売店にて点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店での実施を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束いたします。

お手入れ

はみ出したシーラントは乾燥すると細かく剥がれ落ちます。

⚠ 警 告

思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ あくまでも応急的な処置なので、できるだけ早く専門整備工場でタイヤを交換してください。
▷ 急加速やカーブを高速で走行することは避けてください。
▷ 80km/hの最高速度を遵守してください。
▷ シーラントおよびコンプレッサーに関する安全および取扱説明書を遵守してください。

前側のジャッキ・ポイント

リフトまたはトロリ・ジャッキ用のジャッキ・ポイント

▷ 車体をリフトアップする際には、ジャッキ・ポイントにリフトを当てて行ってください。

後側のジャッキ・ポイント

▷ 車両をリフトに移動させる際には、リフトのプラット・フォームと車体の間に十分なスペースがあることを確認してください。

▷ エンジン、トランスミッション、およびアクスルでのジャッキ・アップは決して行わないでください。重大な事故を起こす恐れがあります。

タイヤ交換

⚠ 警 告

ジャッキが外れて致命的な怪我をする恐れがあります。

▷ ジャッキ・アップするときは、車にだれも乗車していないことを確認してから行ってください。

▷ ジャッキは、タイヤ交換のために車体を持ち上げるためのみに使用してください。

▷ 車の下にもぐる場合は、適切な車体スタンドまたはそれに相当するもので支えてください。

知識：
タイヤ交換に必要な工具（ジャッキ、ホイール・ボルト・レンチなど）は車両に装備されておりません。

1. パーキング・ブレーキをしっかりかけ、ギヤを一速に入れるかセレクタ・レバーを **“P”** にします。

   イグニッション・キーを抜きます。

2. 交換するタイヤの反対側の車輪に輪止めをするなどして、車が不意に動き出さないようにします。特に坂道などでは必ず行ってください。

3. 交換するタイヤのホイール・ボルトを少しだけ緩めます。

4. タイヤが地面から離れるまで、車両を持ち上げます。必ずジャッキ・ポイントを持ち上げてください。

▷「リフトまたはトロリ・ジャッキ用のジャッキ・ポイント」（195ページ）を参照してください。

ポルシェ・セラミック・コンポジット・ブレーキ
非装着車

5. 対角線のホイール・ボルト1本または2本を外し、工具セットの組付け補助工具を取付け、残りのホイール・ボルトを外します。（図参照）

⚠ 注 意

ブレーキ・ディスクを損傷する恐れがあります。

▷ タイヤを交換する場合は、必ず補助工具を挿入してください。

ポルシェ・セラミック・コンポジット・ブレーキ ***装着車***

知識：

▷ スペーサの取外し／取付け：

「スペーサ」（191ページ）を参照してください。

6. 交換するタイヤを外し、新品のタイヤを取付けます。
7. 「ホイール・ボルト」（190ページ）を参照してください。

   ホイール・ボルトを挿入し、手で仮締めします。組付け補助工具を取外し、残りのボルトを締め付けます。ホイールの中心がずれないように、対角線の順に仮締めします。接触面に汚れがないようにしてください。
8. 車両を降ろし、ジャッキを取外します。
9. 対角線の順に、ホイール・ナットを完全に締めます。
10. **タイヤを交換したら、トルク・レンチを使ってホイール・ボルトの締付けトルクを測ってください。締付けトルクは130Nmです。**

電気系統

電気・電子回路の損傷を防止するために、アクセサリの取付け作業はポルシェ正規販売店で行ってください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

▷ アクセサリはポルシェ社が認可した物のみをご使用ください。

⚠ 警 告

回路がショートしたり、火災になる恐れがあります。

▷ 電気系統の作業をするときは事前にバッテリ・マイナス（—）ケーブルの端子を外してください。

リレー

故障したリレーは必ずポルシェ正規販売店で交換してください。

盗難防止装置、セントラル・ロッキング

セントラル・ロッキングと盗難防止装置のデータは、バッテリを取外しても変換されません。

バッテリが取外された場合は、盗難防止装置の機能は停止します。

セントラル・ロッキング・オーバーロード・プロテクション

セントラル・ロック・システムを1分間に10回以上操作した場合、30秒間作動しません。

2時間後または7日後の作動停止

車に装備されている電装品で電源が入っているものやスタンバイ・モードのもの（ラゲッジ・ルーム・ランプ、ルーム・ランプ、ラジオ）はイグニッション・キーを抜くと**約2時間後**、自動的に電源が切れます。

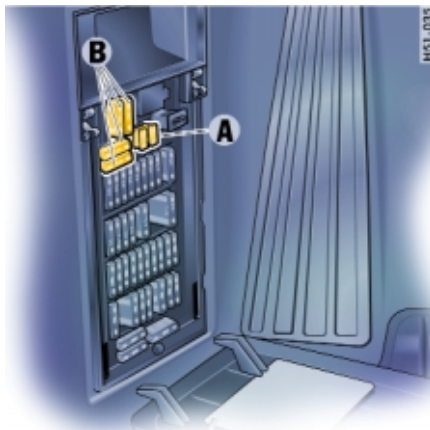
7日間始動しないとリモート・コントロール・スタンバイ機能はOFFになります（バッテリ放電防止のため）。

1. この場合、運転席ドアのロック解除はドア・ロックにキーを差込んで行います。

   警報システムの作動を防ぐためにドアは閉めたままにします。

2. リモート・コントロールの**ボタン1**を押してください。

リモート・コントロールは再び作動します。

A - *診断ソケット*

A - *プラスチック・グリップ*
B - *スペア・ヒューズ*

ヒューズの交換

ショートや過負荷によるケーブルやアクセサリの損傷を防ぐために、各々の回路がヒューズで保護されています。
ヒューズ・ボックスは運転席の足元の左下にあります。

1. 交換するヒューズと関係のあるシステムをOFFにしてください。
2. ヒューズ・ボックスは、プラスチック製のカバーで保護されています。カバーは手で引張って開きます（**矢印**）。

   ヒューズ一覧表と**フロント・トランク・リッドの非常時のロック解除**はヒューズ・ボックス・カバーの内側に記載されています。
3. ヒューズの点検や交換の際は、プラスチック・グリップ**A**を使用して、止め具から外してください。切れたヒューズは、金属線が溶けているのでわかります。
4. 必ず同じ容量のヒューズと交換してください。

知識：

ヒューズが何度も切れる場合は、原因を確かめるため直ちにポルシェ正規販売店にご相談ください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

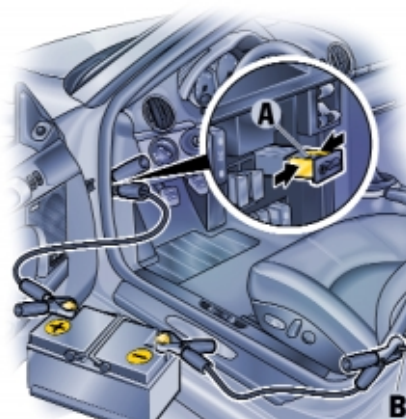
フロント・トランク・リッドの非常時ロック解除

バッテリ上がりの場合、リッドを開くには別の外部バッテリを使用する必要があります。

リッドのロック解除

1. キーでドア・ロックを解除します。キーはドア・ロックに付けたままにします。
2. ヒューズ・ボックスのプラスチック・カバーを取外します。
3. ヒューズ・ボックスの端子**A**（＋）を引出します。
4. ジャンパー・ケーブルを使用して、外部バッテリのプラス端子とヒューズ・ボックスの端子**A**（＋）を接続します（プラス・ケーブル）。

知識：
車両がロックされていた場合、マイナス・ケーブルを接続するとアラーム・ホーンが鳴ります。

5. ジャンパー・ケーブルをもう1本使用して、外部バッテリのマイナス端子とラッチ・ストライカ**B**を接続します（マイナス・ケーブル）。
6. リモート・コントロールを使用して、フロント・トランク・リッドのロックを解除します。警報システムはOFFになります。

7. まずマイナス・ケーブルを外し、続いてプラス・ケーブルを外します。
8. 端子**A**（＋）をヒューズ・ボックスに押込み、プラスチック・カバーを取付けます。

知識：
この手順ではエンジンの始動は**できません**。

▷ 「ジャンパー・ケーブルによる始動」（206ページ）を参照してください。

バッテリ

▷「緊急操作—イグニッション・キーの抜取り」(15ページ) を参照してください。

⚠ 警 告

回路がショートしたり、火災になる恐れがあります。

▷ 電気系統の作業をするときには、ショートの危険を避けるためにバッテリ・マイナス（—）ケーブルの端子を外してバッテリの接続を切ってください。

▷ ショートする危険があるので、工具、指輪、ブレスレット、時計バンドなど電気を通す装飾品が車両の電気部品と接触しないように注意してください。

爆発する恐れがあります。

▷ 乾いた布でバッテリを拭かないでください。

▷ バッテリを取扱う前に、車体などに触れて静電気を逃がしてください。

バッテリ取扱い上の注意

作業の前に取扱説明書をお読みください。

安全眼鏡を必ず着用してください。

子供を絶対に近付けないでください。

爆発の危険があります。

バッテリ充電中に爆発性の高い電解質のガスが発生します。

火気厳禁、禁煙

電気配線や電気装置を扱っているときは、回路のショートや火花を発生させないでください。
ガス抜きホースが付いたバッテリではホース出口から高濃度の電解質ガスが放出されるためホースによじれや詰まりがないようにしてください。

酸による火傷の危険があります。

バッテリ液には極めて強い腐食性があります。
常に安全手袋と安全眼鏡を必ず着用してください。
ガス抜き穴からバッテリ液が漏れる恐れがあるので、バッテリを傾けないでください。

応急処置

バッテリ液が目にかかった場合、直ちに水で数分間洗い流し医者の診察を受けてください。
皮膚、衣服にかかった場合、直ちに石けん水で中和し、大量の水で洗い流してください。
万一バッテリ液を飲み込んでしまった場合は、直ちに医者の診察を受けてください。

廃棄

古いバッテリは、適切な廃棄場にて廃棄してください。

古いバッテリを家庭ごみと一緒に廃棄しないでください。

充電状態

バッテリを十分に充電することにより、始動時のトラブルがなくなり、バッテリの寿命も延びます。交通渋滞、制限速度、および騒音、排ガス、燃費に関する要求により、エンジン回転数、つまりオルタネータ出力は抑えられます。その一方で、電気装備類が驚異的に増え、必要な電力は増加しています。

不慮のバッテリ上がりを防ぐため、下記に留意してください。

▷ 市街地／短距離の運転時、および渋滞時には、不要な電気装備類をOFFにしてください。

▷ 車両を離れるときには、かならずイグニッション・キーを抜いてください。

▷ エンジン停止時には、ポルシェ・コミュニケーション・マネジメント・システム＊を使用しないでください。

バッテリのお手入れ

▷ バッテリ表面と端子は清潔で乾いた状態に保ってください。

▷ バッテリ・ポストと端子クリップは、必ず確実にセットしてください。

バッテリ液の量の点検

夏期や暖かい気候のところでは、頻繁に点検する必要があります。点検については、ポルシェ正規販売店で実施してください。

バッテリの充電

ポルシェ正規販売店でスタッフにご相談の上、お車に合ったバッテリ充電器をお求めください。

1. メーカーの取扱説明書に従って、作業を行ってください。
   充電器の種類によってはバッテリを切離す必要があります。非常に重要：この場合、マイナス・ケーブルを先に切離してから、次にプラス・ケーブルを切離してください。ショートする危険があります。接続は逆の順序で行ってください。
2. バッテリが低温の場合は、充電前に屋内で暖めてください。
3. バッテリが凍結している場合は、充電を行ってはいけません。新品のバッテリと交換してください。
4. 充電時は十分に換気を行ってください。
5. バッテリに充電器を接続します。
   必ず主電源に接続し、正しく接続されているか確認してからスイッチを入れます。

冬季時バッテリの取扱い

気温が低くなるとバッテリの容量が低下する上にリア・ウィンドウ・ヒータ、ランプ類、ヒータ、フロント・ワイパなどの使用頻度が増えるので、より大きなバッテリ電力が必要となります。

▷ 冬になる前に、ポルシェ正規販売店でバッテリの点検を受けてください。

また、バッテリが凍結しないように、常に完全な充電状態にしてください。バッテリが充電不足だと−5℃程度の低温でも凍結することがあります。完全に充電されている場合は−40℃まで凍結しません。

＊日本仕様に設定はありません。

車を保管するとき

車を使用せず、車庫や修理工場に長期間保管する場合は、ドアやエンジン・フード、トランク・リッドを確実に閉じてください。

▷ 「フロント・トランク・リッドの非常時ロック解除」（200ページ）を参照してください。

▷ イグニッション・キーを抜き、必要に応じてバッテリの端子を外してください。**バッテリが切放してあると警報装置は作動しません**。

車を車庫に保管している間も、バッテリは放電しています。

▷ 正常に使用可能な状態を保つには、約6週間毎の充電が必要です。
充電器の使用はメーカーの取扱説明書に従ってください。

▷ 取外したバッテリは、湿気がなく風通しのいい冷暗所に保管してください。

バッテリ交換

バッテリの寿命は通常の消耗状態に左右され、特に、お手入れ、気候、走行条件（距離、積載物）によって違ってきます。

交換には部品番号をよく確認して、ポルシェ純正バッテリのみをご使用ください。

▷ バッテリを交換するときは、お車に合った性能のバッテリのみを使用してください。

ポルシェ純正バッテリを使用することをお薦めします。

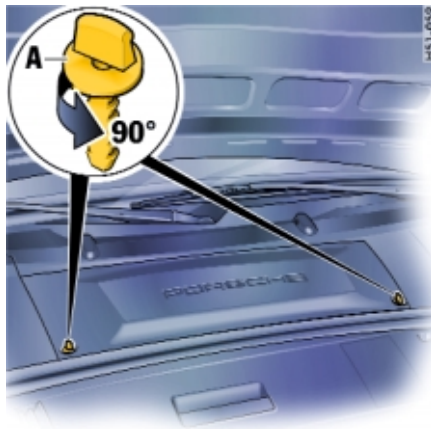
▷ 使用済みバッテリの廃棄処分は、法規に従ってください。

車両の作動復帰

バッテリを接続した後、または**完全に上がってしまった**バッテリを充電した場合は、インストルメント・クラスタのPSM警告灯が点灯し、オンボードコンピュータに警告メッセージが表示されます。

この場合は以下の手順により対処することができます。

1. エンジンを始動します。
2. 車両停止状態で、ステアリングを左右に少しずつ回し、PSM警告灯が消灯し、オンボードコンピュータのメモリから警告メッセージが消去されるまで短距離を直線走行させます。
3. 警告灯および警告メッセージが**消えない**場合は、最寄りのポルシェ正規販売店まで慎重に運転し、故障を修理してください。
4. 警告灯および警告メッセージが消えた場合は、安全な場所に停車して、パワー・ウィンドウの適応を確認してください。
   ロッカー・スイッチを**1度**押して、ウィンドウを全閉位置にします。

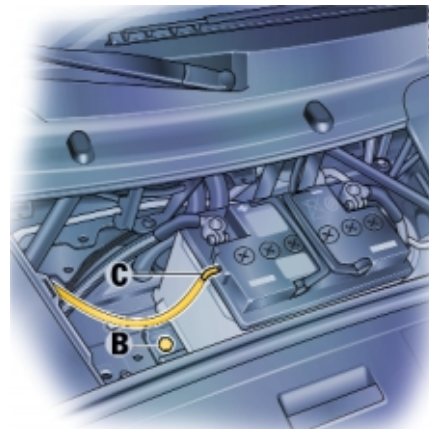
   再度ロッカー・スイッチの前側を上方に押すと、ウィンドウの位置が記憶されます。

⚠ 警 告

ジェネレータおよび電気系統を損傷する恐れがあります。

▷ エンジンをかけたままバッテリの接続を切放さないでください。

こぼれたバッテリ液で腐食する恐れがあります。

▷ バッテリ液がこぼれるので、バッテリを傾けないでください。

バッテリの取外し

バッテリはフロント・トランク・ルーム下の黒いカバーの中にあります。

1. 全てのアクセサリをOFFにしてください。
2. プラスチック製の黒いカバーを取外す前に、ターン・ロック**A**を解除してください。
3. ガス抜きホース**C**を引抜いてください。
4. マイナス・ケーブルを先に切離し、次にプラス・ケーブルを切離します。
   ショートする危険があります。
5. ナット**B**を緩めます。
6. バッテリを取外します。

バッテリの取付け

1. バッテリを取付けます。
2. ナットBを取付け、締付けます。
3. プラス・ケーブルを先に接続し、次にマイナス・ケーブルを接続します。
   ショートする危険があります。
4. ガス抜きホースCを押込みます。
5. プラスチック製の黒いカバーを取付け、ターン・ロックAをロックします。

リモート・コントロール用バッテリの交換

電池の残りが少なくなってくると、リモート・コントロールの作動する距離が短くなったり、リモート・コントロールを操作しても発光ダイオードが点滅しなくなります。

1. 小さなドライバーなどを使って、キー・グリップのカバーを注意して持ち上げます。(**矢印**)
2. 電池を交換します（電極の向きに注意してください)。
   電池（Lithium CR 2032、3V）は最寄りのポルシェ正規販売店でお求めいただけます。
3. カバーを元通りにして、しっかりとはめ合わせます。

   古い電池を捨てる場合は、環境保護の基準に従ってください。

ジャンパー・ケーブルによる始動

▷ 「フロント・トランク・リッドの非常時ロック解除」(200ページ) を参照してください。

▷ 「バッテリ」(201ページ) を参照してください。

冬季にバッテリ容量が不足したり、長い間車を運転せずに放置していたためにエンジンを始動できない場合は、他の車のバッテリを補助として使用することができます。この場合にはジャンパー・ケーブルが必要となります。以下の注意を守ってください。
同一電圧（12V）のバッテリを使用してください。供給側のバッテリの容量（Ah）が、バッテリが上がった車のバッテリの容量に比べ低すぎないでください。
ジャンパー・ケーブルは確実に接続してください。

⚠ 警 告

ショートして怪我および損傷をする危険があります。

▷ 使用するジャンパー・ケーブルは十分な断面積を持ち、絶縁端子クリップで接続してあるものに限ります。必ずメーカーの取扱説明書を読んでください。

▷ エンジン内の作動部に絡まないようにジャンパー・ケーブルを通してください。車両同士を接触させないでください。プラス端子が接続されて電流が流れ、ショートする危険性があります。

▷ 指輪、ネックレス、時計バンドなど、電気を通す装飾品が通電部に触れないように注意してください。

漏れたバッテリ液に触れる危険があります。

▷ バッテリを傾けないようにしてください。

爆発の危険があります。

▷ タバコの火、電気配線や溶接による火花等をバッテリに近付けないでください。

▷ ジャンパー・ケーブルを接続する前に、凍結したバッテリーは解凍してください。

ジャンパ・ワイヤーの接続

下記の手順に従ってください。

1. **プラス側の赤いケーブル**をまずジャンプ・スタートするバッテリのプラス端子に接続し、次に支援車のバッテリのプラス端子（＋）に接続します。
2. **マイナス側の黒いケーブル**を支援車のバッテリのマイナス端子に接続し、次にジャンプ・スタートする車両の適切なアース箇所（―）に接続します。
アース箇所はできるだけバッテリから離れた位置に確保してください。
例えば、車体金属部やエンジン・ブロックなどが適切なアース箇所です。

どちらの車両にも適切なアース箇所が見つからない場合は、マイナス側のケーブルを直接バッテリのマイナス端子に慎重に接続してください。

支援車のみ適切なアース箇所が見つかった場合は、マイナス側のケーブルをまずジャンプ・スタートするバッテリの端子に接続し、次に支援車のアース箇所に接続します。

3. 支援車のエンジンを始動し、高回転にします。
4. エンジンを始動します。ジャンパ・ワイヤー使用による始動時は、スタータを15秒以上作動させないでください。始動に失敗したときは、1分以上待ってから再試行してください。
5. **知識：**

   ジャンパ・ワイヤーを取外す前に、リア・ウィンドウ・ヒータやヒータのブロワ・ファンなどの電気系統のスイッチを入れてください。（ただし、ライト類は**作動させないでください**。）これにより、ジャンパ・ワイヤーを外すときの電圧ピークが低減されます。

   エンジンを作動させたまま、接続時とは逆の順序で両方のジャンパ・ワイヤーを取外します。

バルブ・リスト

	型, 容量
ロービーム (ハロゲン・ヘッドランプ)	H7, 55W
ロービーム (バイ・キセノン・ヘッドランプ)	フィリップス, D2S 35W
ハイビーム (ハロゲン・ヘッドランプ)	H9, 65W
サブ・ハイビーム (バイ・キセノン・ヘッドランプ)	H11, 55W
フォグランプ	H8, 35W
テールランプ、リア・フォグランプ	P21/4W
ブレーキ／テールランプ	P21/4W
テールランプ、リフレクタ	P21/5W
後退灯	P21W
方向指示灯（フロント／リア）	LL PY21W（ロング・ライフ）
ドア・ガード／足元照明灯／ トランク・ルーム・ランプ	W5W
車幅灯（フロント）	W5W BV
ライセンス・ランプ	C5W

バルブの交換

⚠ 警 告

回路がショートする恐れがあります。

▷ バルブを交換するときは、必ず電装関係のスイッチをOFFにしてください。

感電して致命的な怪我をする恐れがあります。

▷ バイ・キセノン・ヘッドランプは高電圧を発生させるため、周辺で作業するときは十分注意してください。

容量の大きいバルブを使用するとランプ・ハウジングが損傷します。

▷ リストに示したバルブのみを使用してください。

▷ 新しいバルブに汚れやグリースが付かないようにしてください。

▷ バルブはきれいな布かやわらかい紙で包んで持ち、手が触れないようにしてください。手で触れると油などがバルブに付着しバルブの寿命が短くなります。

▷ 安全のため必ず車内にいくつか予備用バルブを用意し、どのバルブが切れても直ちに新しいものと取替えられるようにしてください。

ヘッドランプ

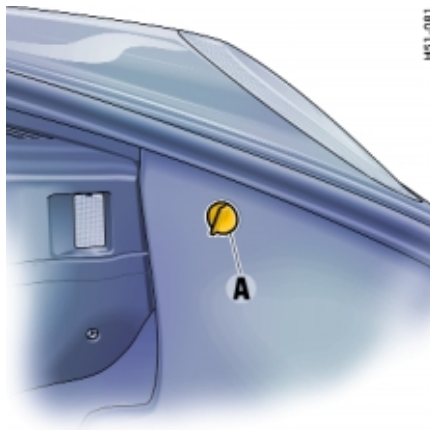
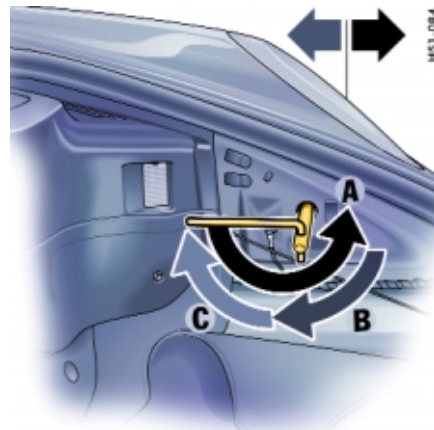
⚠ 注 意

高温になって損傷することがあります。

▷ ヘッドランプにカバー（フィルム、ストーン・ガードなど）をしないでください。

知識：

高温になって損傷することがあります。ヘッドランプが曇るのを防止するため、ヘッドランプとボディ間の隙間を覆わないでください。

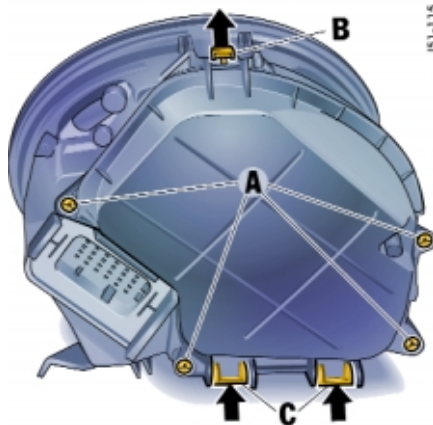
▷ ヘッドランプにカバー（フィルム、ストーン・ガードなど）をしないでください。

取外し

1. サイド・クロスを取外します。プラスチック製ナット**A**を取外します。

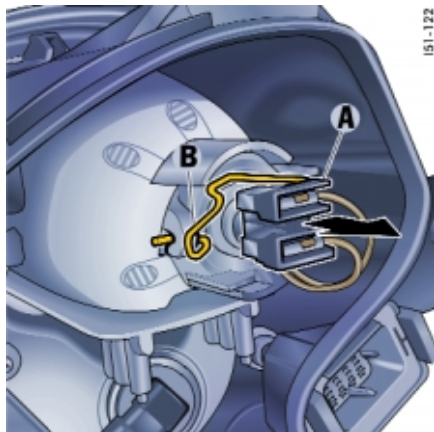
2. ロック解除用の穴のラバー・プラグを取外します。
3. 工具セットのレンチをスピンドルにあてます。

   レンチの先が後方へ水平になるようにします。
4. レンチを約180° **A**方向へ回転させ、そのままの位置に保ちます。ヘッドランプのロックが解除され、わずかに押し出されます。
5. レンチを約90° **B**方向に下げます。
6. この状態でヘッドランプのロックは解除されているので、前方へ引いてフェンダから取外すことができます。

取付け

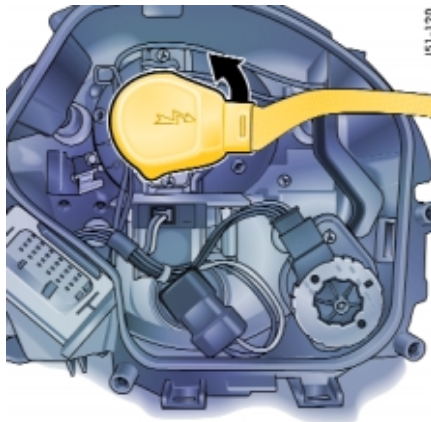
1. ヘッドランプ・ハウジングをガイド・レールに挿入し、フェンダに一杯まで押込みます。
2. ヘッドランプを後方へ押すと同時にレンチを後方へ水平になるように**C**の位置まで回します。ヘッドランプのロックがはまったときは、感触と音で分ります。
3. ロック解除用のすき間にラバー・プラグを取付け、サイド・クロスを固定します。
   全てのランプの機能を点検します。

ロービーム、ハイビーム、パッシング

ヘッドランプ・ハウジングのカバーの開き方

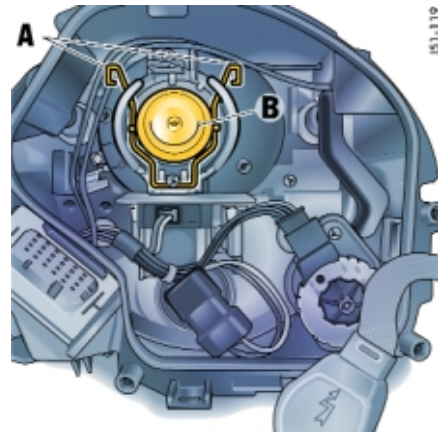
1. ボルト**A**（4本）を取外します。
2. リリース・タブ**B**を押し上げ、次にリリース・タブ**C**を両方とも押し上げて、カバーを取外します。

ハロゲン・ヘッドランプ

ロービーム

1. プラグ**A**を引き抜きます。
2. クランプ・リング**B**を外します。
3. バルブを取出し交換します。

   交換したバルブが正しく取付けられていることを確認してください。
4. 逆の手順で元通りにします。

バイ・キセノン・ヘッドランプ

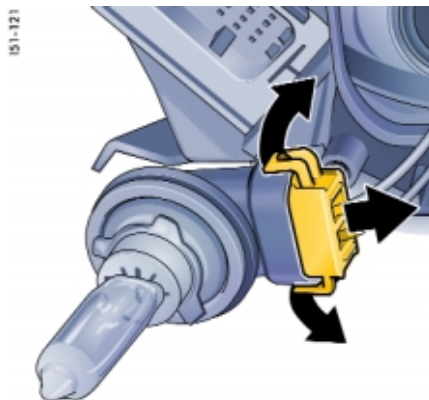
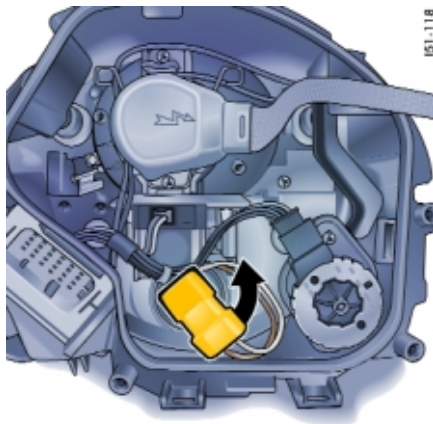
ロービーム、ハイビーム

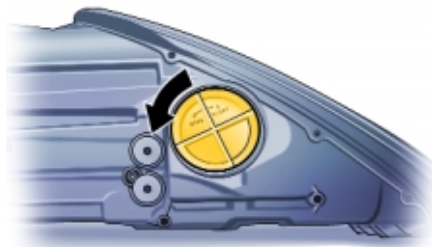
1. プラグを反時計回りに回転させ（差込み式ロック）、引き抜きます。
2. クランプ・リング**A**を両方とも外します。
3. バルブ**B**を取出し交換します。

   交換したバルブが正しく取付けられていることを確認してください。
4. クランプ・リング**A**を両方ともはめ込み、プラグを押込みながら止まるまで回します。

サブ・ハイビーム
(バイ・キセノン・ヘッドランプ)

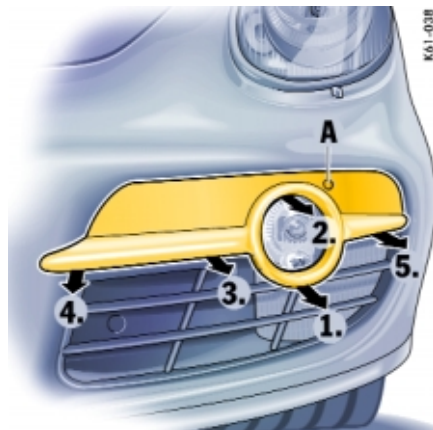
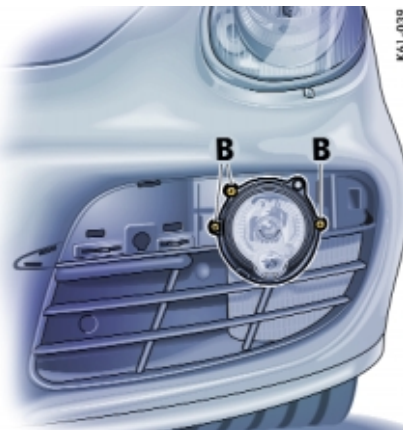
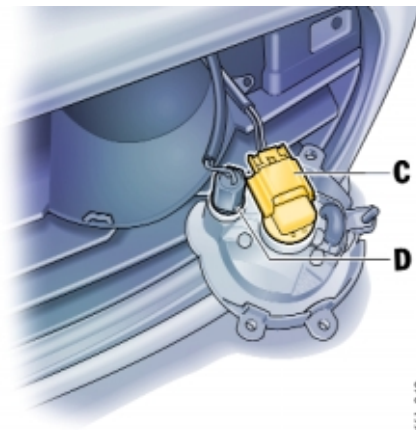
1. 左側ヘッドランプのバルブ・ホルダは反時計回りに回転させ、右側ヘッドランプのバルブ・ホルダは時計回りに回転させます。

   バルブ・ホルダをヘッドランプ・ハウジングから取外します。

2. 双方のプラグ・リリース・タブを引き、プラグをバルブ・ホルダより引抜きます。
3. バルブをバルブ・ホルダごと交換します。
4. 逆の手順で元通りにします。

カバーの閉じ方

1. カチッと音がするまでカバーを閉めます。
2. 4本のネジを止めます。

方向指示灯

バルブ交換

1. 方向指示灯のリッドを反時計回りに回転させ、ヘッドランプ・ハウジングから取出します。
2. バルブ・ホルダを反時計回りに回転させて引き抜きます（差込み式ロック）。
3. バルブを交換します（差込みソケット式）。
4. バルブ・ホルダを元に戻します。
5. リッドを取付けます。

A - *フォグランプ高さ調整用*

B - *取付けスクリュ*

C - *フォグランプ*
D - *車幅灯*

フォグランプ、車幅灯

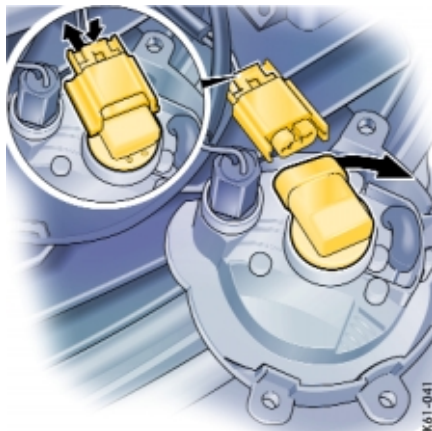
フォグランプ・カバーには、いくつものクリップがあります。取外し時にクリップを破損しないように注意してください。

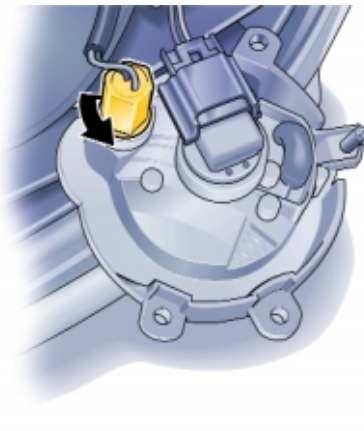
フォグランプが切れた場合は、ポルシェ正規販売店での交換をお勧め致します。

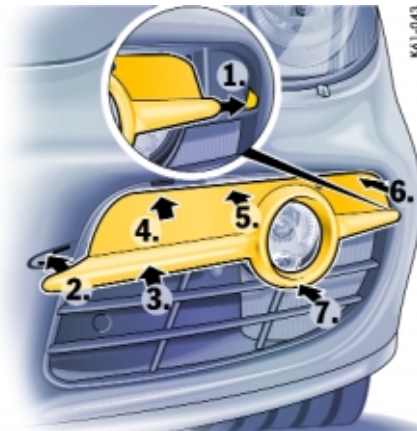
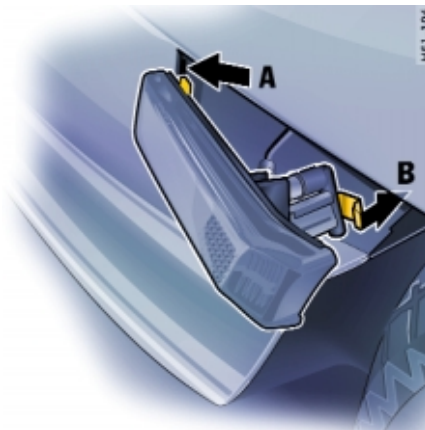
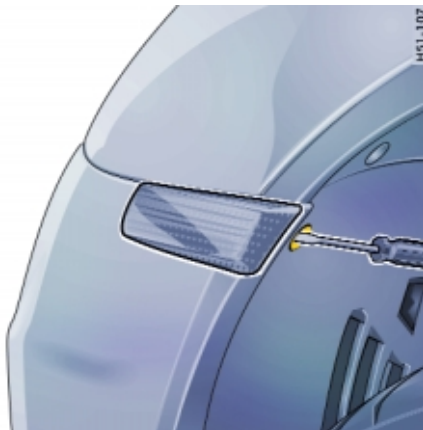
ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

1. 両手でフォグランプ・カバーのクリップを外します。

   フォグランプの下側から外し、車両の中央に向って取外します。

2. 3個のスクリュ**B**を緩め、フォグランプ、ハウジングを取外します。

フォグランプのバルブ交換

3. プラグのリリース・タブ（**矢印**）を押して、プラグを取外します。
4. バルブ・ホルダを時計回りに回して（差込み式ロック）、ホルダを取外します。
5. 新品のバルブに交換します。
6. バルブ・ホルダをはめ込み、反時計回りに回します。
7. プラグを確実にはめ込みます。

車幅灯のバルブ交換

8. バルブ・ホルダを反時計回りに回して（差込み式ロック）、ホルダを取外します。
9. 新品のバルブに交換します。
10. バルブ・ホルダをはめ込み、時計回りに回します。
11. フォグランプ・ハウジングをはめ込み、3個のスクリュ**B**で締めます。
12. フォグランプ・カバーを横の切欠**1**に入れてから**2**から**7**まで順にクリップを押して、はめ込みます。

    カバーが確実にはめ込まれていることを確認してください。
13. ランプの作動を点検します。

方向指示灯（サイド）

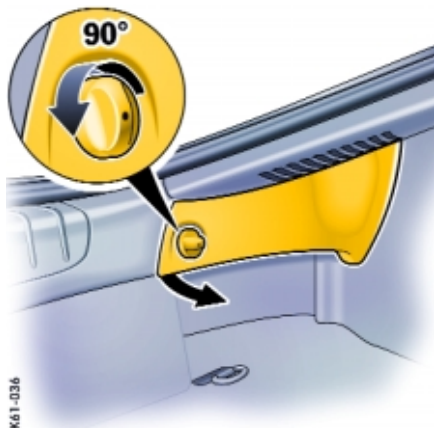
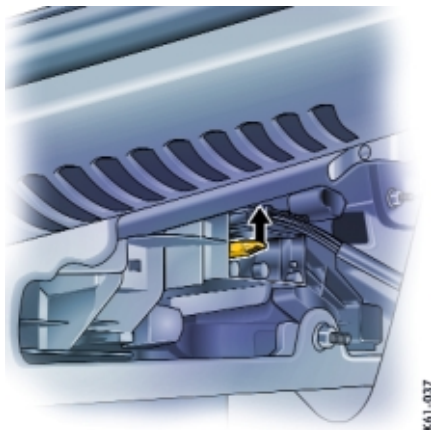
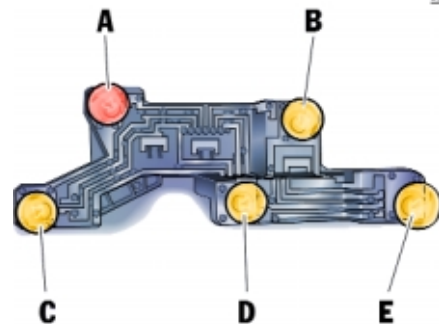
バルブ交換

1. ドライバーを使用して、ホイール・ハウス・ライナーからキャップを取外します。
2. ドライバーをホイール・ハウス・ライナーから直角に方向指示灯のハウジングに挿入します。
   ドライバーで押して、方向指示灯ハウジングの固定スプリング**B**を外します。
3. 方向指示灯を取外し、バルブ・ホルダを外します。（差込みロック式）
4. バルブをホルダから取外し、新しいバルブと交換します。ホルダを挿入します。
5. 方向指示灯のリテーニング・ラグ**A**をフェンダの前から挿入します。固定スプリング**B**をはめます。
6. ホイール・ハウス・ライナーにキャップを取付けます。ランプの作動を点検します。

テールランプ（左側）

テールランプ

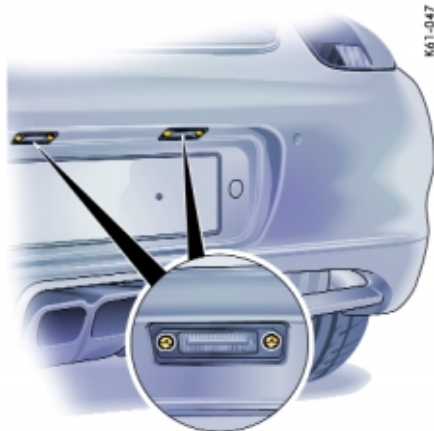
バルブ交換

1. テールランプ・カバーのロックを約90°回してカバーを取外します。

2. ランプ・ブラケットのマウントを上（矢印）に押し、バルブ・ホルダを取外します。

A - *方向指示灯*
B - *後退灯*
C - *リア・フォグランプ、リア・ランプ*
D - *テールランプ*
E - *ブレーキ灯、リア・ランプ*

3. バルブを交換します。（差込みソケット式）
4. 逆の手順でランプを元通りにします。ランプの作動を点検します。

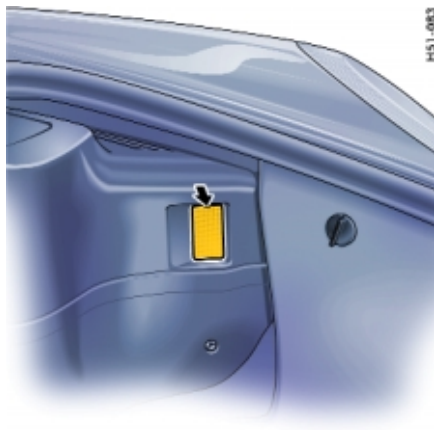
ライセンス・ランプ

バルブ交換

1. 両方のスクリュー**A**をゆるめ、ランプを取外します。
2. バルブをスプリング接点から取外し、交換します。
3. 逆の手順でランプを元通りにします。ランプの作動を点検します。

ハイマウント・ブレーキ・ランプ

ハイマウント・ブレーキ・ランプの発光ダイオードはお客様が交換することはできません。

▷ ブレーキ・ランプが切れた場合は、ポルシェ正規販売店で交換してください。

この作業はポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ラゲッジ・ルーム・ランプ／リア・リッド・ランプ／フットウェル・ランプ

バルブ交換

1. ドライバーを慎重にあてて（**矢印**）、ランプを内張りから押出します。
2. バルブをスプリング接点から外し、新しいバルブを取付けます。
3. まず片側をランプ用の穴にいれ、次にもう一方を入れて押込みます。点灯するか確認してください。

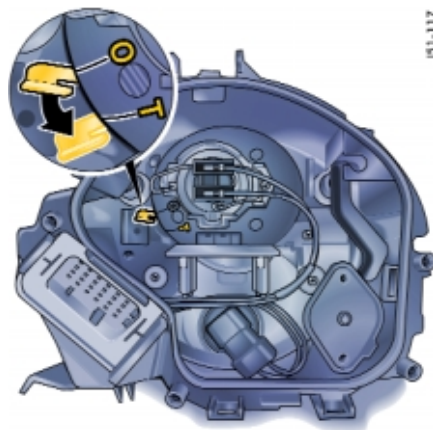
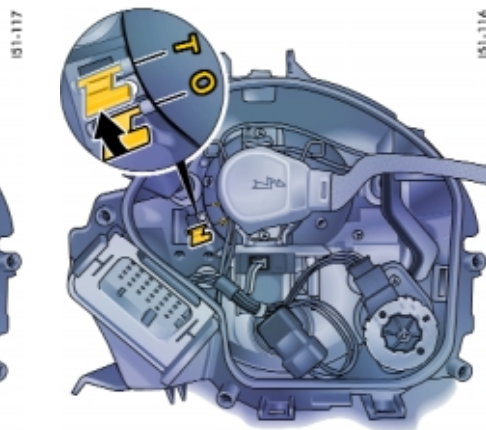
ドア・ガード／足元照明

バルブ交換

1. ドライバーを使用して、慎重にランプ（**矢印**）を押し、取外します。
2. バルブ・ホルダをランプ・ハウジングから引き外します。バルブを取出し、交換します。
3. バルブ・ホルダを取付け、ランプを挿入します。

左側通行から右側通行への変更に伴うヘッドランプの切換え

車両通行帯の異なる国で走行する場合は、ヘッドランプの位置の調節をしてください。
ロービームを左右対称にして、対向車のドライバーの視界を妨げないようにしてください。

車両通行帯の異なる国から帰ってきたとき、ヘッドランプを **“0”** 位置に戻すのを忘れないでください。

ハロゲン・ヘッドランプ

バイキセノン・ヘッドランプ

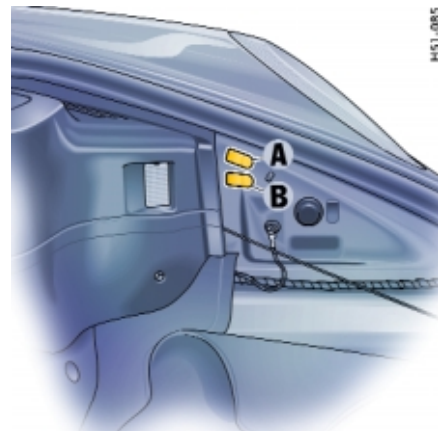
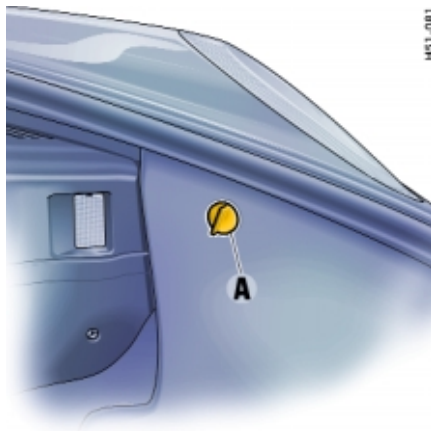
ヘッドランプの再調節

1. ヘッドランプを取外し、ヘッドランプのハウジング・リッドを開けます。
   「ヘッドランプ」（209ページ）を参照してください。
2. レバーを **“T”** 位置にセットします。
3. ヘッドランプのハウジング・リッドを閉じて、ヘッドランプを調整します。
4. もう一方のヘッドランプも調節します。

ヘッドランプ調整

ヘッドランプの調整は、専用の調整装置のある専門の修理工場で行わなければなりません。調整は車両を走行中と同じ状態にして、燃料タンクを満タンにして行います。

▷ タイヤは規定の空気圧に調整します。「テクニカル・データ」（228ページ）を参照してください。

▷ 運転席には人が乗るか、75kgのおもりを載せます。この状態で車両を2、3m動かし、サスペンションのバネを安定させてください。

A+B - ヘッドランプの横方向の調整
B - ヘッドランプの高さ調整

調整ネジ

1. ドライバーでプラスチック製ナット**A**を取外し、サイド・クロスを外します。
2. 調整ネジのカバーを開きます。
3. 六角ソケット・スクリューを左右に回して調整します。

けん引およびけん引による始動

⚠ **警　告**

エンジンがかかっていないとサーボが働かず、ブレーキやステアリングが大変重くなるため事故を起こす恐れがあります。また、ABSやPSMも作動しません。

▷ 必ずけん引に関する法律を守ってください。

▷ けん引される車はイグニッション・スイッチをONにして、ブレーキ・ランプや方向指示灯が機能し、ステアリング・ロックが解除されるようにしてください。

▷ けん引中は常にけん引ロープをたるませないようにし、ロープに急激な衝撃などがかからないようにしてください。

▷ お車より車両重量の大きい車はけん引しないでください。

⚠ **注　意**

一般の乗用車に比べて地上高が低くなっていますので、車体下部を損傷する恐れがあります。

▷ 地上高が低くなっていますので、けん引時または他の車にけん引されているときは、十分に注意してください。

けん引による始動

バッテリに不具合があるとき、あるいはバッテリが完全に上がってしまった場合には、バッテリを交換するかジャンパー・ケーブルを使ってエンジンを始動させてください。それ以外の方法では始動できません。

▷ 「ジャンパー・ケーブルによる始動」（206ページ）を参照してください。

触媒コンバータ装備車は、エンジンが冷えている場合に限りけん引始動できます。エンジンが熱いと、燃焼していないガソリンによって触媒コンバータが損傷します。

ティプトロニック車

「ティプトロニック」車はけん引始動をする事ができません。

けん引始動を試みると、トランスミッションが損傷する恐れがあります。

けん引

ティプトロニック車のけん引

ティプトロニック車をけん引する場合は、トランスミッションの損傷を避けるため、以下のことを守ってください。

▷ セレクタ・レバー・ポジションは **“N”** レンジにしてください。

▷ けん引されるときの速度は50km/h以下にしてください。けん引距離は50km以内にしてください。50kmを超える場合は、リア・アクスルを上げてけん引するか、車両輸送専用車を使用してください。

PSM装着車のけん引

フロント・アクスルを上げてけん引する場合は、イグニッション・スイッチをOFFにしてください。

けん引フックの取付け

けん引フックはトランク・ルーム内の工具セットの中にあります。

1. プラスチック・カバーの下端をバンパー内に押込んでカバーを外します。
2. カバーをバンパーから引出し、カバーに付いているひもで吊下げられた状態にします。
3. けん引フックを奥までねじ込みます。

けん引フックの取外し

1. けん引フックを外します。
2. 開口部の下端にプラスチック・カバーを差込みます。
3. カバーをかぶせ、上端を押してバンパーにはめ込みます。

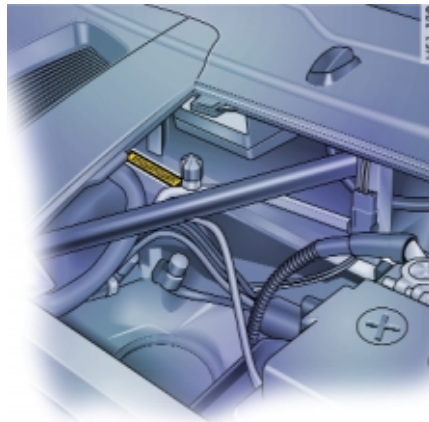
テクニカル・データ

車両の識別

▷ スペア・パーツの注文や問い合わせをする場合は、必ず車体番号を明示してください。

データ・バンク

お車の大切な情報が記載されているデータ・バンク・プレートは、整備手帳の中に添付されています。

知識：
データ・バンクは紛失したり、破損しても再注文することは出来ません。

車体番号

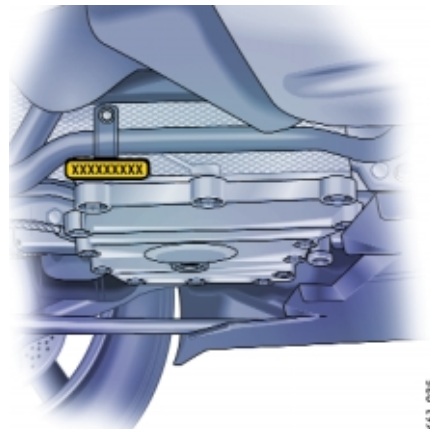
車体番号は、フロント・トランク・ルーム内のバッテリ・カバーの下と、フロント・ウィンドウ枠の左下に刻印されています。

▷ 「バッテリの取外し」（204ページ）を参照してください。

ビークル・プレート＊

お車を識別するビークル・プレートは、右側ドア開口部に貼られています。

タイヤ空気圧プレート

タイヤ空気圧プレートは運転席ドア開口部に貼られています。

エンジン番号

エンジン番号はクランクケースの下側に刻印されています。

＊日本仕様に設定はありません。

テクニカル・データ
エンジン・データ

エンジン型式	M97/21
エンジン・タイプ	水平対向、水冷式
マウント方式	ミッド・シップ
シリンダ数	6
ボア	96 mm
ストローク	78 mm
総排気量	3387 cm^3
最高エンジン出力/エンジン回転数	217 kW（295 HP）/6250 rpm
最大エンジン・トルク/エンジン回転数	340 Nm/4400-6000 rpm
エンジン・オイル消費量	最大1.5 ℓ/1000 km
最高回転数	7300 rpm
ジェネレータ出力	2100 W
点火順序	1―6―2―4―3―5
エンジン・コントロール	DME（ダイレクト・イグニッション）、シーケンシャル・インジェクション、シリンダー・セレクティブ・ノック・コントロール、O2センサ、診断システム、4オーバーヘッド・カムシャフト、ポルシェ・バリオカム・プラス、油圧バルブ・クリアランス・コントロール

トランスミッション

ギヤ比	6速マニュアル・トランスミッション	ティプトロニックS
1stギヤ	3.31：1	3.66：1
2ndギヤ	1.95：1	2.00：1
3rdギヤ	1.41：1	1.41：1
4thギヤ	1.13：1	1.00：1
5thギヤ	0.97：1	0.74：1
6thギヤ	0.82：1	—
リバース	3.00：1	4.10：1
最終減速比	3.88：1	4.16：1

動力性能[1)]

	マニュアル・トランスミッション	ティプトロニックS
最高速度	275 km/h	267 km/h
0～100 km/h発進加速	5.4秒	6.1秒

[1)] DIN規格による空車重量、および積載条件による。動力性能を損なう付加装置は使用せず。（例：特殊タイヤ）

燃費

最新の80／1268／EECの基準に従って測定されています。

	エンジン形式	市街地走行（ℓ/100 km）	ハイウェイ走行（ℓ/100 km）	平均（ℓ/100 km）	CO_2排出量（g/km）
6速マニュアル・トランスミッション	M97／21	15.3	7.8	10.6	254
ティプトロニックS	M97／21	16.3	7.9	11.0	262

タイヤ、ホイール、トレッド

		タイヤ	ホイール	リム･オフセット	トレッド
サマー・タイヤ	前輪	235/40ZR18(91Y)	8J×18H2	57 mm	1486 mm
	後輪	265/40ZR18 (101Y) XL	9J×18H2	43 mm	1528 mm
または	前輪	235/35ZR19 (87Y)	8J×19H2	57 mm	1486 mm
	後輪	265/35ZR19 (94Y)	9.5J×19H2	46 mm	1522 mm
ウィンター・タイヤ	前輪	235/40R18 91V	8J×18H2	57 mm	1486 mm
	後輪	255/40R18 95V[1)]	9J×18H2	43 mm	1528 mm

日本仕様と異なることがあります。
タイヤには積載容量係数（91）と記号文字（V）以上の性能のものを使用してください。
新しいタイヤを装着するときおよびタイヤを交換する場合は､「タイヤとホイール」（185ページ）を参照してください。

タイヤ／ホイール

指定のタイヤとホイールのサイズは広範囲のテストを元に認可されているものです。サイズの指定タイヤ、ホイールについてはポルシェ正規販売店までお問い合わせください。
認可されていないタイヤ／ホイールを使用されますと、走行に危険性が生じ事故を起こす恐れがあるため十分注意してください。

スノー・チェーン

スノー・チェーンのクリアランスは、[1)] のタイヤとリムの組合わせ（スペーサなし）の場合のみ保証されます。

チェーンは後輪にのみ装着できます。チェーン装着時は50 km/h以下で走行してください。ポルシェ社の認可したファインリンク・クロスタイプ・スノー・チェーンのみをご使用ください。

冷間時のタイヤ空気圧

サマーおよびウィンター・タイヤ

18インチタイヤ	前輪	2.0 bar
	後輪	2.5 bar
19インチタイヤ	前輪	2.2 bar
	後輪	2.5 bar

これらのタイヤ空気圧はポルシェ社が認可したタイヤのみに適用します。

▷ 「タイヤとホイール」（185ページ）を参照してください。
▷ 「TPMタイヤ空気圧モニタリング・システム」（91ページ）を参照してください。

容量

ポルシェ社指定のオイルおよび燃料のみを使用してください。
詳しくは、ポルシェ正規販売店でお尋ねください。オイルと燃料への添加剤は不要です。

エンジン	オイル交換（フィルタなし）：約7.5リットル
	オイル交換（フィルタあり）：約7.75リットル
	「エンジン・オイル」（163ページ）を参照してください。
クーラント	マニュアル・トランスミッション：約22.3リットル
	ティプトロニック：約24.3リットル
マニュアル・トランスミッションとディファレンシャル	約2.8リットル
ティプトロニックS	約9.5リットル
ティプトロニックS付きディファレンシャル	約0.8リットル
燃料タンク	約64リットル（予備用約10リットルも含む）
燃料オクタン価	エンジンは**無鉛プレミアム・ガソリン（98RON／88MON）**使用の場合に、最適性能と燃費を達成するように設計されています。
	95RON／85MONのオクタン価の無鉛プレミアム・ガソリンが使用された場合には、エンジンのノック・コントロール・システムが自動的に点火時期を調節します。
パワー・ステアリング	約1リットル、ハイドロリック・フルード・ペントシンCHF11SまたはペントシンCHF202S
ブレーキ液タンク	約0.39リットル、ポルシェ純正または同等の品質のブレーキ液のみをご使用ください。
ウォッシャ液タンク	約2.5リットル（ヘッドランプ・ウォッシャ無）
	約6.0リットル（ヘッドランプ・ウォッシャ付）

車両重量（メーカー発表値）

空車重量（装備により異なります。）

	マニュアル・トランスミッション	ティプトロニックS
DIN規格空車重量（DIN70020）	1340～1430 kg	1380～1470 kg
70／156／EEC[1]空車重量	1415～1505 kg	1455～1545 kg
最大総重量	1630 kg	1670 kg
軸荷重、フロント[2]	775 kg	775 kg
軸荷重、リア[2]	940 kg	940 kg
最大ルーフ積載荷重	60 kg	60 kg

[1] 空車重量には運転者1名分（75 kg）の重量が含まれています。
[2] 最大総重量を超えないようにしてください。
参考：追加アクセサリなどが装備されている場合は、それに応じて積載重量が減少します。

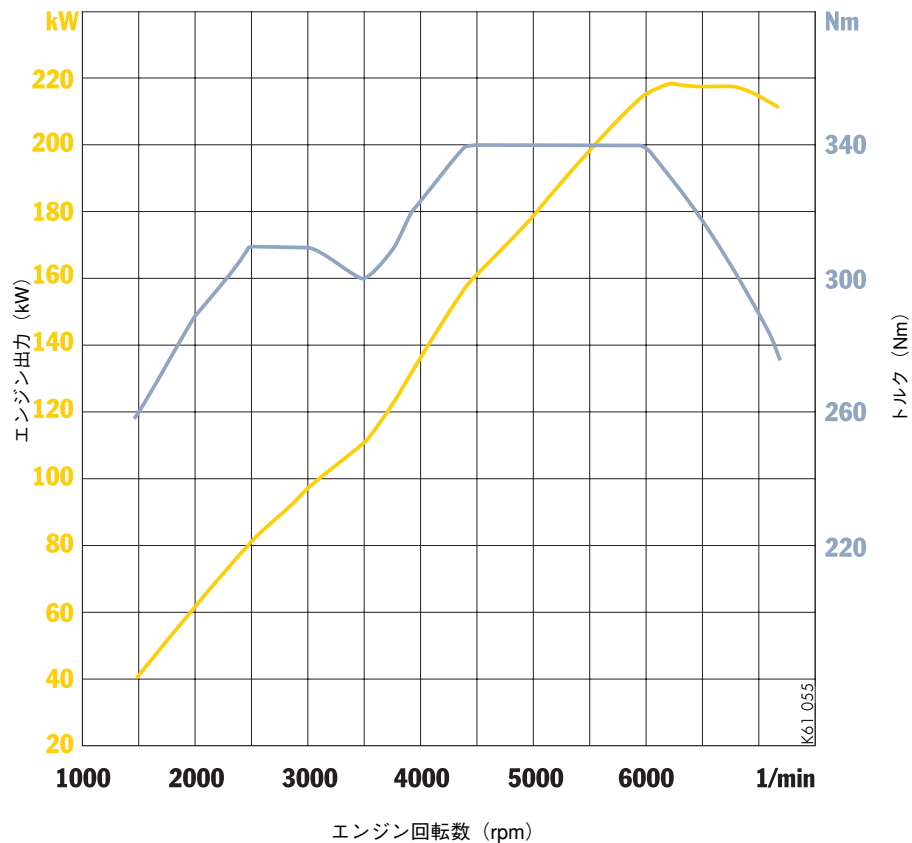
車両寸法（メーカー発表値）

		PASM（ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント）装着車
全長	4341 mm	
全幅	1801 mm	
全幅（ドア・ミラー含む）	1937 mm	
車高	1305 mm	1296 mm
ホイールベース	2415 mm	
最低地上高	104 mm	100 mm
最小回転直径	11.1 m	

ダイアグラム

加速性能曲線

車両はDIN規格による空車重量、および追加装備のない50%の積載条件によります。

エンジン性能曲線図

加速性能曲線図　　マニュアル・トランスミッション

さく引

あ

い

う

え

お

か

す

せ

そ

た

ち

て

と

な

ね

は

ひ

り

る

れ

ろ

わ

● 車両の仕様およびオプションの変更により、この取扱説明書の内容の一部が車両と一致しない場合があります。
● 説明図は一部日本仕様と異なる点があります。
● この取扱説明書に関してのお問い合わせは下記までお願い致します。

ポルシェ ジャパン株式会社　アフターセールス部

〒153-0064
東京都目黒区下目黒1-8-1
アルコタワー16F

車両受領証
（販売店で保管）

VIN：車両識別ナンバー	
エンジンナンバー	

上記車両については、取扱説明書および整備手帳に記載されている車両の取扱い、および保証内容、並びに納車点検内容の説明を受け了承の上、車両およびツールキットを完全な状態で受領しました。

販売店スタンプ

日時

お客様の署名